

科目名	教育学原論 (FC000100)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション - 教職の社会的意義や課題を考察し、あわせてその魅力についてへ解説する。課題1「なぜ人間には教育が必要なのか」を課す。
2回	教育の本質と目的 - 教育の語源的考察から「教育」という語の意味と概念を概説する。
3回	教育の必要性と可能性 - 人間の発達特性の観点から人間にとってなぜ教育は必要かを概説する。課題2「大教育思想家の教育論調べ」を課す。
4回	教育の思想1) 授業の前半では「教」重視 (= 知識伝達) の教育思想家 (クリーク、デュルケムetc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。後半では「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家 (ルソー、ペスタロッチetc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
5回	教育の思想2) 授業の前半では「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家の教育論の続きを整理し概説する。後半では「教」と「育」の統合的教育思想 (デューイ、シュプランガー) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
6回	授業の前半で確認テスト1を行う。後半は西欧における教育の歴史1) - 古代ギリシャからルネサンス期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
7回	西欧における教育の歴史2) - 近代の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。課題3「西洋教育史の重要人物調べ」を課す。
8回	西欧における教育の歴史3) - 新教育運動期の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
9回	日本の教育の歴史1) - 古代律令国家から明治維新时期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
10回	日本の教育の歴史2) - 明治維新から昭和の戦前期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
11回	日本の教育の歴史3) - 戦後改革から今日まで、社会が教育に要請する課題の変遷を加味しながら、新旧の教育基本法の内容を吟味していく。課題4「日本教育史の重要人物調べ」を課す。
12回	教育の内容1) - 教育課程に関する理論と法制を概説する。
13回	教育の内容2) - 学習指導要領の変遷を概説する。
14回	授業の前半で確認テスト2を行う。後半では第6回から11回までの授業を振り返り、近代公教育の理念と制度化過程について概説する。
15回	確認テスト2の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。本講座の締めくくりとして、現代における教育課題と公教育の役割について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】自分にとって教育とは何であったかを考えておくこと (標準学習時間60分)。 【課題学習】教科書の該当部分を読み課題に解答すること。(標準学習時間60分)
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当部分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること (標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当部分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。

	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
6回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
11回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること（標準学習時間120分）。
12回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
13回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
14回	【予習】試験の準備をしておくこと（標準学習時間90分）。教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間30分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
15回	【予習】確認テスト2の試験範囲の教科書の該当部分を再度読んでおくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教職専門科目群の中の中心的科目である本科目においては、今日の学校教育を成り立たしめている事柄についての基礎的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、人間にとっての教育の必要性や教育の本質についての思想や理論を概観した上で、義務教育制度の成立と発展という観点から、学校教育の理念や目標、教育内容と方法に関する諸理論、学校の管理や運営、教員の本務等を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	1) 人間にとってなぜ教育が必要であるかについて、子どもの発達課程に即し、家庭や社会とのかかわりを含めて理解し説明できる。(B,E) 2) 教育思想には、文化遺産の伝達(=「教」)を重視する考えと、子どもの自己発展(=「育」)を重視する立場の2つの流れがあることが理解し説明できる。(B) 3) 西洋と日本における教育の歴史の大まかな流れを、教育目的観の変遷に沿って把握し説明できる。(B) 4) 近代公教育を支える理念とその制度化の過程及び今日の学校教育の基本的な事柄について、学校と教員の服務を中心に把握し説明できる。(B) 5) カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握し説明できる。(G)
キーワード	理想的人間像、教育目的、教育内容、教育方法、教育評価、近代公教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出等の評価20%(達成目標1,2,3,4)と確認テスト1の得点30%(達成目標1,2)と確認テスト2の得点50%(達成目標3,4,5)をあわせて評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比兒・皿田琢司編 / 大学教育出版 / 9784864293709
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：B8号館4階 曾我研究室、直通電話：086-256-9447、E-mail:soga@das.ous.ac.jp、オフィスアワー：月～金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員としての必要最小限の教職教養を習得させることを目指す。

	また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第6回と14回で実施する確認テストについては第7回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育学原論 (FC000110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	曾我雅比兒 (そがまさひこ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション - 教職の社会的意義や課題を考察し、あわせてその魅力についてへ解説する。課題1「なぜ人間には教育が必要なのか」を課す。
2回	教育の本質と目的 - 教育の語源的考察から「教育」という語の意味と概念を概説する。
3回	教育の必要性と可能性 - 人間の発達特性の観点から人間にとってなぜ教育は必要かを概説する。課題2「大教育思想家の教育論調べ」を課す。
4回	教育の思想1) 授業の前半では「教」重視 (= 知識伝達) の教育思想家 (クリーク、デュルケムetc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。後半では「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家 (ルソー、ペスタロッチetc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
5回	教育の思想2) 授業の前半では「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家の教育論の続きを整理し概説する。後半では「教」と「育」の統合的教育思想 (デューイ、シュプランガー) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
6回	授業の前半で確認テスト1を行う。後半は西欧における教育の歴史1) - 古代ギリシャからルネサンス期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
7回	西欧における教育の歴史2) - 近代の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。課題3「西洋教育史の重要人物調べ」を課す。
8回	西欧における教育の歴史3) - 新教育運動期の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
9回	日本の教育の歴史1) - 古代律令国家から明治維新时期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
10回	日本の教育の歴史2) - 明治維新から昭和の戦前期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
11回	日本の教育の歴史3) - 戦後改革から今日まで、社会が教育に要請する課題の変遷を加味しながら、新旧の教育基本法の内容を吟味していく。課題4「日本教育史の重要人物調べ」を課す。
12回	教育の内容1) - 教育課程に関する理論と法制を概説する。
13回	教育の内容2) - 学習指導要領の変遷を概説する。
14回	授業の前半で確認テスト2を行う。後半では第6回から11回までの授業を振り返り、近代公教育の理念と制度化過程について概説する。
15回	確認テスト2の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。本講座の締めくくりとして、現代における教育課題と公教育の役割について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】自分にとって教育とは何であったかを考えておくこと (標準学習時間60分)。 【課題学習】教科書の該当部分を読み課題に解答すること。(標準学習時間60分)
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当部分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること (標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当部分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと (標準学習時間60分)。

	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
6回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
11回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【課題】課題の調査を行い、レポートにまとめること（標準学習時間120分）。
12回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
13回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
14回	【予習】試験の準備をしておくこと（標準学習時間90分）。教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間30分）。
	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
15回	【予習】確認テスト2の試験範囲の教科書の該当部分を再度読んでおくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教職専門科目群の中の中心的科目である本科目においては、今日の学校教育を成り立たしめている事柄についての基礎的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、人間にとっての教育の必要性や教育の本質についての思想や理論を概観した上で、義務教育制度の成立と発展という観点から、学校教育の理念や目標、教育内容と方法に関する諸理論、学校の管理や運営、教員の本務等を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	1) 人間にとってなぜ教育が必要であるかについて、子どもの発達課程に即し、家庭や社会とのかかわりを含めて理解し説明できる。(B,E) 2) 教育思想には、文化遺産の伝達(=「教」)を重視する考えと、子どもの自己発展(=「育」)を重視する立場の2つの流れがあることが理解し説明できる。(B) 3) 西洋と日本における教育の歴史の大まかな流れを、教育目的観の変遷に沿って把握し説明できる。(B) 4) 近代公教育を支える理念とその制度化の過程及び今日の学校教育の基本的な事柄について、学校と教員の服務を中心に把握し説明できる。(B) 5) カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握し説明できる。(G)
キーワード	理想的人間像、教育目的、教育内容、教育方法、教育評価、近代公教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出等の評価20%(達成目標1,2,3,4)と確認テスト1の得点30%(達成目標1,2)と確認テスト2の得点50%(達成目標3,4,5)をあわせて評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比兒・皿田琢司編 / 大学教育出版 / 9784864293709
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：B8号館4階 曾我研究室、直通電話：086-256-9447、E-mail:soga@das.ous.ac.jp、 オフィスアワー：月～金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員としての必要最小限の教職教養を習得させることを目指す。

	また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第6回と14回で実施する確認テストについては第7回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育学原論【火3金3】(FC000120)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史の変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育の本質に係る知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
8回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育観の変遷を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)

	がら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 1 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 2 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 4 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 5 回	到達目標を再確認し、学習した教育理念を参考に自ら教育実践にかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。(標準学習時間180分)
1 6 回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。(標準学習時間200分)

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育(生涯学習に関するものを含む。)の理念並びに教育に関する歴史及び思想を(受講者が)修得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかを説明することができる(B)。 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる(B)。 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる(B)。 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる(B)。 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がかりについて説明することができる(B)。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	平素の学習の取り組み(課題の作成と提出)(60~40%)、最終評価試験の評定点(40~60%)を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者により認められる。
教科書	現代教育の理論と実践/曾我 雅比児・皿田 琢司(編著)/大学教育出版/ISBN978-4-86429-370-9
関連科目	基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが(教育学部を除く)、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
参考書	教職をめざす者は、各自の専攻分野や担当予定教科について生徒に勧めたい本。 博物館学芸員をめざす者は、各自の専攻分野や関連の実物資料について博物館来館者に勧めたい本。 その他、授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	研究室：B2号館3階研究室 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教員への連絡にはOUSメールを用いること) ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	取得をめざす資格(と関連職務)の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。平素から新聞に目を通すとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。所定の課題を指示された期限までに提出した者のみに、最終評価試験の受験を許可する。授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング：各回の授業後、扱われた教育理念の一つを取り上げ、自らの教育実践に応用する例の記述を試みる。 講義形態を基本とするが、学習主題及び学習状況によってはグループ別学習(課題の作成、点検、話し合い、発表等)を加味することがある。
課題に対するフィードバック	授業で課された提出物は、受講者間の相互確認を経て、教員が目を通し、必要に応じて添削する。 教員による点検の結果、共通に必要な事項が明らかになった場合には、板書、投影、口頭、または掲示により講評する。

合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
<p>実務経験のある教員</p> <p>その他（注意・備考）</p>	<p>指導計画は、達成目標及び受講状況に照らして変更することがある。</p> <p>履修できる学部・学科をよく確かめること。</p> <p>C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p>

科目名	教育学原論【月2木2】(FC000130)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育の本質に係る知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
8回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育観の変遷を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)

	がら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 1 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 2 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 4 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 5 回	到達目標を再確認し、学習した教育理念を参考に自ら教育実践にかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。(標準学習時間180分)
1 6 回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。(標準学習時間200分)

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育(生涯学習に関するものを含む。)の理念並びに教育に関する歴史及び思想を(受講者が)修得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかを説明することができる(B)。 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる(B)。 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる(B)。 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる(B)。 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる(B)。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	平素の学習の取り組み(課題の作成と提出)(60~40%)、最終評価試験の評定点(40~60%)を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者により認められる。
教科書	現代教育の理論と実践/曾我 雅比児・皿田 琢司(編著)/大学教育出版/ISBN978-4-86429-370-9
関連科目	基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが(教育学部を除く)、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
参考書	教職をめざす者は、各自の専攻分野や担当予定教科について生徒に勧めたい本。 博物館学芸員をめざす者は、各自の専攻分野や関連の実物資料について博物館来館者に勧めたい本。 その他、授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	研究室：B2号館3階研究室 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教員への連絡にはOUSメールを用いること) ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	取得をめざす資格(と関連職務)の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。平素から新聞に目を通すとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。所定の課題を指示された期限までに提出した者のみに、最終評価試験の受験を許可する。授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング：各回の授業後、扱われた教育理念の一つを取り上げ、自らの教育実践に応用する例の記述を試みる。 講義形態を基本とするが、学習主題及び学習状況によってはグループ別学習(課題の作成、点検、話し合い、発表等)を加味することがある。
課題に対するフィードバック	授業で課された提出物は、受講者間の相互確認を経て、教員が目を通し、必要に応じて添削する。 教員による点検の結果、共通に必要な事項が明らかになった場合には、板書、投影、口頭、または掲示により講評する。

合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
<p>実務経験のある教員</p> <p>その他（注意・備考）</p>	<p>指導計画は、達成目標及び受講状況に照らして変更することがある。</p> <p>履修できる学部・学科をよく確かめること。</p> <p>C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p>

科目名	教育学原論【月3木3】(FC000140)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史の変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育の本質に係る知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
8回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育観の変遷を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)

	がら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 1 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 2 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 4 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 5 回	到達目標を再確認し、学習した教育理念を参考に自ら教育実践にかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。(標準学習時間180分)
1 6 回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。(標準学習時間200分)

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育(生涯学習に関するものを含む。)の理念並びに教育に関する歴史及び思想を(受講者が)修得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかを説明することができる(B)。 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる(B)。 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる(B)。 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる(B)。 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる(B)。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	平素の学習の取り組み(課題の作成と提出)(60~40%)、最終評価試験の評定点(40~60%)を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者により認められる。
教科書	現代教育の理論と実践/曾我 雅比児・皿田 琢司(編著)/大学教育出版/ISBN978-4-86429-370-9
関連科目	基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが(教育学部を除く)、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
参考書	教職をめざす者は、各自の専攻分野や担当予定教科について生徒に勧めたい本。 博物館学芸員をめざす者は、各自の専攻分野や関連の実物資料について博物館来館者に勧めたい本。 その他、授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	研究室：B2号館3階研究室 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教員への連絡にはOUSメールを用いること) ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	取得をめざす資格(と関連職務)の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。平素から新聞に目を通すとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。所定の課題を指示された期限までに提出した者のみに、最終評価試験の受験を許可する。授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング：各回の授業後、扱われた教育理念の一つを取り上げ、自らの教育実践に応用する例の記述を試みる。 講義形態を基本とするが、学習主題及び学習状況によってはグループ別学習(課題の作成、点検、話し合い、発表等)を加味することがある。
課題に対するフィードバック	授業で課された提出物は、受講者間の相互確認を経て、教員が目を通し、必要に応じて添削する。 教員による点検の結果、共通に必要な事項が明らかになった場合には、板書、投影、口頭、または掲示により講評する。

合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
<p>実務経験のある教員</p> <p>その他（注意・備考）</p>	<p>指導計画は、達成目標及び受講状況に照らして変更することがある。</p> <p>履修できる学部・学科をよく確かめること。</p> <p>C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p>

科目名	教育学原論【月2木2】(FC000150)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史の変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育の本質に係る知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
8回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育観の変遷を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)

	がら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 1 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 2 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 4 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 5 回	到達目標を再確認し、学習した教育理念を参考に自ら教育実践にかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。(標準学習時間180分)
1 6 回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。(標準学習時間200分)

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育(生涯学習に関するものを含む。)の理念並びに教育に関する歴史及び思想を(受講者が)修得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかを説明することができる(B)。 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる(B)。 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる(B)。 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる(B)。 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる(B)。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	平素の学習の取り組み(課題の作成と提出)(60~40%)、最終評価試験の評定点(40~60%)を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者により認められる。
教科書	現代教育の理論と実践/曾我 雅比児・皿田 琢司(編著)/大学教育出版/ISBN978-4-86429-370-9
関連科目	基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが(教育学部を除く)、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
参考書	教職をめざす者は、各自の専攻分野や担当予定教科について生徒に勧めたい本。 博物館学芸員をめざす者は、各自の専攻分野や関連の実物資料について博物館来館者に勧めたい本。 その他、授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	研究室：B2号館3階研究室 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教員への連絡にはOUSメールを用いること) ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	取得をめざす資格(と関連職務)の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。平素から新聞に目を通すとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。所定の課題を指示された期限までに提出した者のみに、最終評価試験の受験を許可する。授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング：各回の授業後、扱われた教育理念の一つを取り上げ、自らの教育実践に応用する例の記述を試みる。 講義形態を基本とするが、学習主題及び学習状況によってはグループ別学習(課題の作成、点検、話し合い、発表等)を加味することがある。
課題に対するフィードバック	授業で課された提出物は、受講者間の相互確認を経て、教員が目を通し、必要に応じて添削する。 教員による点検の結果、共通に必要な事項が明らかになった場合には、板書、投影、口頭、または掲示により講評する。

合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
<p>実務経験のある教員</p> <p>その他（注意・備考）</p>	<p>指導計画は、達成目標及び受講状況に照らして変更することがある。</p> <p>履修できる学部・学科をよく確かめること。</p> <p>C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p>

科目名	教育学原論【月3木3】(FC000160)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史の変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史の変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史の変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育の本質に係る知識を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
8回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育観の変遷を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)

	がら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 1 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 2 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 4 回	前時の学習内容を振り返り、教育観を再確認しておくこと。教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間180分)
1 5 回	到達目標を再確認し、学習した教育理念を参考に自ら教育実践にかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。(標準学習時間180分)
1 6 回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。(標準学習時間200分)

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育(生涯学習に関するものを含む。)の理念並びに教育に関する歴史及び思想を(受講者が)修得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であることを説明することができる(B)。 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる(B)。 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる(B)。 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる(B)。 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる(B)。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	平素の学習の取り組み(課題の作成と提出)(60~40%)、最終評価試験の評定点(40~60%)を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者により認められる。
教科書	現代教育の理論と実践/曾我 雅比児・皿田 琢司(編著)/大学教育出版/ISBN978-4-86429-370-9
関連科目	基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが(教育学部を除く)、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
参考書	教職をめざす者は、各自の専攻分野や担当予定教科について生徒に勧めたい本。 博物館学芸員をめざす者は、各自の専攻分野や関連の実物資料について博物館来館者に勧めたい本。 その他、授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	研究室：B2号館3階研究室 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教員への連絡にはOUSメールを用いること) ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	取得をめざす資格(と関連職務)の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。平素から新聞に目を通すとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。所定の課題を指示された期限までに提出した者のみに、最終評価試験の受験を許可する。授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング：各回の授業後、扱われた教育理念の一つを取り上げ、自らの教育実践に応用する例の記述を試みる。 講義形態を基本とするが、学習主題及び学習状況によってはグループ別学習(課題の作成、点検、話し合い、発表等)を加味することがある。
課題に対するフィードバック	授業で課された提出物は、受講者間の相互確認を経て、教員が目を通し、必要に応じて添削する。 教員による点検の結果、共通に必要な事項が明らかになった場合には、板書、投影、口頭、または掲示により講評する。

合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
<p>実務経験のある教員</p> <p>その他（注意・備考）</p>	<p>指導計画は、達成目標及び受講状況に照らして変更することがある。</p> <p>履修できる学部・学科をよく確かめること。</p> <p>C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p>

科目名	教育心理学 (FC000200)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。
------	---

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	<p>学習のメカニズムを説明することができる。(E)</p> <p>性格形成のプロセスを理解し説明することができる。(E)</p> <p>社会性及び対人スキルについて理解し説明することができる。(E)</p> <p>理想的な教師の指導性について理解し説明することができる。(E)</p> <p>生徒理解について理解し、具体例をあげ説明することができる。(E)</p> <p>教育評価を理解し、その問題点について説明することができる。(E)</p>
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%により成績を評価(到達目標の ~ を評価)し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
関連科目	教職関連科目
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	授業では、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明します。将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育心理学 (FC000210)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。
------	---

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	<p>学習のメカニズムを説明することができる。(E)</p> <p>性格形成のプロセスを理解し説明することができる。(E)</p> <p>社会性及び対人スキルについて理解し説明することができる。(E)</p> <p>理想的な教師の指導性について理解し説明することができる。(E)</p> <p>生徒理解について理解し、具体例をあげ説明することができる。(E)</p> <p>教育評価を理解し、その問題点について説明することができる。(E)</p>
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%により成績を評価(到達目標の ~ を評価)し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
関連科目	教職関連科目
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	授業では、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明します。将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育心理学 (FC000220)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。
------	---

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	<p>学習のメカニズムを説明することができる。(E)</p> <p>性格形成のプロセスを理解し説明することができる。(E)</p> <p>社会性及び対人スキルについて理解し説明することができる。(E)</p> <p>理想的な教師の指導性について理解し説明することができる。(E)</p> <p>生徒理解について理解し、具体例をあげ説明することができる。(E)</p> <p>教育評価を理解し、その問題点について説明することができる。(E)</p>
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%により成績を評価(到達目標の ~ を評価)し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
関連科目	教職関連科目
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	授業では、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明します。将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育心理学 (FC000230)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。
------	---

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	<p>学習のメカニズムを説明することができる。(E)</p> <p>性格形成のプロセスを理解し説明することができる。(E)</p> <p>社会性及び対人スキルについて理解し説明することができる。(E)</p> <p>理想的な教師の指導性について理解し説明することができる。(E)</p> <p>生徒理解について理解し、具体例をあげ説明することができる。(E)</p> <p>教育評価を理解し、その問題点について説明することができる。(E)</p>
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%により成績を評価(到達目標の ~ を評価)し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
関連科目	教職関連科目
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	授業では、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明します。将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育心理学【月3木3】(FC000240)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育心理学の4つの柱である、学習、発達、評価、適応について説明し教育基本法や学校教育法をもとに教育心理学の目標について説明する。
2回	教育心理学の教育における位置づけと歴史について説明する。
3回	学習の過程(1):外界からの情報を取り入れるまでの過程について説明する。
4回	学習の過程(2)S-R連合理論について説明する。
5回	学習の過程(3)認知学習について説明する。
6回	動機・情緒・フラストレーションについて説明する。
7回	記憶のメカニズムと特徴について説明する。
8回	忘却のメカニズムについて説明する。
9回	心身の発達(1)発達の規定要因について説明する。
10回	心身の発達(2)発達の原理について説明する。
11回	発達段階について説明する。
12回	発達課題について説明する。
13回	発達がい概念や基礎について説明する。
14回	発達障がいのある生徒の援助について説明する。
15回	教育評価と学校におけるルールについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】学校教育の目的について、教育基本法、学校教育法を読んで考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校教育の目的について復習すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育心理学とは何かについて教育心理学事典等で調べておくこと。(標準学習時間60分)。 【復習】教育心理学が教育にどのような点で役立っているかについて復習すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】感覚・知覚・認知について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】感覚・知覚・認知について復習すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】S-R連合理論について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】S-R連合理論について復習すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】認知学習について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の理論や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】動機・情緒・フラストレーションとはどのような概念かを予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の動機づけについて復習すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】記憶について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】記憶の理論と勉強の仕方について復習すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】忘却のメカニズムについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】忘却のメカニズムについて復習すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】発達の規定要因について予習すること(標準学習時間60分)。 【復習】発達の規定要因について復習すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】発達の原理について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達の原理について復習すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】発達段階について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達段階について復習すること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】発達課題について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育における発達課題を整理しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】発達障がいの種類や特徴について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいの種類や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】発達障がいのある生徒の困難感について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいがある生徒の支援について復習すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】教育評価について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育評価と学校におけるルールについて復習すること(標準学習時間120分)。

16回	<p>【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。</p> <p>【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。</p>
-----	---

講義目的	本講義では、教育心理学の主な柱である、学習、発達、評価、適応について、学習と学習に関連する理論、発達障がいを含めた発達の諸特徴、そして、教育評価の理論を理解しながら、教育場面での適応を効果的に行うための知識を習得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	<p>学習、発達(発達障がいを含む)、評価、そして適応とはどのような概念かが理解でき、教育と関係づけられる(E)。</p> <p>教育評価のやり方について理解ができ、教育場面での評価について具体的に説明できるようになる(E)。</p> <p>教育活動における適応も含めた効果的実践のための知識が理解できるようになる、具体的に説明できるようになる(E)。</p>
キーワード	教育、心理学、学習、発達、評価、適応
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	各講義内に行う確認小テスト40%(達成目標、の評価)と、と最終評価試験60%達成目標、の評価)で行う。総計で60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司(編著) / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育相談の理論と方法
参考書	必要に応じて講義の場で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール: nakajima@das.ous.ac.jp 電話: 086-256-9419
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておくとう便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもらう場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	小テストは、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育心理学【月4木4】(FC000250)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育心理学の4つの柱である、学習、発達、評価、適応について説明し教育基本法や学校教育法をもとに教育心理学の目標について説明する。
2回	教育心理学の教育における位置づけと歴史について説明する。
3回	学習の過程(1):外界からの情報を取り入れるまでの過程について説明する。
4回	学習の過程(2)S-R連合理論について説明する。
5回	学習の過程(3)認知学習について説明する。
6回	動機・情緒・フラストレーションについて説明する。
7回	記憶のメカニズムと特徴について説明する。
8回	忘却のメカニズムについて説明する。
9回	心身の発達(1)発達の規定要因について説明する。
10回	心身の発達(2)発達の原理について説明する。
11回	発達段階について説明する。
12回	発達課題について説明する。
13回	発達がい概念や基礎について説明する。
14回	発達障がいのある生徒の援助について説明する。
15回	教育評価と学校におけるルールについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】学校教育の目的について、教育基本法、学校教育法を読んで考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校教育の目的について復習すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育心理学とは何かについて教育心理学事典等で調べておくこと。(標準学習時間60分)。 【復習】教育心理学が教育にどのような点で役立っているかについて復習すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】感覚・知覚・認知について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】感覚・知覚・認知について復習すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】S-R連合理論について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】S-R連合理論について復習すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】認知学習について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の理論や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】動機・情緒・フラストレーションとはどのような概念かを予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の動機づけについて復習すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】記憶について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】記憶の理論と勉強の仕方について復習すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】忘却のメカニズムについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】忘却のメカニズムについて復習すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】発達の規定要因について予習すること(標準学習時間60分)。 【復習】発達の規定要因について復習すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】発達の原理について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達の原理について復習すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】発達段階について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達段階について復習すること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】発達課題について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育における発達課題を整理しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】発達障がいの種類や特徴について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいの種類や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】発達障がいのある生徒の困難感について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいがある生徒の支援について復習すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】教育評価について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育評価と学校におけるルールについて復習すること(標準学習時間120分)。

16回	<p>【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。</p> <p>【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。</p>
-----	---

講義目的	本講義では、教育心理学の主な柱である、学習、発達、評価、適応について、学習と学習に関連する理論、発達障がいを含めた発達の諸特徴、そして、教育評価の理論を理解しながら、教育場面での適応を効果的に行うための知識を習得することを目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Eにもっとも強く関与)
達成目標	学習、発達(発達障がいを含む)、評価、そして適応とはどのような概念かが理解でき、教育と関係づけられる(E)。 教育評価のやり方について理解ができ、教育場面での評価について具体的に説明できるようになる(E)。 教育活動における適応も含めた効果的実践のための知識が理解できるようになる、具体的に説明できるようになる(E)。
キーワード	教育、心理学、学習、発達、評価、適応
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	各講義内に行う確認小テスト40%(達成目標、の評価)と、と最終評価試験60%達成目標、の評価)で行う。総計で60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司(編著) / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育相談の理論と方法
参考書	必要に応じて講義の場で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール: nakajima@das.ous.ac.jp 電話: 086-256-9419
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておくとう便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもらう場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	小テストは、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育行政学【月4木4】(FC000300)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比児(そがまさひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2回	2つの公教育思想—国家主義型(プロイセン王国フリードリッヒ大王)と自由主義型(フランス革命時のコンドルセ案)—を紹介する。
3回	西欧諸国(英、仏、独、米)における義務教育制度の成立過程を概説する。
4回	日本教育行政小史1 義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5回	日本教育行政小史2 戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7回	授業の前半で確認テスト1をする。後半は日本国憲法の教育条項について概説する。
8回	教育基本法を解説する。
9回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10回	中央教育行政の組織(内閣、文部科学大臣、文部科学省)とそれぞれの権限や機能を概説する。
11回	地方教育行政の組織(首長、議会、教育委員会)とそれぞれの権限や機能を概説する。
12回	学校の管理と運営1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題4「教科書の検定と採択」を課す。
13回	学校の管理と運営2 教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14回	授業の前半で確認テスト2をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15回	確認テスト2の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】試験の準備をすること(標準学習時間60分)。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法の教育条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員の服務・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員の服務、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比児 / 大学教育出版 / 9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室: B8号館4階 曾我研究室、直通電話: 086-256-9447、E-mail: soga@das.ous.ac.jp、オフィスアワー: 月~金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育行政学【月4木4】(FC000310)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比児(そがまさひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2回	2つの公教育思想—国家主義型(プロイセン王国フリードリッヒ大王)と自由主義型(フランス革命時のコンドルセ案)—を紹介する。
3回	西欧諸国(英、仏、独、米)における義務教育制度の成立過程を概説する。
4回	日本教育行政小史1 義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5回	日本教育行政小史2 戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7回	授業の前半で確認テスト1をする。後半は日本国憲法の教育条項について概説する。
8回	教育基本法を解説する。
9回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10回	中央教育行政の組織(内閣、文部科学大臣、文部科学省)とそれぞれの権限や機能を概説する。
11回	地方教育行政の組織(首長、議会、教育委員会)とそれぞれの権限や機能を概説する。
12回	学校の管理と運営1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題4「教科書の検定と採択」を課す。
13回	学校の管理と運営2 教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14回	授業の前半で確認テスト2をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15回	確認テスト2の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】試験の準備をすること(標準学習時間60分)。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にすえる。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法の教育条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員の服務・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員の服務、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比児 / 大学教育出版 / 9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室: B8号館4階 曾我研究室、直通電話: 086-256-9447、E-mail: soga@das.ous.ac.jp、オフィスアワー: 月~金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育行政学【月4木4】(FC000320)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比児(そがまさひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育行政とは何かを説明する。併せて課題1「公教育思想の発生と義務教育の成立」を課す。
2回	2つの公教育思想—国家主義型(プロイセン王国フリードリッヒ大王)と自由主義型(フランス革命時のコンドルセ案)—を紹介する。
3回	西欧諸国(英、仏、独、米)における義務教育制度の成立過程を概説する。
4回	日本教育行政小史1 義務教育制度の成立と戦前の教育行政の特質を概説する。併せて課題2「義務教育確立の試行錯誤と戦前教育の特質」を課す。
5回	日本教育行政小史2 戦後教育改革と教育行政の民主化を概説する。
6回	法律主義の原理のもと行われている今日の教育行政と教育法規の関連を概説する。
7回	授業の前半で確認テスト1をする。後半は日本国憲法の教育条項について概説する。
8回	教育基本法を解説する。
9回	現代教育行政の基本原則を概説する。併せて課題3「現代学校教育の基本原則」を課す。
10回	中央教育行政の組織(内閣、文部科学大臣、文部科学省)とそれぞれの権限や機能を概説する。
11回	地方教育行政の組織(首長、議会、教育委員会)とそれぞれの権限や機能を概説する。
12回	学校の管理と運営1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。併せて課題4「教科書の検定と採択」を課す。
13回	学校の管理と運営2 教育課程の法制及び懲戒と体罰や学校の安全と保健について概説する。
14回	授業の前半で確認テスト2をする。後半は教職員の種類と職務及び教員免許制度について概説する。
15回	確認テスト2の答案を返却し、正答例を示しながら解説する。併せて教育公務員の服務や研修について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】試験の準備をすること(標準学習時間60分)。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。

1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【課題】教科書の該当分を読み、課題に解答すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】試験の準備をすること（標準学習時間60分）。及び教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んで課題を明確にしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】確認テスト2の返却答案をも直すと共に、書き込みノートの最終整理をすること（標準学習時間120分）。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解し説明できる。(D) 2) 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握し説明できる。(D, B) 3) 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解し説明できる。(D, B) 4) 憲法や教育基本法の教育条項を理解し説明できる。(D) 5) 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握し説明できる。(D) 6) 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員の服務・研修についての基本的な事柄を把握し説明できる。(D, G)
キーワード	公教育、義務教育制度、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営組織、教育課程法制、教員の服務、教員研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題20%(達成目標1,2,3,4,6)、「確認テスト1」30%(達成目標1,2,3)、「確認テスト2」50%(達成目標4,5,6)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比児 / 大学教育出版 / 9784864293006
関連科目	教育学原論、教育史、教育課程論
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	研究室: B8号館4階 曾我研究室、直通電話: 086-256-9447、E-mail: soga@das.ous.ac.jp、オフィスアワー: 月~金の昼休み
授業の運営方針	教科書の重要事項を整理した書き込み式の「授業ノート」を作成し、予習時に正しい書き込みを予測させ、授業時に解答を明示し、中間テストや最終評価テストの準備学習教材として有効に利用させることによって、公教育を担う教員として、必要最小限の教育法規の知識を習得させることを目指す。また受講者には教師の資質として求められている「意欲的かつ研究的態度」で授業に取り組むことを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1) 4回課す課題については次回の授業の冒頭で返却し、モデル解答を示し、講評する。 2) 第7回と14回で実施する確認テストについては第8回と15回の授業で正答例を示しながら解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育史【月1木1】(FC000400)
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。教育の始まり。教育の原初形態について複数の視点から考察を試みる。
2回	古代・中世の教育。古代ギリシャ・ローマ及び中世ヨーロッパにおける教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。コメニウスの統一学校構想と教授法を中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子ども観(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代思想と子ども観(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
6回	近代思想と子ども観(3)。19世紀の西洋における教育について、フレーベルの幼児教育思想及びヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
7回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、資料作成・発表の協同学習を通して考察する。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育運動とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。当該教育の特質について、大学寮、綜芸種智院、武家文庫等を取り上げながら理解を図る。
10回	近世日本の教育。当該教育の特質について、寺子屋(手習所)、私塾、藩学、郷学を取り上げながら理解を図る。
11回	近代日本の教育(1)。当該教育の特質について、西洋型教育制度・教育内容の受容と整備の過程を中心に理解を図る。
12回	近代日本の教育(2)。当該教育の特質について、留学生と御雇教師を取り上げながら、西洋化と自立化の観点から理解を図る。
13回	近代日本の教育(3)。当該教育の特質について、大正期自由教育運動と昭和戦前期の主な教育法制を取り上げながら、理解を図る。
14回	近現代日本の教育。当該教育の特質について、戦後教育改革の理念と制度化過程を取り上げながら、理解を図る。
15回	現代日本における教育改革の変遷。現代における主な教育課題を取り上げながら、公教育に求められる役割について、教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル及びヘルバルトの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論(または教育基礎論)及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと。(標準学習時間180分)

8回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
11回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
12回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
13回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
14回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
15回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、現代における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
16回	参考文献等と配付資料全体を読み直してこれまでの学習全体を振り返るとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念と克服すべき課題を複数の観点から整理しておくこと(標準学習時間200分)。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目指す。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	1) 教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ大切であるかを説明できる(B)。 2) 西洋における各時代の教育の特質について、いくつかの教育思想に触れながら説明できる(B)。 3) 日本における各時代の教育の特質について、主に教育法制の変遷と関連づけて説明できる(B)。
キーワード	教育の歴史、学校の歴史、教育思想、教育法制史、教育理念、教育観、教職観の変遷
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業各回の振り返り学習(提出課題)(40%、達成目標1~3)、最終評価試験の評定点(60%、達成目標1~3)とを総合し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は学習目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。
教科書	刊行物は使用しない。配付資料を適宜用いる。
関連科目	1年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
参考書	曾我雅比児・皿田琢司(編著)『現代教育の理論と実践』大学教育出版、2015年 佐藤環(編著)『日本の教育史』現場と結ぶ教職シリーズ、あいり出版、2013年 鈴木晶子・山名淳・駒込武(編著)『教育思想・教育史』教職教養講座第2巻、協同出版、2018年 斉藤利彦・佐藤学(編著)『近現代教育史』新版、学文社、2016年 鈴木理恵・三時眞貴子(編著)『教育の歴史・理念・思想』教師教育講座第2巻、協同出版、2014年 新井保幸・上野耕三郎(編)『教育の思想と歴史』新教職教育講座第1巻、協同出版、2012年 古沢常雄・米田俊彦(編)『教育史』教師教育テキストシリーズ、学文社、2009年 中学校社会科(歴史的分野)の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	研究室：B2号館(旧13号館)3階東端 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教育との連絡にはOUSメールを用いること) 電話：086-256-9714(ダイヤルイン) オフィスアワー：水曜日4時限
授業の運営方針	教職の特質に照らして自らの学業、読書習慣、言動、筆記の見直しを図ること。 専攻分野の学業と、それらの学びの支援に資する読書も励行すること。

	<p>授業時間外の連絡手段としてOUSメールを送受信できるようにしておくこと。 最終評価試験は、平素の振り返り学習の課題を、学則に定める出席回数分提出していることを受験要件とする。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ライティング：各回の授業後、扱われた教育史または教育思想史上の事例の一つを取り上げ、現代における教育課題との関連を考えて記入する。 相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。 グループ別学習：話し合い、資料作成、発表等を含めることがある。</p>
課題に対するフィードバック	<p>授業で課された提出物は、個別に点検し、必要に応じて添削する。学習目標に照らして共通に必要な事項については、口頭、板書、投影など何らかの方法により講評する。授業時間外に伝える必要が生じた場合には、掲示または電子メール（履修者のOUSメールアドレス宛て一斉送信）を用いることがある。 最終評価試験については、解答例または解説の書面を掲示または配付する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。 障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	C 1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	教育史【月2木2】(FC000410)
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。教育の始まり。教育の原初形態について複数の視点から考察を試みる。
2回	古代・中世の教育。古代ギリシャ・ローマ及び中世ヨーロッパにおける教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。コメニウスの統一学校構想と教授法を中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子ども観(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代思想と子ども観(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
6回	近代思想と子ども観(3)。19世紀の西洋における教育について、フレーベルの幼児教育思想及びヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
7回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、資料作成・発表の協同学習を通して考察する。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育運動とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。当該教育の特質について、大学寮、綜芸種智院、武家文庫等を取り上げながら理解を図る。
10回	近世日本の教育。当該教育の特質について、寺子屋(手習所)、私塾、藩学、郷学を取り上げながら理解を図る。
11回	近代日本の教育(1)。当該教育の特質について、西洋型教育制度・教育内容の受容と整備の過程を中心に理解を図る。
12回	近代日本の教育(2)。当該教育の特質について、留学生と御雇教師を取り上げながら、西洋化と自立化の観点から理解を図る。
13回	近代日本の教育(3)。当該教育の特質について、大正期自由教育運動と昭和戦前期の主な教育法制を取り上げながら、理解を図る。
14回	近現代日本の教育。当該教育の特質について、戦後教育改革の理念と制度化過程を取り上げながら、理解を図る。
15回	現代日本における教育改革の変遷。現代における主な教育課題を取り上げながら、公教育に求められる役割について、教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間160分)
2回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
5回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
6回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル及びヘルバルトの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論(または教育基礎論)及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと。(標準学習時間180分)

8回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
10回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
11回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
12回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
13回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
14回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
15回	前時の学習内容を振り返り、教育理念を再確認しておくこと。参考文献等の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、現代における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと。(標準学習時間180分)
16回	参考文献等と配付資料全体を読み直してこれまでの学習全体を振り返るとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念と克服すべき課題を複数の観点から整理しておくこと(標準学習時間200分)。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目指す。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Bに最も強く関与)
達成目標	1) 教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ大切であるかを説明できる(B)。 2) 西洋における各時代の教育の特質について、いくつかの教育思想に触れながら説明できる(B)。 3) 日本における各時代の教育の特質について、主に教育法制の変遷と関連づけて説明できる(B)。
キーワード	教育の歴史、学校の歴史、教育思想、教育法制史、教育理念、教育観、教職観の変遷
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業各回の振り返り学習(提出課題)(40%、達成目標1~3)、最終評価試験の評定点(60%、達成目標1~3)とを総合し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は学習目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。
教科書	刊行物は使用しない。配付資料を適宜用いる。
関連科目	1年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
参考書	曾我雅比児・皿田琢司(編著)『現代教育の理論と実践』大学教育出版、2015年 佐藤環(編著)『日本の教育史』現場と結ぶ教職シリーズ、あいり出版、2013年 鈴木晶子・山名淳・駒込武(編著)『教育思想・教育史』教職教養講座第2巻、協同出版、2018年 斉藤利彦・佐藤学(編著)『近現代教育史』新版、学文社、2016年 鈴木理恵・三時眞貴子(編著)『教育の歴史・理念・思想』教師教育講座第2巻、協同出版、2014年 新井保幸・上野耕三郎(編)『教育の思想と歴史』新教職教育講座第1巻、協同出版、2012年 古沢常雄・米田俊彦(編)『教育史』教師教育テキストシリーズ、学文社、2009年 中学校社会科(歴史的分野)の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	研究室：B2号館(旧13号館)3階東端 電子メール：salad@chem.ous.ac.jp(教育との連絡にはOUSメールを用いること) 電話：086-256-9714(ダイヤルイン) オフィスアワー：水曜日4時限
授業の運営方針	教職の特質に照らして自らの学業、読書習慣、言動、筆記の見直しを図ること。 専攻分野の学業と、それらの学びの支援に資する読書も励行すること。

	<p>授業時間外の連絡手段としてOUSメールを送受信できるようにしておくこと。 最終評価試験は、平素の振り返り学習の課題を、学則に定める出席回数分提出していることを受験要件とする。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ライティング：各回の授業後、扱われた教育史または教育思想史上の事例の一つを取り上げ、現代における教育課題との関連を考えて記入する。 相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。 グループ別学習：話し合い、資料作成、発表等を含めることがある。</p>
課題に対するフィードバック	<p>授業で課された提出物は、個別に点検し、必要に応じて添削する。学習目標に照らして共通に必要な事項については、口頭、板書、投影など何らかの方法により講評する。授業時間外に伝える必要が生じた場合には、掲示または電子メール（履修者のOUSメールアドレス宛て一斉送信）を用いることがある。 最終評価試験については、解答例または解説の書面を掲示または配付する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。 障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	C 1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	木材加工(再)【火3金3】(FC003100)
英文科目名	Wood Working
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方と、木材加工教育の歴史と意義を説明する。
2回	木材の種類と構造について解説する。
3回	木材の性質について解説する。
4回	木質材料・緊結材について解説する。
5回	塗装について解説する。
6回	かな、のこぎりの構造と使用方法について解説する。
7回	のみ、きり、その他の木工具の構造と使用方法について解説する。
8回	木工機械の構造と使用方法について解説する。
9回	基本工作法として木取りについて解説する。
10回	基本工作法としてけがきについて解説する。
11回	基本工作法として切断について解説する。
12回	基本工作法としてかな削りについて解説する。
13回	基本工作法として組立てについて解説する。
14回	基本工作法として塗装について解説する。
15回	今までのまとめと評価をする。
16回	最終評価試験を実施した後、模範解答について解説する。

回数	準備学習
1回	シラバスに目を通し授業内容、講義目的、達成目標、成績評価等を確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	第1回で触れた講義の進め方を再確認し、木材加工教育の歴史と教育課程での意義を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第1章を読み、素材としての木材の知識を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	第2回の木材の種類と構造についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第2章を読み、素材としての木材の特性を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の木材の性質についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第3章を読み、木質材料の特性や緊結材の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の木質材料・緊結材について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第7章を読み、塗装の目的や塗料の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

6回	第5回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第4章1節・2節を読み、かんななどのこぎりに関する知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
7回	第6回のかんななどのこぎりについての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第4章3節～7節を読み、かんななどのこぎり以外の基本的な木工具について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
8回	第7回のみ、きり、その他の木工具の課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第5章1節～3節を読み、木工機械の構造と使用法について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
9回	第8回の木工機械の構造と使用法について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章1節を読み、木取りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
10回	第9回の木取りについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節1.を読み、けがきについての理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
11回	第10回のけがきについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節2.を読み、切断作業について理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
12回	第11回の切断について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節3.を読み、かんな削りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
13回	第12回のかんな削りについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節6.を読み、組み立てについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
14回	第13回の組み立てについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節1項を読み、塗装について理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
15回	第14回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。今までの講義内容を振り返り、作品評価の観点について自分の考えをまとめておくこと(標準学習時間120分)。
16回	第1回～第15回の内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	中学校学習指導要領における技術・家庭の目標や技術分野の目標を達成するために木材加工に必要な基礎的、基本的な知識・技能を修得するとともに、中学校技術科教員として学習指導に活かせる能力の基礎を身に付ける。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1. 木材の基本的な特性が説明できる。(A) 2. 木材の加工法を説明できる。(A) 3. 木工具の使用法を説明できる。(A) 4. 木工機械の使用法を説明できる。(A) 5. 木材の基本的な加工ができる。(A)
キーワード	木材、木材の種類、木材の性質、木材の塗装、木材加工、木工具、木工機械
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験60%(到達目標1.2.3.4.を評価)、提出課題10%(到達目標1.2.3.4.を評価)、作品30%(到達目標5.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	技術教育選書 木材の性質と加工 / 井上裕之他著 / 開隆堂 / 9784304020056
関連科目	木材加工実習、技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	工学実習棟2階 塗木研究室 直通電話 086-256-9598 E-mail: nuruki@are.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。

授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解答作成の際は、授業中の板書・解説・教科書・参考書等を十分活用すること。 ・第2回・3回・6回・7回の提出課題については、添削した後に解説を加え返却する。 ・第9回～14回までの基本工作法の学習には作業のできる服装で参加すること。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことにより理解を深める。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題の解答は次回授業の最初に解説する。 ・最終評価試験については実施後、模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	中学校技術科教員免許状取得のための科目である。

科目名	木材加工(再)【月2木2】(FC003110)
英文科目名	Wood Working
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方と、木材加工教育の歴史と意義を説明する。
2回	木材の種類と構造について解説する。
3回	木材の性質について解説する。
4回	木質材料・緊結材について解説する。
5回	塗装について解説する。
6回	かな、のこぎりの構造と使用方法について解説する。
7回	のみ、きり、その他の木工具の構造と使用方法について解説する。
8回	木工機械の構造と使用方法について解説する。
9回	基本工作法として木取りについて解説する。
10回	基本工作法としてけがきについて解説する。
11回	基本工作法として切断について解説する。
12回	基本工作法としてかな削りについて解説する。
13回	基本工作法として組立てについて解説する。
14回	基本工作法として塗装について解説する。
15回	今までのまとめと評価をする。
16回	最終評価試験を実施した後、模範解答について解説する。

回数	準備学習
1回	シラバスに目を通し授業内容、講義目的、達成目標、成績評価等を確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	第1回で触れた講義の進め方を再確認し、木材加工教育の歴史と教育課程での意義を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第1章を読み、素材としての木材の知識を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	第2回の木材の種類と構造についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第2章を読み、素材としての木材の特性を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の木材の性質についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第3章を読み、木質材料の特性や緊結材の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の木質材料・緊結材について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第7章を読み、塗装の目的や塗料の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

6回	第5回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第4章1節・2節を読み、かんななどのこぎりに関する知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
7回	第6回のかんななどのこぎりについての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第4章3節～7節を読み、かんななどのこぎり以外の基本的な木工具について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
8回	第7回のみ、きり、その他の木工具の課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第5章1節～3節を読み、木工機械の構造と使用法について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
9回	第8回の木工機械の構造と使用法について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章1節を読み、木取りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
10回	第9回の木取りについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節1.を読み、けがきについての理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
11回	第10回のけがきについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節2.を読み、切断作業について理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
12回	第11回の切断について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節3.を読み、かんな削りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
13回	第12回のかんな削りについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節6.を読み、組み立てについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
14回	第13回の組み立てについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節1項を読み、塗装について理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
15回	第14回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。今までの講義内容を振り返り、作品評価の観点について自分の考えをまとめておくこと(標準学習時間120分)。
16回	第1回～第15回の内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	中学校学習指導要領における技術・家庭の目標や技術分野の目標を達成するために木材加工に必要な基礎的、基本的な知識・技能を修得するとともに、中学校技術科教員として学習指導に活かせる能力の基礎を身に付ける。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1. 木材の基本的な特性が説明できる。(A) 2. 木材の加工法を説明できる。(A) 3. 木工具の使用法を説明できる。(A) 4. 木工機械の使用法を説明できる。(A) 5. 木材の基本的な加工ができる。(A)
キーワード	木材、木材の種類、木材の性質、木材の塗装、木材加工、木工具、木工機械
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験60%(到達目標1.2.3.4.を評価)、提出課題10%(到達目標1.2.3.4.を評価)、作品30%(到達目標5.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	技術教育選書 木材の性質と加工 / 井上裕之他著 / 開隆堂 / 9784304020056
関連科目	木材加工実習、技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	工学実習棟2階 塗木研究室 直通電話 086-256-9598 E-mail: nuruki@are.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。

授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解答作成の際は、授業中の板書・解説・教科書・参考書等を十分活用すること。 ・第2回・3回・6回・7回の提出課題については、添削した後に解説を加え返却する。 ・第9回～14回までの基本工作法の学習には作業のできる服装で参加すること。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことにより理解を深める。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題の解答は次回授業の最初に解説する。 ・最終評価試験については実施後、模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	中学校技術科教員免許状取得のための科目である。

科目名	木材加工実習(再) (FC003200)
英文科目名	Practice in Woodworking
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	実習の概要と安全教育について説明する。
2回	投影図、製図規則など製図の基礎を説明する。
3回	製図規則に従いレターラックの組立図を作製する。
4回	製図規則に従いレターラックの部品図を作製する。
5回	工具箱の組立図を作製する。
6回	工具箱の組立図を仕上げた後部品図を作製する。
7回	工具箱の部品図を完成する。
8回	工具箱の木取りをする。
9回	工具箱のけがき作業をする。
10回	けがき線を基に部品を切断する。
11回	けがきに従って部品を加工する。
12回	工具箱の組立作業をする。
13回	工具箱の塗装をする。
14回	工具箱の金具付けをする。
15回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて工具箱製作のレポートを作成する。
16回	角いすの組立図を作製する。
17回	角いすの組立図を完成する。
18回	角いすの部品図を作製する。
19回	角いすの部品図を完成する。
20回	角いすの木取りをする。
21回	角いすのけがきをする。
22回	角いすの部品のほぞ加工をする。
23回	角いすのほぞ穴加工をする。
24回	角いすの面取り加工をする。
25回	角いすの脚の組立てをする。
26回	角いすの座板を加工したあと組立てをする。
27回	角いすの仕上げ加工と研磨をする。
28回	角いすの着色をする。
29回	角いすの塗装をする。
30回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて角いすのレポートを作成する。

回数	準備学習
1回	本実習の目的等をシラバスで確認しておくこと、また作業の安全のための注意点について考えておくこと(標準学習時間180分)。
2回	前回配付された資料に再度目を通して実習の目的、評価法、安全作業の注意点等内容をよく理解しておくこと(標準学習時間90分)。産業界における製図の役割・機能について考えておくこと(標準学習時間90分)。
3回	前回配付された資料に再度目を通して製図の役割や規則等の内容をよく理解しておくこと(標準学習時間90分)。前回の内容を復習し、第三角法で正面図が正確に描けるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	第2回の内容を復習し、正確に第三角法で側面図・平面図が描けるようにしておくこと(標準学習時間180分)。
5回	第2回の内容と第3・4回の作図作業を振り返って、製図を早く描くにはどのような点に注意すればよいかを考えておくこと(標準学習時間180分)。
6回	製図を早く描くための注意点を前回の経験も踏まえて再度考えておくこと(標準学習時間180分)。
7回	第2回の資料に目を通して、完成した図面のチェック項目を書き出しておくこと(標準学習時間180分)。
8回	前回までの製図作業を終わって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと(標準学習時間90分)。参考書等の資料によって木取りの方法について調べておくこと(標準学習時間90分)。
9回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと(標準学習時間60分)。参考書等の資料

	によってけがきの方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって切断の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の切断作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって木材の加工法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の部品加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組み立ての方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって金具とその取り付けについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の金具の取り付け作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。
16回	第2回・第3回で学習した内容を復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17回	前回の組立図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。第2回・第3回で学習した内容を重ねて復習し理解しておくこと（標準学習時間120分）。
18回	前回の組立図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を振り返り、得た教訓を確認しておくこと（標準学習時間120分）。
19回	前回の部品図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を経験して得た教訓を再度確認しておくこと（標準学習時間120分）。
20回	前回の部品図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。】参考書等の資料によって木取りについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
21回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
22回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
23回	前回のほぞ加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ穴加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
24回	前回のほぞ穴加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって面取り加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
25回	前回の面取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
26回	前回の脚の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって座板加工・組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
27回	前回の座板加工とその組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって仕上げ加工・研磨について調べておくこと（標準学習時間120分）。
28回	前回の仕上げ加工と研磨作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって着色について調べておくこと（標準学習時間120分）。
29回	前回の着色作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装について調べておくこと（標準学習時間120分）。
30回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。角いすの製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。

講義目的	中学校学習指導要領に基づき、実践的・体験的な活動を通して行われる技術・家庭科の教員として教育・学習指導において必要とされる木材加工の実践力を養うことを目的として、図面に基づく製作中心の実習を行う。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	中学校の「技術・家庭科」において必要とされる以下の木材加工の実践力を身に付ける。 1. 木材加工に必要な製図法を説明できる。(D) 2. 木工具・機械の使用法を説明できる。(D) 3. 木工具・機械を使用して基礎的な作業ができる。(D) 4. 木工具・機械を安全に使用できる。(D)
キーワード	木材、木材加工、木工具、木工機械、設計、製図
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート10%(達成目標2・3・4.を評価)、製作図30%(達成目標1.を評価)、作品60%(達成目標2・3・4.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じてプリントを配付する。
関連科目	木材加工 技術科教育法 技術科教育法 技術科教育法 技術科教育法
参考書	井上裕之他著/「技術教育選書 木材の性質と加工」/開隆堂(1年次開講の「木材加工」教科書)
連絡先	工学実習棟2階 塗木研究室 直通電話 086-256-9598 E-mail:nuruki@are.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	・安全に作業のできる服装で受講すること。 ・準備学習の詳細については授業中に指示する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことで理解を深める。
課題に対するフィードバック	製作した作品については、第15回と第30回の授業において発表や鑑賞等を通して知識・技能を深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・中学校技術科教員免許状取得のための科目である。 ・木材加工の基礎的・基本的な知識が必要となるので、1年次開講の「木材加工」修得後に履修することが望ましい。 ・「木材加工」を未修得の場合は、実習に最低限必要な知識と技能を得るため、文部科学省検定済教科書「技術・家庭科」技術分野の該当部分を理解する準備学習が必要である。

科目名	木材加工実習(再) (FC003210)
英文科目名	Practice in Woodworking
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	実習の概要と安全教育について説明する。
2回	投影図、製図規則など製図の基礎を説明する。
3回	製図規則に従いレターラックの組立図を作製する。
4回	製図規則に従いレターラックの部品図を作製する。
5回	工具箱の組立図を作製する。
6回	工具箱の組立図を仕上げた後部品図を作製する。
7回	工具箱の部品図を完成する。
8回	工具箱の木取りをする。
9回	工具箱のけがき作業をする。
10回	けがき線を基に部品を切断する。
11回	けがきに従って部品を加工する。
12回	工具箱の組立作業をする。
13回	工具箱の塗装をする。
14回	工具箱の金具付けをする。
15回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて工具箱製作のレポートを作成する。
16回	角いすの組立図を作製する。
17回	角いすの組立図を完成する。
18回	角いすの部品図を作製する。
19回	角いすの部品図を完成する。
20回	角いすの木取りをする。
21回	角いすのけがきをする。
22回	角いすの部品のほぞ加工をする。
23回	角いすのほぞ穴加工をする。
24回	角いすの面取り加工をする。
25回	角いすの脚の組立てをする。
26回	角いすの座板を加工したあと組立てをする。
27回	角いすの仕上げ加工と研磨をする。
28回	角いすの着色をする。
29回	角いすの塗装をする。
30回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて角いすのレポートを作成する。

回数	準備学習
1回	本実習の目的等をシラバスで確認しておくこと、また作業の安全のための注意点について考えておくこと(標準学習時間180分)。
2回	前回配付された資料に再度目を通して実習の目的、評価法、安全作業の注意点等内容をよく理解しておくこと(標準学習時間90分)。産業界における製図の役割・機能について考えておくこと(標準学習時間90分)。
3回	前回配付された資料に再度目を通して製図の役割や規則等の内容をよく理解しておくこと(標準学習時間90分)。前回の内容を復習し、第三角法で正面図が正確に描けるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	第2回の内容を復習し、正確に第三角法で側面図・平面図が描けるようにしておくこと(標準学習時間180分)。
5回	第2回の内容と第3・4回の作図作業を振り返って、製図を早く描くにはどのような点に注意すればよいかを考えておくこと(標準学習時間180分)。
6回	製図を早く描くための注意点を前回の経験も踏まえて再度考えておくこと(標準学習時間180分)。
7回	第2回の資料に目を通して、完成した図面のチェック項目を書き出しておくこと(標準学習時間180分)。
8回	前回までの製図作業を終わって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと(標準学習時間90分)。参考書等の資料によって木取りの方法について調べておくこと(標準学習時間90分)。
9回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと(標準学習時間60分)。参考書等の資料

	によってけがきの方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって切断の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の切断作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって木材の加工法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の部品加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組み立ての方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって金具とその取り付けについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の金具の取り付け作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。
16回	第2回・第3回で学習した内容を復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17回	前回の組立図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。第2回・第3回で学習した内容を重ねて復習し理解しておくこと（標準学習時間120分）。
18回	前回の組立図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を振り返り、得た教訓を確認しておくこと（標準学習時間120分）。
19回	前回の部品図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を経験して得た教訓を再度確認しておくこと（標準学習時間120分）。
20回	前回の部品図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。】参考書等の資料によって木取りについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
21回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
22回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
23回	前回のほぞ加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ穴加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
24回	前回のほぞ穴加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって面取り加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
25回	前回の面取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
26回	前回の脚の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって座板加工・組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
27回	前回の座板加工とその組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって仕上げ加工・研磨について調べておくこと（標準学習時間120分）。
28回	前回の仕上げ加工と研磨作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって着色について調べておくこと（標準学習時間120分）。
29回	前回の着色作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装について調べておくこと（標準学習時間120分）。
30回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。角いすの製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。

講義目的	中学校学習指導要領に基づき、実践的・体験的な活動を通して行われる技術・家庭科の教員として教育・学習指導において必要とされる木材加工の実践力を養うことを目的として、図面に基づく製作中心の実習を行う。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	中学校の「技術・家庭科」において必要とされる以下の木材加工の実践力を身に付ける。 1. 木材加工に必要な製図法を説明できる。(D) 2. 木工具・機械の使用法を説明できる。(D) 3. 木工具・機械を使用して基礎的な作業ができる。(D) 4. 木工具・機械を安全に使用できる。(D)
キーワード	木材、木材加工、木工具、木工機械、設計、製図
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート10%(達成目標2・3・4.を評価)、製作図30%(達成目標1.を評価)、作品60%(達成目標2・3・4.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じてプリントを配付する。
関連科目	木材加工 技術科教育法 技術科教育法 技術科教育法 技術科教育法
参考書	井上裕之他著/「技術教育選書 木材の性質と加工」/開隆堂(1年次開講の「木材加工」教科書)
連絡先	工学実習棟2階 塗木研究室 直通電話 086-256-9598 E-mail:nuruki@are.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	・安全に作業のできる服装で受講すること。 ・準備学習の詳細については授業中に指示する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことで理解を深める。
課題に対するフィードバック	製作した作品については、第15回と第30回の授業において発表や鑑賞等を通して知識・技能を深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・中学校技術科教員免許状取得のための科目である。 ・木材加工の基礎的・基本的な知識が必要となるので、1年次開講の「木材加工」修得後に履修することが望ましい。 ・「木材加工」を未修得の場合は、実習に最低限必要な知識と技能を得るため、文部科学省検定済教科書「技術・家庭科」技術分野の該当部分を理解する準備学習が必要である。

科目名	栽培(再)【火1金1】(FC003300)
英文科目名	Cultivation
担当教員名	黒田俊郎*(くろだとしろう*),石田正人*(いしだまさと*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	作物の多様性(1)「栽培の極意教えます!」について解説する。(黒田) (全教員)
2回	作物の多様性(2)作物の分類・起源について解説する。(黒田) (全教員)
3回	作物の多様性(3)禾穀類・イモ類・マメ類について解説する。(黒田) (全教員)
4回	作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析について解説する。(黒田) (全教員)
5回	作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素について解説する。(黒田) (全教員)
6回	作物の品種について解説する。(黒田) (全教員)
7回	作物の作期と作型について解説する。(黒田) (全教員)
8回	作物の収量成立について解説する。(黒田) (全教員)
9回	作物栽培の要点について解説する。(黒田) (全教員)
10回	レポート発表と口頭試問を行う。(黒田) (全教員)
11回	作物栽培の実際(1)食用作物について解説する。(石田) (全教員)
12回	作物栽培の実際(2)園芸作物について解説する。(石田) (全教員)
13回	作物栽培の実際(3)工芸作物・飼料作物について解説する。(石田) (全教員)
14回	作物栽培の実際(4)日本と世界について解説する。(石田) (全教員)
15回	技術教育における作物栽培について解説する。(石田) (全教員)

回数	準備学習
1回	【予習】これまでの学習から「栽培」に期待することをまとめておくこと。また、近隣の畑や家庭菜園で行われている作物栽培を観察すること(標準学習時間120分)。 【復習】継続して自分の衣食住の中でどんな作物があったかに注意を払うこと。(標準学習時間60分)。
2回	【予習】毎日の食事の中でどんな作物があったかに注意を払うこと(標準学習時間120分)。

	【復習】植物の分類と作物の分類・起源についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】作物の多様性についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の多様性(3)禾穀類・イモ類・マメ類についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】作物の品種についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の品種についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】作物の作期と作型についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の作期と作型についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】作物の収量成立についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の収量成立についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】作物栽培の要点についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の要点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】レポート発表の練習をしておくこと（標準学習時間180分）。
11回	【予習】作物栽培の実際（食用作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（食用作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】作物栽培の実際（園芸作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（園芸作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】作物栽培の実際（工芸作物・飼料作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（工芸作物・飼料作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】作物栽培の実際（日本と世界）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（日本と世界）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】中学校「技術」における植物についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】中学校「技術」における植物栽培についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	栽培技術の神髄は肥培管理の方法のみならず、作物の多様性を知り、作物と人間との関わりの中に栽培を位置付け、広い視野を持ちながら栽培を知ることにある。この視点に立って栽培技術の要点を概説する。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	(1)作物の多様性・作物の炭素同化・土壌・作期・品種について理解し説明することができる(A)。 (2)作物の栽培とは何かについて具体的に学び説明することができる(A)。 (3)栽培の技術体系について理解し説明することができる(A)。
キーワード	作物 栽培 炭素同化 土壌 品種 作期 作型
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	1～9回の授業内容に関するレポート発表(30%;達成目標(1)・(2)を評価)および口頭試問(30%;達成目標(1)・(2)を評価)、11～15回の授業における提出物(40%;達成目標(2)・(3)を評価)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。
関連科目	技術科教育法 ~
参考書	適宜プリントで指定する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	・日常的に農業・食料関係の情報に注意を払うこと。 ・講義中の撮影・録音は禁止する。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。

ゲ	
課題に対するフィードバック	・課題（予習内容、レポート等）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	職業指導(再)【水3水4】(FC003500)
英文科目名	Vocational Guidance
担当教員名	白神憲一*(しらかみけんいち*)
対象学年	2年
単位数	4.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	職業指導の意義と内容、授業の進め方について説明する。
2回	職業指導の基本的性格について解説する。
3回	学習指導要領総則と職業指導1(教育課程編成の原則)について解説する。
4回	学習指導要領総則と職業指導2(職業教育に関して配慮すべき事項)について解説する。
5回	学習指導要領総則と職業指導3(教育課程の実施に当たって配慮すべき事項)について解説する。
6回	学習指導要領総則と職業指導4(特別活動との関連)について解説する。
7回	我が国の産業構造や就業構造の変化について解説する。
8回	学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について解説する。
9回	社会全体を通じた職業に関する教育に対する認識について解説する。
10回	キャリア教育・職業教育の内容と課題について解説する。
11回	キャリア教育・職業教育の基本的方向性について解説する。
12回	キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について解説する。
13回	キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について解説する。
14回	キャリア教育の充実方策について解説する。
15回	重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について解説する。
16回	中間試験を実施する。
17回	キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について解説する。
18回	各学校段階における推進のポイント(幼児期・義務教育)について解説する。
19回	各学校段階における推進のポイント(後期中等教育・特別支援学校)について解説する。
20回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について解説する。
21回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について解説する。
22回	高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について解説する。
23回	高等学校(特に普通科)における課題について解説する。
24回	専門学科における職業教育について解説する。
25回	専門学科における職業教育の推進方策について解説する。
26回	総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について解説する。
27回	専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について解説する。
28回	生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について解説する。
29回	中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について解説する。
30回	職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について解説する。
31回	地域社会や企業・学校間の連携について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編を参考にして、職業指導、進路指導、キャリア教育の概念を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業指導、進路指導、キャリア教育の概念について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(以下テキスト)の序章及び第1章のサマリーを参考に職業指導の目指す教育活動について調べておくこと。発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業指導の目指す教育活動について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p1,2,27,28,29を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教育課程編成の原則について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p65~70を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業教育に関して配慮すべき事項について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p70~76を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】言語活動、ガイダンスの機能、生徒指導、進路指導について復習し、説明できるようにし

	ておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p76～87、特別活動編p12～13を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】様々な配慮事項と特別活動との関連性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】テキストのp3～8を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の産業構造や就業構造の変化について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】テキストのp8～p11を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】テキストのp12～p15を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】テキストのp17～p19を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の内容と課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】テキストのp19～p20を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の基本的方向性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】テキストのp21～p27を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】テキストのp29～p31を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】テキストのp31～p32を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育の充実方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】テキストのp33～p35を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1回から第15回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17回	【予習】テキストのp35～p37を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
18回	【予習】テキストのp38～p40を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】各学校段階における推進のポイント（幼児期・義務教育）について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
19回	【予習】テキストのp40～p41を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】各学校段階における推進のポイント（後期中等教育・特別支援学校）について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
20回	【予習】テキストのp43～p45を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
21回	【予習】テキストのp45～p46を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
22回	【予習】テキストのp47～p49を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼン

	<p>テーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
23回	<p>【予習】テキストのp49～p54を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】高等学校（特に普通科）における課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
24回	<p>【予習】テキストのp54～p56を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門学科における職業教育について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
25回	<p>【予習】テキストのp56～p58を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門学科における職業教育の推進方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
26回	<p>【予習】テキストのp58～p60を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
27回	<p>【予習】テキストのp61～p65を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
28回	<p>【予習】テキストのp90～p91を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
29回	<p>【予習】テキストのp92～p93を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
30回	<p>【予習】テキストのp93～p94を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
31回	<p>【予習】テキストのp96～p100を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】地域社会や企業・学校間の連携について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>

講義目的	工業を学ぶ生徒たちが生涯学習の観点に立って自らの進路を適切に選択し、自己実現を図るために、教師がなすべき指導・援助のあり方やその指導法を身につけられるようにする。 (工学部の卒業認定・学位授与の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校学習指導要領に記載されている進路指導、職業指導、キャリア教育に関わる内容を理解し、実践できる(C)。 2 自己教育力の概念を理解し、指導法を身につけ実践できる(C)。 3 キャリア教育の基本方向を理解し、有効な推進方策を策定できる(C)。 4 生涯学習、リカレント学習について理解し、指導できる(C)。 5 地域社会や企業・学校間連携の意義を理解し、実践できる(C)。
キーワード	・職業教育 ・キャリア教育 ・生涯学習 ・知識基盤社会 ・リカレント学習 ・地域社会・企業・学校間連携
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験(30%、目標12)、最終評価試験(30%、目標345)、発表及びプレゼンテーション(40%、目標12345)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 総則編/文部科学省/東山書房/9784827814804:平成21年高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/9784303126308:中央教育審議会答申 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について/文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm から各自ダウンロードしておくこと。授業にノートPC等持込可。
関連科目	生徒・進路指導論
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	・授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は授業内で配付する。 ・中間試験・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・各回とも学生による発表と発表後のディスカッションを行うため、発表者はプレゼンテーション等の準備を必ず行うこと。
アクティブ・ラーニング	第1回を除く各回とも学生による発表とそれに伴うディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	各回とも学生による発表とディスカッションの後、担当者によるフィードバックを行う。中間試験・最終評価試験を60分で実施し、残る30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 工業高校において教諭（進路指導担当）と管理職（進路指導部会長）を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かしてキャリア教育と職業指導について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	職業指導(再)【水3水4】(FC003510)
英文科目名	Vocational Guidance
担当教員名	白神憲一*(しらかみけんいち*)
対象学年	2年
単位数	4.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	職業指導の意義と内容、授業の進め方について説明する。
2回	職業指導の基本的性格について解説する。
3回	学習指導要領総則と職業指導1(教育課程編成の原則)について解説する。
4回	学習指導要領総則と職業指導2(職業教育に関して配慮すべき事項)について解説する。
5回	学習指導要領総則と職業指導3(教育課程の実施に当たって配慮すべき事項)について解説する。
6回	学習指導要領総則と職業指導4(特別活動との関連)について解説する。
7回	我が国の産業構造や就業構造の変化について解説する。
8回	学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について解説する。
9回	社会全体を通じた職業に関する教育に対する認識について解説する。
10回	キャリア教育・職業教育の内容と課題について解説する。
11回	キャリア教育・職業教育の基本的方向性について解説する。
12回	キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について解説する。
13回	キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について解説する。
14回	キャリア教育の充実方策について解説する。
15回	重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について解説する。
16回	中間試験を実施する。
17回	キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について解説する。
18回	各学校段階における推進のポイント(幼児期・義務教育)について解説する。
19回	各学校段階における推進のポイント(後期中等教育・特別支援学校)について解説する。
20回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について解説する。
21回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について解説する。
22回	高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について解説する。
23回	高等学校(特に普通科)における課題について解説する。
24回	専門学科における職業教育について解説する。
25回	専門学科における職業教育の推進方策について解説する。
26回	総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について解説する。
27回	専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について解説する。
28回	生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について解説する。
29回	中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について解説する。
30回	職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について解説する。
31回	地域社会や企業・学校間の連携について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編を参考にして、職業指導、進路指導、キャリア教育の概念を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業指導、進路指導、キャリア教育の概念について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(以下テキスト)の序章及び第1章のサマリーを参考に職業指導の目指す教育活動について調べておくこと。発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業指導の目指す教育活動について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p1,2,27,28,29を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教育課程編成の原則について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p65~70を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】職業教育に関して配慮すべき事項について復習し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p70~76を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】言語活動、ガイダンスの機能、生徒指導、進路指導について復習し、説明できるようにし

	ておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p76～87、特別活動編p12～13を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】様々な配慮事項と特別活動との関連性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】テキストのp3～8を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の産業構造や就業構造の変化について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】テキストのp8～p11を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】テキストのp12～p15を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】テキストのp17～p19を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の内容と課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】テキストのp19～p20を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の基本的方向性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】テキストのp21～p27を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】テキストのp29～p31を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】テキストのp31～p32を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育の充実方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】テキストのp33～p35を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1回から第15回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17回	【予習】テキストのp35～p37を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
18回	【予習】テキストのp38～p40を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】各学校段階における推進のポイント（幼児期・義務教育）について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
19回	【予習】テキストのp40～p41を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】各学校段階における推進のポイント（後期中等教育・特別支援学校）について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
20回	【予習】テキストのp43～p45を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
21回	【予習】テキストのp45～p46を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
22回	【予習】テキストのp47～p49を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼン

	<p>テーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
23回	<p>【予習】テキストのp49～p54を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】高等学校（特に普通科）における課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
24回	<p>【予習】テキストのp54～p56を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門学科における職業教育について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
25回	<p>【予習】テキストのp56～p58を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門学科における職業教育の推進方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
26回	<p>【予習】テキストのp58～p60を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
27回	<p>【予習】テキストのp61～p65を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
28回	<p>【予習】テキストのp90～p91を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
29回	<p>【予習】テキストのp92～p93を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
30回	<p>【予習】テキストのp93～p94を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>
31回	<p>【予習】テキストのp96～p100を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。</p> <p>【復習】地域社会や企業・学校間の連携について復習し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。</p>

講義目的	<p>工業を学ぶ生徒たちが生涯学習の観点に立って自らの進路を適切に選択し、自己実現を図るために、教師がなすべき指導・援助のあり方やその指導法を身につけられるようにする。</p> <p>（工学部の卒業認定・学位授与の方針Cにもっとも強く関与）</p>
達成目標	<p>1 高等学校学習指導要領に記載されている進路指導、職業指導、キャリア教育に関わる内容を理解し、実践できる（C）。</p> <p>2 自己教育力の概念を理解し、指導法を身につけ実践できる（C）。</p> <p>3 キャリア教育の基本方向を理解し、有効な推進方策を策定できる（C）。</p> <p>4 生涯学習、リカレント学習について理解し、指導できる（C）。</p> <p>5 地域社会や企業・学校間連携の意義を理解し、実践できる（C）。</p>
キーワード	<p>・職業教育 ・キャリア教育 ・生涯学習 ・知識基盤社会 ・リカレント学習</p> <p>・地域社会・企業・学校間連携</p>
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	<p>中間試験(30%、目標12)、最終評価試験(30%、目標345)、発表及びプレゼンテーション(40%、目標12345)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。</p>
教科書	<p>平成21年高等学校学習指導要領解説 総則編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827814804 : 平成21年高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / 9784303126308 : 中央教育審議会答申 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について / 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htmから各自ダウンロードしておくこと。授業にノートPC等持込可。</p>
関連科目	生徒・進路指導論
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	・授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は授業内で配付する。 ・中間試験・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・各回とも学生による発表と発表後のディスカッションを行うため、発表者はプレゼンテーション等の準備を必ず行うこと。
アクティブ・ラーニング	第1回を除く各回とも学生による発表とそれに伴うディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	各回とも学生による発表とディスカッションの後、担当者によるフィードバックを行う。中間試験・最終評価試験を60分で実施し、残る30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 工業高校において教諭（進路指導担当）と管理職（進路指導部会長）を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かしてキャリア教育と職業指導について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	教育課程論 (FC004200)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	宮本浩治* (みやもとこうじ*), 尾島卓* (おじまたく*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓*)
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。 (尾島 卓*)
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓*)
4回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓*)
5回	教科の指導と教科外活動の指導 について説明する。 (尾島 卓*)
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓*)
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義, その指導について説明する。 (尾島 卓*)
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。 (尾島 卓*)
9回	教育内容・教材と教科書(1) 教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラム について説明する。 (尾島 卓*)
10回	教育内容・教材と教科書(2) 学びの履歴としてのカリキュラム開発 について説明する。 (尾島 卓*)
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。 (尾島 卓*)
12回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治*)
13回	学校経営目標とカリキュラム, カリキュラムを具現化する授業について説明する。 (宮本 浩治*)
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (宮本 浩治*)
15回	まとめをする。 (宮本 浩治*)

回数	準備学習
1回	中学校学習指導要領の15～19頁、中学校学習指導要領解説編の10～11頁を読んでおくこと。
2回	中学校学習指導要領解説編の97～100頁を読んでおくこと。
3回	中学校学習指導要領解説編の100～106頁を読んでおくこと。
4回	中学校学習指導要領解説編の44～55頁を読んでおくこと。
5回	中学校学習指導要領解説編の60～66頁を読んでおくこと。

6回	中学校学習指導要領の116～117頁および中学校学習指導要領解説編の80～88頁を読んでおくこと。
7回	中学校学習指導要領の112～115頁および中学校学習指導要領解説編の23～28頁を読んでおくこと。
8回	7回配布の補助資料を読んでおくこと。
9回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
10回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
11回	第10回授業で配布する教育課程表をもとに、学校の特色を決定する要因を探ってくること。
12回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
13回	第12回授業で配布する資料を読み、学校教育目標の設定とカリキュラム開発の関係をまとめておくこと。
14回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を見ておくこと。
15回	これまでの授業ノートを読み返すこと。

講義目的	1. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2. 教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3. カリキュラム（教育課程）と授業実践の双方向性を理解する。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与）
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終評価試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合は不合格とする。
教科書	『中学校学習指導要領』/文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省
関連科目	特別活動の理論と方法、教育の方法と技術
参考書	『教育方法学』/佐藤 学/岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』/田中耕治等編/有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp（尾島卓）
授業の運営方針	講義のはじめに予習の成果をはかる小テストを行います。解答の出来不出来にかかわらず、採点後は解答を見直しましょう。 教科書等に基づいて専門的な知識や考え方について講義を行います。板書の内容も含めてメモを取りながら講義を聴いて下さい。また、内容によって受講者同士で情報交換を行うこともあります、課題に即して積極的に対話しましょう。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義時間最初に行う確認テストの採点は各自で教科書等を使って行って下さい。 講義期間中に課す小レポートは配布された用紙を使用して作成することとします。用紙配布時に提出期限と提出先も知らせますので、中止して下さい。 最終試験の模範解答は最終試験終了時に配布します。教科書等と付き合わせて出題意図を確認すると、より学習が深まるでしょう。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	課題（準備学習で示す）については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。

科目名	教育課程論【月4木4】(FC004210)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	教育課程論【月5木5】(FC004220)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	教育課程論【月4木4】(FC004230)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	教育課程論【月5木5】(FC004240)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見える教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	教育課程論【火5金5】(FC004250)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	教育課程論【火5金5】(FC004260)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至*(こばやし たつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、中等の教育課程の目的とその社会的役割について説明する。
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。
4回	学習指導要領の「教科」と「領域」について説明する。
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義および指導について説明する。
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。
9回	教育内容・教材と教科書(1):教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラムについて説明する。
10回	教育内容・教材と教科書(2):学びの履歴としてのカリキュラム開発について説明する。
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。
12回	学校ごとの経営目標とカリキュラム(カリキュラムを具現化する授業)について説明する。
13回	カリキュラムの開発(構成・実施・評価・改善の具体的事例)について説明する。
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の1~7頁「1改訂の経緯及び基本方針」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の17~46頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の47~76頁「第3章 教育課程の編成及び実施」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
5回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】『中学校学習指導要領解説総則編』の131~148頁「第6節 道徳教育推進上の配慮事項」を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の36~47頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の137~149頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】ポータルサイトにアップしている資料を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間60分)。

	60分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の318～345頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】『探究する資質・能力を育む理科教育』の65～84頁を読んで、内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業内容を振り返り、要点が説明できるようにすること(標準学習時間60分)。
15回	【予習】これまでの授業で説明した資料(ポータルサイト)を読み返しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】これまでの授業内容を整理し、試験に備えておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	これからの学校教育に求められている、学校(教師)による学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価に資するために、教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与)
達成目標	1. 教育課程の概念を理解し説明することができる(G)。 2. 法令としての学習指導要領の意義と目的を理解し説明することができる(G)。 3. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解し説明することができる(G)。 4. 新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解し説明することができる(G)。 5. 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び(カリキュラム・マネジメント)を実現する授業を構想するための理論を理解し説明することができる(G)。 6. 「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解し説明することができる(G)。 7. 教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解し説明することができる(G)。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験による評価(60点:達成目標1～7の評価)、ならびにレポートによる評価(40点:達成目標1～7の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編/文部科学省/東山書房 探究する資質・能力を育む理科教育/小林辰至/大学教育出版/ISBN978-4-86429-483-6 中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領(平成30年告示)/文部科学省/未定
関連科目	教育の方法と技術
参考書	特になし。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	授業で使用する資料は、2日前にはポータルサイトにアップするので、プリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニング	予想や仮説を立てる際の思考のトレーニング及び評価規準・評価基準の作成の仕方を習得する学習は、演習として行う。
課題に対するフィードバック	・授業時間内に取り組んだ課題についてのレポートに対しては、点検後、次時の授業で返却するとともに、要点や留意点を解説する。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	教科書に指定している「中学校学習指導要領(平成29年告示)」と「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」は、本授業での直接的な使用頻度は低いですが、すべての教職関連科目に関わるものであるため、1年次に必ず購入し、各科目の学習において適宜、教科書または参考書として活用すること。

科目名	数学教育法 【月2木2】 (FC004300)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校数学科における目標について考察する。
2回	中学校数学科における「数と式」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
3回	中学校数学科における「図形」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
4回	中学校数学科における「関数」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
5回	中学校数学科における「データの活用」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
6回	高等学校数学科における目標について考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
8回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
9回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
10回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
11回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
12回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
14回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について総合的に考察する。
15回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における学習評価について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(中学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「数と式」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「図形」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「関数」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「データの活用」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「データの活用」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】高等学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(高等学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】高等学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「数と式」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「図形」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「関数」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「微分法・積分法」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。

	【復習】高等学校数学科の「微分法・積分法」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 1 回	【予習】教科書の該当箇所（高等学校数学科「確率・統計」）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】高等学校数学科の「確率・統計」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的活動）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的活動に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的リテラシー）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的リテラシーに関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】配付資料の該当箇所（情報機器及び教材の活用）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】情報機器及び教材の活用に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】配付資料の該当箇所（学習評価）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習評価に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について説明することができる(A)。 2) 数学科授業を構成するための理論と方法を説明することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的リテラシー, 情報機器の活用, 学習評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%) (達成目標1)と2)を確認), 授業中の課題(30%) (達成目標1)と2)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書
関連科目	数学教育法II, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・最終評価試験では, 不正行為に対して厳格に対処する。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・最終評価試験については, 試験終了後に解説を行う。 ・授業中の課題については, 講義中に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【火4金4】 (FC004310)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校数学科における目標について考察する。
2回	中学校数学科における「数と式」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
3回	中学校数学科における「図形」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
4回	中学校数学科における「関数」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
5回	中学校数学科における「データの活用」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
6回	高等学校数学科における目標について考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
8回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
9回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
10回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
11回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
12回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
14回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について総合的に考察する。
15回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における学習評価について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(中学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「数と式」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「図形」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「関数」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「データの活用」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「データの活用」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】高等学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(高等学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】高等学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「数と式」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「図形」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「関数」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「微分法・積分法」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。

	【復習】高等学校数学科の「微分法・積分法」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 1 回	【予習】教科書の該当箇所（高等学校数学科「確率・統計」）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】高等学校数学科の「確率・統計」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的活動）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的活動に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的リテラシー）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的リテラシーに関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】配付資料の該当箇所（情報機器及び教材の活用）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】情報機器及び教材の活用に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】配付資料の該当箇所（学習評価）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習評価に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について説明することができる(A)。 2) 数学科授業を構成するための理論と方法を説明することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的リテラシー, 情報機器の活用, 学習評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%)(達成目標1)と2)を確認), 授業中の課題(30%)(達成目標1)と2)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書
関連科目	数学教育法II, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・最終評価試験では, 不正行為に対して厳格に対処する。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・最終評価試験については, 試験終了後に解説を行う。 ・授業中の課題については, 講義中に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月2木2】 (FC004320)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校数学科における目標について考察する。
2回	中学校数学科における「数と式」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
3回	中学校数学科における「図形」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
4回	中学校数学科における「関数」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
5回	中学校数学科における「データの活用」領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
6回	高等学校数学科における目標について考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
8回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
9回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
10回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
11回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教材の活用に関する教材研究を考察する。
12回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13回	学習指導案作成を通して、中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
14回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について総合的に考察する。
15回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における学習評価について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(中学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「数と式」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「図形」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「関数」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】教科書の該当箇所(中学校数学科「データの活用」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校数学科の「データの活用」領域に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】高等学校数学科の目標について考えておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所(高等学校数学科「目標」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間60分)。 【復習】高等学校数学科の目標に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「数と式」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「数と式」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「図形」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「図形」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「関数」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。 【復習】高等学校数学科の「関数」に関わる領域の特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】教科書の該当箇所(高等学校数学科「微分法・積分法」)を読み、課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間90分)。

	【復習】高等学校数学科の「微分法・積分法」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 1 回	【予習】教科書の該当箇所（高等学校数学科「確率・統計」）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】高等学校数学科の「確率・統計」に関わる領域の特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的活動）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的活動に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】配付資料の該当箇所（数学的リテラシー）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】数学的リテラシーに関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】配付資料の該当箇所（情報機器及び教材の活用）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】情報機器及び教材の活用に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】配付資料の該当箇所（学習評価）を読み、課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習評価に関する特徴を纏めておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について説明することができる(A)。 2) 数学科授業を構成するための理論と方法を説明することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的リテラシー, 情報機器の活用, 学習評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%) (達成目標1)と2)を確認), 授業中の課題(30%) (達成目標1)と2)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書
関連科目	数学教育法II, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・最終評価試験では, 不正行為に対して厳格に対処する。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・最終評価試験については, 試験終了後に解説を行う。 ・授業中の課題については, 講義中に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月2木2】 (FC004400)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について、アクティブラーニングや数学的活動の観点から整理をする。
3回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
4回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
5回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
6回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
8回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
9回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
10回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
11回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
12回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
13回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
14回	高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
15回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】アクティブラーニングや数学的活動に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関

	わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること（標準学習時間180分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしなが ら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者 にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を 通して、数学科授業における指導と評価の在り方を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, アクティブラーニング, 数学的活動, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), コメントシートの記述(30%)(達成目標2)と 4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導 要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学 校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキ ュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校 編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖 文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスア ワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを 行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・コメントシートの記述については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提 供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認める ので, 事前に相談すること。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none">・配付資料や録画データなどは他者への再配付（ネットやSNSなどへのアップロードを含む）や転用は禁止する。・基本的には撮影・録音は禁止するが、やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【火3金3】 (FC004410)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について、アクティブラーニングや数学的活動の観点から整理をする。
3回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
4回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
5回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
6回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
8回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
9回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
10回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
11回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
12回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
13回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
14回	高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
15回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】アクティブラーニングや数学的活動に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関

	わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること（標準学習時間180分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしなが ら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者 にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を 通して、数学科授業における指導と評価の在り方を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, アクティブラーニング, 数学的活動, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), コメントシートの記述(30%)(達成目標2)と 4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導 要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学 校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキ ュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校 編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖 文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスア ワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを 行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・コメントシートの記述については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提 供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認める ので, 事前に相談すること。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none">・配付資料や録画データなどは他者への再配付（ネットやSNSなどへのアップロードを含む）や転用は禁止する。・基本的には撮影・録音は禁止するが、やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月2木2】 (FC004420)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における情報機器及び教材の活用について、アクティブラーニングや数学的活動の観点から整理をする。
3回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
4回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
5回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
6回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
7回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
8回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
9回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
10回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
11回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
12回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
13回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
14回	高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の模擬授業を行い、その授業の課題等を考察する。
15回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】アクティブラーニングや数学的活動に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関

	わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「理数探究」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をアクティブラーニングや数学的活動の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること（標準学習時間180分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしなが ら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者 にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を 通して、数学科授業における指導と評価の在り方を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) アクティブラーニングを観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, アクティブラーニング, 数学的活動, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), コメントシートの記述(30%)(達成目標2)と 4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法III, 数学教育法IV
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導 要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学 校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキ ュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校 編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖 文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスア ワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを 行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・コメントシートの記述については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提 供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認める ので, 事前に相談すること。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none">・配付資料や録画データなどは他者への再配付（ネットやSNSなどへのアップロードを含む）や転用は禁止する。・基本的には撮影・録音は禁止するが、やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	理科教育法 【月2木2】 (FC004500)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ), 岡本弥彦(おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し、理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査、教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ、理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに、各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに、それらに基づいて、小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9回	第1回～第8回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
10回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12回	観察・実験や野外観察における事故防止、薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13回	理科の目標と評価の観点との関係や、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14回	学習指導案作成の意義や、学習指導案の様式、内容、作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6、高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科（理科）の目標（学習指導要領解説理科編のp.16-17）、高等学校学習指導要領における理科の目標（学習指導要領解説理科編理数編のp.12）を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み、理科の内容構成の概要を理解しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
5回	【予習】「エネルギー」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
6回	【予習】「粒子」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
7回	【予習】「生命」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
8回	【予習】「地球」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には、どのような関連があるかを考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を、できるだけ多く考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるできるようにしておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	理科教育の現状と課題や、中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し、中・高等学校の理科教員として必要な基礎的、基本的な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 (A) 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。(A) 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。(A)
キーワード	理科教育、学習指導要領、理科の目標、指導観
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準60点）	提出課題49%（達成目標、 、 ）、第9回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%（達成目標、 、 ）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月 / 文部科学省 / 大日本図書 / 9784477019796 : 高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407319262 : 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編 平成29年7月 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130 : 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説理科編 / 文部科学省（平成31年3月発刊予定）
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4 F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2 F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。 第9回目と第15回目には、授業の振り返りのための試験を実施するとともに、小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 第9回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたって教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求めます。

科目名	理科教育法 【月3木3】 (FC004510)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ), 岡本弥彦(おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し、理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査、教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ、理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに、各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに、それらに基づいて、小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9回	第1回～第8回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
10回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12回	観察・実験や野外観察における事故防止、薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13回	理科の目標と評価の観点との関係や、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14回	学習指導案作成の意義や、学習指導案の様式、内容、作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6、高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科（理科）の目標（学習指導要領解説理科編のp.16-17）、高等学校学習指導要領における理科の目標（学習指導要領解説理科編理数編のp.12）を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み、理科の内容構成の概要を理解しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
5回	【予習】「エネルギー」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
6回	【予習】「粒子」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
7回	【予習】「生命」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
8回	【予習】「地球」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には、どのような関連があるかを考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を、できるだけ多く考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるできるようにしておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	理科教育の現状と課題や、中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し、中・高等学校の理科教員として必要な基礎的、基本的な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 (A) 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。(A) 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。(A)
キーワード	理科教育、学習指導要領、理科の目標、指導観
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準60点）	提出課題49%（達成目標、 、 ）、第9回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%（達成目標、 、 ）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月 / 文部科学省 / 大日本図書 / 9784477019796 : 高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407319262 : 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編 平成29年7月 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130 : 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説理科編 / 文部科学省（平成31年3月発刊予定）
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4 F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2 F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。 第9回目と第15回目には、授業の振り返りのための試験を実施するとともに、小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 第9回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたって教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求めます。

科目名	理科教育法 【月4木4】 (FC004520)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	藤本義博 (ふじもとよしひろ), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し、理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査、教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ、理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに、各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに、それらに基づいて、小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに、その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9回	第1回～第8回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
10回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12回	観察・実験や野外観察における事故防止、薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13回	理科の目標と評価の観点との関係や、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14回	学習指導案作成の意義や、学習指導案の様式、内容、作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6、高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科（理科）の目標（学習指導要領解説理科編のp.16-17）、高等学校学習指導要領における理科の目標（学習指導要領解説理科編理数編のp.12）を読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み、理科の内容構成の概要を理解しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
5回	【予習】「エネルギー」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
6回	【予習】「粒子」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
7回	【予習】「生命」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
8回	【予習】「地球」に関して、小・中・高等学校の学習内容の系統性（高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11）を確認しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には、どのような関連があるかを考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を、できるだけ多く考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるようにしておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	理科教育の現状と課題や、中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し、中・高等学校の理科教員として必要な基礎的、基本的な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 (A) 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。(A) 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。(A)
キーワード	理科教育、学習指導要領、理科の目標、指導観
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準60点）	提出課題49%（達成目標、 、 ）、第9回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%（達成目標、 、 ）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月 / 文部科学省 / 大日本図書 / 9784477019796 : 高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407319262 : 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編 平成29年7月 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130 : 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説理科編 / 文部科学省（平成31年3月発刊予定）
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4 F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2 F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。 第9回目と第15回目には、授業の振り返りのための試験を実施するとともに、小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 第9回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたって教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求めます。

科目名	理科教育法 【月3木3】 (FC004600)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (全教員)
2回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに、各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5回	「生命」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「地球」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	第1回～第7回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
9回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12回	「生命」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13回	「地球」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点の暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22、p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26~)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30~)、「中和と塩について」(p.52~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75~)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80~)、「日周運動と自転について」(p.87~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54~)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回~第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(ア) 火山活動と火成岩について」(p.68~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回~第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】第9回~第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。
------	--

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。 (A) 理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 (A) 観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。(A)
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ワークシート49%(達成目標・・・)、第8回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%(達成目標・・・)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月/文部科学省/実教出版/9784407319262:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 平成29年7月/文部科学省/学校図書/9784762506130:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編/文部科学省(平成31年3月発刊予定)
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び(いわゆる、アクティブ・ラーニング)を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。 第8回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 最終評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC004610)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ), 岡本弥彦(おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (全教員)
2回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに、各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5回	「生命」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「地球」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	第1回～第7回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
9回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12回	「生命」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13回	「地球」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点の暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22、p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26~)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30~)、「中和と塩について」(p.52~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75~)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80~)、「日周運動と自転について」(p.87~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54~)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回~第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(ア) 火山活動と火成岩について」(p.68~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回~第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】第9回~第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。
------	--

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	<p>中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。</p> <p>(A)</p> <p>理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。</p> <p>(A)</p> <p>観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。(A)</p>
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ワークシート49%(達成目標 . . .)、第8回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%(達成目標 . . .)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月/文部科学省/実教出版/9784407319262:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 平成29年7月/文部科学省/学校図書/9784762506130:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編/文部科学省(平成31年3月発刊予定)</p>
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	<p>「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」</p> <p>「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」</p> <p>「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」</p> <p>その他は授業中に適宜紹介する。</p>
連絡先	<p>D 2号館 4F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp</p> <p>C 3号館 2F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp</p> <p>オフィスアワーは、mylogで確認すること。</p>
授業の運営方針	<p>理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。</p> <p>やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>主体的・対話的で深い学び(いわゆる、アクティブ・ラーニング)を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。</p> <p>第8回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。</p>
課題に対するフィードバック	<p>反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。</p> <p>授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。</p> <p>課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>最終評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	<p>授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。</p> <p>また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。</p>

科目名	理科教育法 【月2木2】 (FC004620)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ), 岡本弥彦(おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに、観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (全教員)
2回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに、各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5回	「生命」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「地球」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について、学習指導要領におけるねらいを解説するとともに、観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	第1回～第7回の授業内容について、評価試験を実施し、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (全教員)
9回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10回	「エネルギー」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11回	「粒子」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12回	「生命」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13回	「地球」に関する学習内容について、学習指導案(本時案)の作成を通して、授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
15回	1回から14回までの内容に関する評価試験を実施するとともに、模範解答を解説する。理科教育の課題を踏まえながら、これからの理科教育の方向性について解説するとともに、それを実現するための指導事例を紹介する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点から暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22、p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26~)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30~)、「中和と塩について」(p.52~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75~)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80~)、「日周運動と自転について」(p.87~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54~)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回~第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(ア) 火山活動と火成岩について」(p.68~)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回~第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】第9回~第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1回から14回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】理科教育に関して、各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。
------	--

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	<p>中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。</p> <p>(A)</p> <p>理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。</p> <p>(A)</p> <p>観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。(A)</p>
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ワークシート49%(達成目標 . . .)、第8回目と第15回目の授業で実施する評価試験51%(達成目標 . . .)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月/文部科学省/実教出版/9784407319262:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 平成29年7月/文部科学省/学校図書/9784762506130:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編/文部科学省(平成31年3月発刊予定)</p>
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	<p>「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」</p> <p>「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」</p> <p>「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」</p> <p>「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」</p> <p>その他は授業中に適宜紹介する。</p>
連絡先	<p>D 2号館 4F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp</p> <p>C 3号館 2F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp</p> <p>オフィスアワーは、mylogで確認すること。</p>
授業の運営方針	<p>理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。</p> <p>やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>主体的・対話的で深い学び(いわゆる、アクティブ・ラーニング)を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で実践授業を視聴して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。</p> <p>第8回目と第15回目の授業で評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。</p>
課題に対するフィードバック	<p>反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。</p> <p>授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。</p> <p>課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>最終評価試験を実施し、試験後にフィードバックとして模範解答を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	<p>授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたって教える立場を想定して理解すること。</p> <p>また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。</p>

科目名	技術科教育法 【月1木1】 (FC004700)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts I
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。続いて、それぞれが受けた技術・家庭科の学習を振り返りながら教職の意義を考察する。
2回	技術科教育の歴史(1)：職業科、職業・家庭科および背景となる学問領域の概要を解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
3回	技術科教育の歴史(2)：技術・家庭科及び背景となる学問領域の変遷を解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
4回	技術・家庭科の性格、目標、内容と教材の特徴について解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
5回	技術分野(技術科)の内容を解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
6回	技術科の学習指導について解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
7回	技術科の授業評価について解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
8回	技術科の生徒指導要録、施設・設備と安全管理について解説する。最後に本時の授業内容について、小テストを実施する。
9回	指導計画の作成法を解説する。
10回	年間指導計画を作成させる。
11回	作成した年間指導計画のプレゼンテーション(情報機器の活用)を実施し、相互評価を踏まえて指導計画を完成させる。
12回	学習指導案の作成法を解説する。
13回	学習指導案の事例を考察する。
14回	学習指導案を作成させる。
15回	作成した学習指導案のプレゼンテーション(情報機器の活用)を行い、相互評価を踏まえて指導案を完成させる。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスに目を通して本授業の内容、目的、達成目標等を確認しておくこと。また、自分が受けた「技術・家庭科」技術分野の授業を振り返り、授業に対する感想と授業内容・製作題材を書き出しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	予習：参考書4の第9章2節(1)(2)を読み、内容を整理しておくこと(標準学習時間120分)。復習：授業の進め方、内容、成績評価等を確認しておくこと(標準学習時間30分)。
3回	予習：参考書4の第9章2節(3)を読み内容を整理しておくこと(標準学習時間120分)。復習：職業科、職業・家庭科の歴史を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	予習：参考書4の第9章2節(3)を読み内容を整理しておくこと。教科書「学習指導要領解説 技術・家庭編」第2章第1節の性格・目標および内容を読み整理しておくこと。(標準学習時間120分)。復習：技術・家庭科の歴史を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。

5回	予習：教科書「学習指導要領解説 技術・家庭編」第2章第2節を読んで内容を整理しておくこと（標準学習時間120分）。復習：技術・家庭科の性格、目標、内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6回	予習：プロジェクト法について提唱者、内容等について調べ、まとめておくこと（標準学習時間120分）。復習：技術科の内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
7回	予習：評価及び評定とは何か、またその違いや評価基準などを調べ、まとめておくこと（標準学習時間120分）。復習：技術科の学習指導法を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	予習：生徒指導要録とは何か、またその内容について調べ、まとめておくこと。また、技術科に必要な安全管理について整理しておくこと（標準学習時間120分）。復習：技術科の授業評価について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	予習：指導計画とは何か、またどのような内容が記載されているか、留意点は何かなどを調べておくこと（標準学習時間120分）。復習：技術科の生徒指導要録、施設・設備と安全管理について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	予習：前回配付された年間指導計画の事例その他を参考にして、各自指導計画を検討しておくこと（標準学習時間120分）。復習：指導計画の作成法を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	予習：プレゼンテーションの準備をすること。（標準学習時間180分）。
12回	予習：学習指導案とは何か、どんな内容が記載されているか、留意点は何かなどについて調べておくこと（標準学習時間120分）。復習：前回の相互評価を反映して年間指導計画を完成させること（標準学習時間60分）。
13回	予習：授業練習で実施したい内容を熟慮しまとめておくこと（標準学習時間120分）。復習：学習指導案の作成法を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	予習：各自で学習指導案を検討しておくこと（標準学習時間120分）。復習：前回配付された学習指導案事例に目を通し整理しておくこと（標準学習時間60分）。
15回	予習：プレゼンテーションの準備をすること（標準学習時間180分）。

講義目的	技術科教育の現状と課題や中学校の学習指導要領における技術科の目標と内容などを理解し、中学校技術科教員として必要な基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を技術科の学習指導に活用できる応用力の基礎を身に付ける。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する）
達成目標	1. 技術科教育の歴史をふまえた現状と課題を説明できる。(A) 2. 中学校学習指導要領における技術科の目標と内容について説明できる。(A) 3. 技術科の効果的な学習指導法をふまえた指導計画・学習指導案が作成できる。(A)
キーワード	技術・家庭科、技術科、技術分野、指導計画、学習指導案
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト60%（到達目標1.2.を評価）、提出課題（指導計画と学習指導案）の内容40%（到達目標3.を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304021541
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法
参考書	
連絡先	・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail : nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。

授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習の詳細については授業中に指示する。 ・第2～8回ではその時間に学習した内容の小テストを実施する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことで理解を深める。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解答は次回授業の最初に解説する。 ・提出課題（指導計画・学習指導案）については、授業において発表や討論等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	技術科教育法 【月1木1】 (FC004800)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts II
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	技術科教育の現状と課題を概観する。
2回	DVDを視聴し、よい授業の条件を検討する。
3回	前回の内容を振り返り、よい授業の条件について議論する。
4回	材料と加工について教科書の内容を確認し検討する。
5回	エネルギー変換について教科書の内容を確認し検討する。
6回	生物育成について教科書の内容を確認し検討する。
7回	情報について教科書の内容を確認し検討する。
8回	指導案を作成する。
9回	各自の指導案を協議検討する。
10回	主に板書指導に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
11回	主に発問・指名に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
12回	主にノート指導・机間指導に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
13回	主に情報機器の使い方に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
14回	主に教材・教具に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
15回	主に教材・教具に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	中学校学習指導要領第1章総則と第2章第8節を読んで中学校教育の目的、技術・家庭科の意義を確認して授業に臨むこと(標準学習時間180分)。
2回	【予習】自分が受けた技術科の授業を振り返り、授業の構成や指導法を確認すること(標準学習時間120分)。
3回	第2回の内容から、良い授業の条件を整理すること(標準学習時間60分)。本時のテーマに向けて自分の考えをまとめておくこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の内容をまとめること(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の内容をまとめること(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所に目を通し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
6回	第5回本時の内容をまとめること(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所に目を通し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
7回	第6回の内容をまとめること(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

8回	第7回の内容をまとめること(標準学習時間60分)。各自が実施したい指導内容を検討して授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
9回	指導案の原案を作成すること(標準学習時間60分)。原案を完成して授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
10回	第9回で行った協議検討の内容を踏まえて指導案を完成させること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間120分)。
11回	第10回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間60分)。
12回	第11回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間120分)。
13回	第12回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間60分)。
14回	第13回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、それ以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間120分)。
15回	第14回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してこること(標準学習時間120分)。
16回	第15回で得たことと残された課題をまとめること(標準学習時間60分)。第1回～第15回までの内容を振り返って整理し、よく理解しておくこと(標準学習時間120分)。

講義目的	中学校の技術科教員免許状を取得するための必修科目であり、技術科教育法の演習に当たる講義である。技術分野の指導方法を模擬授業を通して具体的に実践することにより、技術科教師に必要な指導力の向上を目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 模擬授業を通して中学校技術科教員に必要な基本的・実践的な指導技術について説明できる。(A) 2. 模擬授業を通して中学校技術科教員に必要な基本的な実践指導ができる。(A)
キーワード	技術科、技術科教育法
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題の内容20%(達成目標の1.を評価)、模擬授業20%(達成目標の1.2.を評価)、最終評価試験60%(達成目標の1.2.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法、
参考書	1. 文部科学省検定済教科書「新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2. 文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 教育図書 3. 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省・教育図書 4. 他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail: nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習の詳細については授業中に指示する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことで理解を深める。
課題に対するフィード	・提出課題は提出時または次時の授業でのアドバイスを通して深化を図る。

バック	・最終評価試験については実施後、模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	「技術科教育法」を修得していることが望ましい。

科目名	工業科教育法 【火4金4】 (FC004900)
英文科目名	Teaching Method of Industrial Arts I
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	工業教育の意義・役割・目標・内容について解説する。
2回	教育関連法令について解説する。
3回	工業高校発展の歴史と現状について解説する。
4回	教科「工業」の共通科目について解説する。
5回	工業科の主な学科の実験・実習について解説する。
6回	「工業数理基礎」指導法1(高さの測定)について解説する。
7回	「工業数理基礎」指導法2(教材教具の製作)について実習する。
8回	「工業数理基礎」指導法3(授業実践・測定と結果の考察)について実習する。
9回	実践的工業教育(インターンシップ、資格取得)について解説する。
10回	教育課程の意義・目標・役割・構成要素について解説する。
11回	工業教育における教育課程の特徴とその編成について解説する。
12回	年次計画・年間計画(シラバス)及び単元計画と授業分析について解説する。
13回	授業設計と学習指導案について解説する。指導案を作成し、提出する。
14回	前回作成した指導案に基づいて模擬授業を実施する。
15回	学習評価について解説する。
16回	最終評価試験(60分)を実施し、解説を行う。

回数	準備学習
2回	【予習】関連法令を調べ、熟読して内容をまとめておくこと(第1回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、教育関連法令について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと(第2回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、工業教育発展の歴史と現状について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】学習指導要領解説工業編第1章第3節を熟読して内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、教科「工業」の共通科目について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと(第4回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、工業科の主な実験・実習について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】資料の該当箇所を熟読して内容をまとめておくこと(第5回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、「高さの測定」について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】第5回終了時に配付する資料の該当箇所を熟読し、必要な材料を準備しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、教材・教具の製作ができるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】第5回終了時に配付する資料の該当箇所を一読して内容をまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、測定と結果の考察について生徒を指導できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと(第8回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、インターンシップ、資格取得の重要性について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと(第9回終了時に資料を配付する)(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習し、教育課程の意義・目標・役割・構成要素について説明できるように

	しておくこと（標準学習時間60分）。
1 1 回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと（第10回終了時に資料を配付する）（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習し、工業教育における教育課程の特徴とその編成について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 2 回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと（第11回終了時に資料を配付する）。 【復習】本時の内容を復習し、年次・年間・単元計画と授業分析について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 3 回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと（第12回終了時に資料を配付する）（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習し、授業設計について説明できるとともに指導案を作成できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 4 回	【予習】発表の準備を整えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習し、模擬授業で受けた指摘について改善できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 5 回	【予習】資料を熟読して内容をまとめておくこと（第14回終了時に資料を配付する）（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習し、学習評価について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 6 回	【予習】試験範囲をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	将来、高等学校工業科の教員または工業教育に携わることを希望する学生が教科指導力を身につけることを主目的とするが、教育課程の作成を通して広く工業の知識も身につけられるようにする。（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与）
達成目標	1 教師が教育活動を行う際、学校関係教育法規とどのような関係があるか理解し説明することができる（A）。 2 教科「工業」の目標を理解し説明することができる（A）。 3 工業高校の教育課程を作成できる（A）。 4 安全教育の必要性を理解し説明することができる（A）。 5 教科・科目の指導法を身につけることができる（A）。 6 評価の観点を理解し説明することができる（A）。 7 学習指導案を作成できる（A）。
キーワード	・工業教育の意義と役割 ・教育関連法規 ・模擬授業 ・工業高等学校の実際と実務 ・情報機器の活用 ・教材の製作と活用 ・学習指導計画 ・授業分析
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（60%、目標1 2 3 4 6）と課題提出（20%目標7）、模擬授業（20%目標5）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 工業編 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407320015
関連科目	本授業科目履修後に「工業科教育法」を受講することが望ましい。
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・資料は授業内で配付する。 ・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・第7,8回では、教具の自作について実習するとともに、それを用いた授業を想定した活動を行う。 ・第14回の模擬授業は、全員が行う。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション 教材を各自で創意工夫して作成し、それを用いた授業の一部をグループワークで行う。 模擬授業でプレゼンテーションを用いる。
課題に対するフィードバック	第13回で提出する指導案については、添削した後に返却する。 模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 工業高校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして工業高校における指導の実際について講義する。

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	工業科教育法 【火3金3】 (FC005000)
英文科目名	Teaching Method of Industrial Arts II
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	科目「工業数理基礎」の目標・内容について解説する。
2回	科目「工業数理基礎」の年間指導計画1(4単位の年間指導計画)を作成する。
3回	科目「工業数理基礎」の年間指導計画2(2単位の年間指導計画)を作成する。
4回	科目「工業数理基礎」の学習指導案1(単位と数値処理について)を作成する。
5回	模擬授業1(単位と数値処理について)を実施する。
6回	科目「工業数理基礎」の学習指導案2(直線運動について)を作成する。
7回	模擬授業2(直線運動について)を実施する。
8回	科目「工業数理基礎」の学習指導案3(円運動について)を作成する。
9回	模擬授業3(円運動について)を実施する。
10回	科目「工業数理基礎」学習指導案4(大気と水の環境について)を作成する。
11回	模擬授業4(大気と水の環境について)を実施する。
12回	科目「工業数理基礎」学習指導案5(数値処理とグラフについて)を作成する。
13回	模擬授業5(数値処理とグラフについて)を実施する。
14回	科目「工業数理基礎」の学習指導案6(時間とともに変化する事象について)を作成する。
15回	模擬授業6(時間とともに変化する事象について)を実施する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し、学習の過程を把握しておくこと。学習指導要領解説工業編「工業数理基礎」を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「工業数理基礎」の目標・内容について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】「工業数理基礎」教科書を熟読し、内容の構成を理解しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、4単位の年間指導計画を完成させておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】教科書は6単位で編集されているが、2単位の年間指導計画を作成するために重点的に指導すべき単元を考え、時間の割り振りを考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、2単位の年間指導計画を完成させておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】予告している「単位と数値処理」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で指摘された項目について改善できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】予告している「速さと速度」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で受けた指摘を改善できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】予告している「円運動」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で受けた指摘を改善できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】予告している「大気と水の環境」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
1 1 回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で受けた指摘を改善できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 2 回	【予習】予告している「数値処理とグラフ」の指導案作成について予習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
1 3 回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で受けた指摘を改善できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 4 回	【予習】予告している「時間とともに変化する事象」の指導案作成について予習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学習指導案を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
1 5 回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、模擬授業で受けた指摘を改善できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
1 6 回	【予習】テスト範囲を良く復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	工業科の小学科共通科目である「工業数理基礎」を題材として、学習指導案の作成、模擬授業の実施、事後の反省等を行い、工業科科目の指導法を身に付けられるようにする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1 学習指導要領に示されている「工業数理基礎」の目標・指導内容を理解し、説明することができる。(A) 2 科目「工業数理基礎」の目標を理解し、年間指導計画を立案することができる。(A) 3 工業における数理的思考及び処理に関する指導法について理解し、説明することができる。(A) 4 指導案と評価の関係を理解し、説明することができる。(A) 5 板書法、視聴覚教材の活用法を理解し、実際に活用することができる。(A) 6 学習指導案を作成することができる。(A)
キーワード	・工業数理基礎 ・年間指導計画 ・学習指導案 ・模擬授業 ・単位と数値処理 ・直線運動 ・円運動 ・大気と水の環境 ・数値処理とグラフ ・時間とともに変化する事象
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(40%、目標1 3 4)と課題提出(30%、目標2 6)及び模擬授業(30%、目標5)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 工業編/文部科学省/実教出版/9784407320015:「工業数理基礎」教科書/実教出版
関連科目	「工業科教育法」の履修後に本講座を履修することが望ましい。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・第2,3回授業で提出する年間指導計画については、添削後返却する。 ・本授業は実際の工業高校において行われている50分の授業を想定して模擬授業を行うことを基本としており、模擬授業実施者は模擬授業実施に当たって全員に指導案を配付するとともに、担当者に提出する。 ・提出された指導案は添削後返却する。
アクティブ・ラーニング	科目「工業数理基礎」を題材として、年間指導計画、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業を行うに際し、必要となる教材、プレゼンテーション資料等を作成する。
課題に対するフィードバック	提出する年間指導計画、学習指導案は、添削後返却する。模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する
実務経験のある教員	元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 工業高校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして工業高校における指導の実際について講義するとともに、模擬授業を通して授業の実際を学

	生に体験させる。
その他（注意・備考）	

科目名	社会科・公民科教育法 (FC005100)
英文科目名	Teaching Method of Civic Education I
担当教員名	桑原敏典* (くわばらとしのり*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	公民科の特質について解説する。
2回	公民科授業の原理について解説する。
3回	公民科授業の課題と背景について解説する。
4回	公民科授業の学習指導案の特質について解説する。
5回	公民科授業の学習指導案作成の方法について解説する。
6回	公民科授業の指導法について解説する。
7回	公民科授業の指導法の原理について解説する。
8回	公民科の内容編成について解説する。
9回	公民科の内容編成原理について解説する。
10回	公民科授業における発問の意味と役割について解説する。模擬授業を含む。
11回	公民科授業における資料の提示とその方法について解説する。模擬授業を含む。
12回	公民科授業の目標設定の原理と方法について解説する。
13回	公民科授業の内容選択の原理と方法について解説する。
14回	公民科授業づくりの原理と方法について解説する。
15回	公民科授業づくりの課題について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の特質に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の原理に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の課題に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の学習指導に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】テキスト及び『解説』の学習指導案の作成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の指導法に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の指導法に関する該当ページを読み直して、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の内容構成に関する該当ページを読み直して、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業における発問に関する該当ページを読んで、まとめて

	おくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 1 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業における資料活用に関する該当ページを読んで、まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の目標設定に関する該当ページを読んで、まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科授業の内容選択に関する該当ページを読んで、まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の授業づくりに関する該当ページを読んで、まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の授業づくりに関する該当ページを読み直して、まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	公民科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる(A)。 公民科の学習評価の考え方を理解し説明することができる(A)。 公民科の発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる(A)。 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計を理解し説明することができる(A)。 公民科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる(A)。 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる(A)。
キーワード	社会科、公民科
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎時間の課題(20%;達成目標 ~ の評価)と最終評価試験(80%;達成目標 ~ の評価)で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編/文部科学省/東洋館出版社(最新版) ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編/文部科学省/(最新版) ・社会認識教育学会編『公民科教育』/学術図書出版、2010年
関連科目	社会科・公民科教育法
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書。
連絡先	kuwabara@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。 課題等に真剣に取り組んでください。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション等を行います。
課題に対するフィードバック	課題については、次時の授業での解説等を通して深化させる。 提出された課題等に対するコメントを示す。 最終評価試験のフィードバックとして解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	社会科・公民科教育法 (FC005200)
英文科目名	Teaching Method of Civic Education II
担当教員名	桑原敏典* (くわばらとしのり*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	公民科の目標原理について解説する。
2回	公民科の教科構造について解説する。
3回	公民科の内容編成原理について解説する。
4回	公民科の授業構成論について解説する。
5回	公民科指導の課題について解説する。
6回	公民科「現代社会」(「公共」)の目標原理について解説する。
7回	公民科「現代社会」(「公共」)の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
8回	公民科「現代社会」(「公共」)の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
9回	公民科「倫理」の目標原理について解説する。
10回	公民科「倫理」の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
11回	公民科「倫理」の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
12回	公民科「政治・経済」の目標原理について解説する。
13回	公民科「政治・経済」の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
14回	公民科「政治・経済」の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
15回	公民科の学力と評価について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の目標に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の教科に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の授業構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科指導の課題に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】テキスト及び『解説』の現代社会の目標に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】テキスト及び『解説』の現代社会の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】テキスト及び『解説』の現代社会の指導方法に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】テキスト及び『解説』の倫理の目標に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】テキスト及び『解説』の倫理の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。

	(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 1 回	【予習】テキスト及び『解説』の倫理の指導方法に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 2 回	【予習】テキスト及び『解説』の政治・経済の目標に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 3 回	【予習】テキスト及び『解説』の政治・経済の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 4 回	【予習】テキスト及び『解説』の政治・経済の指導方法に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 5 回	【予習】テキスト及び『解説』の公民科の評価に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	公民科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる(A)。 公民科の学習評価の考え方を理解し説明することができる(A)。 公民科の発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる(A)。 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計を理解し説明することができる(A)。 公民科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる(A)。 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる(A)。
キーワード	社会科, 公民科
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎時間の課題(20%;達成目標 ~ の評価)と最終評価試験(80%;達成目標 ~ の評価)で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編/文部科学省/東洋館出版社(最新版) ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編/文部科学省/(最新版) ・社会認識教育学会編『公民科教育』/学術図書出版、2010年
関連科目	社会科・公民科教育法
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書。
連絡先	kuwabara@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。 課題等に真剣に取り組んでください。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション等を行います。
課題に対するフィードバック	課題については、次時の授業での解説等を通して深化させる。 提出された課題等に対するコメントを示す。 最終評価試験のフィードバックとして解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	課題については、次時の授業での解説等を通して深化させる。 教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。

科目名	教育実習 (FC005500)
英文科目名	Teaching Practices I
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき),中島弘徳(なかじまひろのり),岡本弥彦(おかもとやすひこ),津田秀哲*(つだひでのり*),福田博人(ふくだひろと),藤本義博(ふじもとよしひろ),曾我雅比児(そがまさひこ),皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	4年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	教育実習(観察実習)の意義と内容について説明する。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
2回	実習校説明(教師の仕事)と校内見学を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
3回	実習校説明(校務分掌)と校内見学を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
4回	実習校説明(生徒指導)と校内見学を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
5回	実習校説明(教師と授業)と校内見学を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
6回	授業参観(理系教科)と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
7回	授業参観(文系教科)と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
8回	授業参観(実技教科)と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
9回	授業参観(実技教科)と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
10回	特別活動(学級活動・生徒会活動)参観と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
11回	特別活動(学校行事)参観と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
12回	部活動(運動部)参観と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)
13回	部活動(文化部)参観と研究協議を行う。 (全教員,塗木 利明,曾我 雅比児,中島 弘徳,皿田 琢司,福田 博人,津田 秀哲*,岡本 弥彦,藤本 義博)

14回	<p>参観結果の発表と質疑応答を行う。</p> <p>(全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)</p>
15回	<p>報告書を作成する。</p> <p>(全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)</p>

回数	準備学習
1回	「教職・博物館学芸員課程履修の手引き」、「教育実習録」の実施要項に目を通して教育実習の意義、目的、心構えなどについて振り返っておくこと(標準学習時間180分)。
2回	「教職論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
3回	「教職論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
4回	「生徒・進路指導論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
5回	「教育課程論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6回	「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7回	「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8回	「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9回	「道徳教育の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
10回	「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
11回	「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
12回	「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
13回	「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
14回	実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
15回	実習校の指導教諭の指示に従うこと(標準学習時間180分)。

講義目的	本科目は、中学校の教員免許状取得希望者が実際の教育現場において教育活動を観察するものである。その主要な目的は、(1)実践的な指導技術の理解、(2)学校教育の実際についての認識の体得、(3)教職に対する意識の向上と自らの適性の検証などである。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針〇にもっとも強く関与する)
達成目標	<p>1. 実践的な指導技術を理解し修得できる。(〇)</p> <p>2. 学校教育の実際についての認識を体得できる。(〇)</p> <p>3. 教職に対する意識の向上と自らの適性の検証ができる。(〇)</p>
キーワード	教育活動の観察, 教育実習, 観察実習
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準点）	教育実習校からの成績80%（達成目標1・2・3.を評価）、教育実習録の内容20%（達成目標3.を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	実習校で使用する教科書
関連科目	教育実習，教育実習実践指導
参考書	実習校で使用する参考書
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail:nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	各実習校担当者の運営方針に従うこと。
アクティブ・ラーニング	各実習校担当者により、グループワーク・ディスカッション等種々の方法が実施される。
課題に対するフィードバック	学習指導案，板書計画，実習ノート等の提出物については各実習校担当者により種々の方法でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職・博物館学芸員課程履修の手引」の「教育実習の履修に関する申し合わせ」で示された科目の単位を修得していること。 ・講義計画の詳細な内容は教育実習校の指導のもとで決定される。

科目名	教育実習 (FC005600)
英文科目名	Teaching Practices II
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき), 中島弘徳(なかじまひろのり), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 津田秀哲*(つだひでのり*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 曾我雅比児(そがまさひこ), 皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	4年
単位数	3.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	開講式・大学オリエンテーション(4時間)に参加する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
2回	教科の模範授業(3時間)を観察する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
3回	教科の授業参観(10時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
4回	教科の授業の研究協議(26時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
5回	教科の授業(6時間)を担当する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
6回	教科の授業の反省会(10時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
7回	学級(ホームルーム)活動(2時間)の授業参観を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
8回	学級(ホームルーム)活動の研究協議(6時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
9回	学級(ホームルーム)活動の授業(1時間)を担当する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
10回	学級(ホームルーム)活動の反省会(2時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
11回	学級経営(5時間)に参加する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
12回	部活動(5時間)に参加する。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
13回	実習のまとめと反省(8時間)を行う。 (全教員, 塗木 利明, 曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 福田 博人, 津田 秀哲*, 岡本 弥彦, 藤本 義博)

14回	実習校評価のための質疑応答を行い、閉講式（2時間）に参加する。 （全教員、塗木 利明、曾我 雅比兒、中島 弘徳、皿田 琢司、福田 博人、津田 秀哲*、岡本 弥彦、藤本 義博）
15回	報告書を作成する。 （全教員、塗木 利明、曾我 雅比兒、中島 弘徳、皿田 琢司、福田 博人、津田 秀哲*、岡本 弥彦、藤本 義博）

回数	準備学習
1回	「教職・博物館学芸員課程履修の手引」、「教育実習録」の実施要項に目を通して教育実習の意義、目的、心構えなどについて振り返っておくこと（標準学習時間180分）。
2回	前回の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。各教科の教育法の授業内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。
3回	前回模範授業を観察して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくこと（標準学習時間90分）。授業参観する範囲を学習しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
4回	前回の授業参観で得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。研究協議での発言に向けて授業参観で気が付いたことをまとめておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
5回	前回の授業の研究協議に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間60分）。授業の準備をするとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。
6回	前回授業をして得たこと、考えたこと、残った課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間60分）。授業の反省会に向けて担当した授業を振り返り気が付いたところを書き出しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の反省会に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。学級活動に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
8回	前回授業参観をして得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。研究協議での発言に向けて授業参観で気が付いたことをまとめておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
9回	前回の研究協議に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。授業の準備をするとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
10回	学級活動の授業を実施して得たこと、考えたこと、残った課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。反省会に向けて担当した授業を振り返り気が付いたところを書き出しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
11回	前回の反省会に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。学級経営に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
12回	学級経営に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。部活動に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。

13回	前回部活動に参加して得たこと、考えたこと、残された課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。今までの実習中の記録に目を通すとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。
14回	実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。
15回	報告書作成および事後指導に向けて教育実習を経験して気が付いたことを書き出しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	本科目は、教職を志望する者が実際の教育現場において教育活動を経験するものである。その主要な目的は、(1)講義等で学んだ理論や技術を実際の場に適用すること、(2)実践的な指導技術の訓練、(3)学校教育の実際についての認識の体得などである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針O.にもっとも強く関与する)
達成目標	1. 実践的な指導技術を理解し修得できる。(O) 2. 学校教育の実際についての認識を体得できる。(O) 3. 教職に対する意識の向上と自らの適性の検証ができる。(O)
キーワード	教育活動の経験, 教育実習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	教育実習校からの成績80%(達成目標1.2.3.を評価), 教育実習録の内容20%(達成目標3.を評価)により成績を評価し, 総計で60%以上を合格とする。
教科書	実習校で使用する教科書
関連科目	教育実習, 教育実習実践指導
参考書	実習校で使用する参考書
連絡先	・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail:nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	各実習校担当者の運営方針に従うこと。
アクティブ・ラーニング	各実習校担当者により、グループワーク・ディスカッション等種々の方法が実施される。
課題に対するフィードバック	学習指導案, 板書計画, 実習ノート等の提出物については各実習校担当者により種々の方法でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・「教職・博物館学芸員課程履修の手引」の「教育実習の履修に関する申し合わせ」で示された科目の単位を修得していること。 ・講義計画の詳細な内容は教育実習校の指導のもとで決定される。

科目名	学校経営 (FC005800)
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(オリエンテーション)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務(校務)の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みを理解し説明することができる。(D) それらを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持ち、表現することができる。(D)
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%;到達目標 と の評価)と授業中に課す小レポート(30%;到達目標 と の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育行政学、教職論、教育課程論
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
課題に対するフィードバック	授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	学校経営 (FC005810)
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(オリエンテーション)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務(校務)の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みを理解し説明することができる。(D) それらを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持ち、表現することができる。(D)
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%;到達目標 と の評価)と授業中に課す小レポート(30%;到達目標 と の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育行政学、教職論、教育課程論
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
課題に対するフィードバック	授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	学校経営 (FC005820)
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(オリエンテーション)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務(校務)の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みを理解し説明することができる。(D) それらを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持ち、表現することができる。(D)
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%;到達目標 と の評価)と授業中に課す小レポート(30%;到達目標 と の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育行政学、教職論、教育課程論
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
課題に対するフィードバック	授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	学校経営 (FC005830)
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(オリエンテーション)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務(校務)の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Dにもっとも強く関与)
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みを理解し説明することができる。(D) それらを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持ち、表現することができる。(D)
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%;到達目標 と の評価)と授業中に課す小レポート(30%;到達目標 と の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育行政学、教職論、教育課程論
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
課題に対するフィードバック	授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 最終評価試験試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	情報科教育法 【火2金2】 (FC005900)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録，課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要，学習指導要領について説明する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし，高等学校学習指導要領情報編を解説し，情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標と内容について解説する。
4回	「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。 「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6回	個人情報流出する事例と対策について，学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し，具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換について解説する。
8回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について，具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式，年間指導計画，観点別評価について解説する。
11回	作成した学習指導案に基づいて，代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について，学生に良い点，改善点について意見を言ってもらい。その後，その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章，第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用の例題等について解説する。
15回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し，難易度が高いプログラムを解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し，配付する。

回数	準備学習
1回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】パソコン（Windows）の基本操作ができるとともに，パソコンで文書作成や表計算，ホームページの閲覧ができるなど，パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み，整理しておくこと。また，「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

	【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」「情報の科学」,「情報A」の目標を理解し,暗唱しておくこと。また,改定後の「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」を読み,整理しておくこと。また,「情報科の影」についての事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また,個人情報が流出する事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して,岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え,CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また,作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し,岡山理科大学のCMを完成させておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節,第2節を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換を理解し,表計算の演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで,理解しておくこと。また,プリントの演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して,岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え,写真を準備しておくこと(標準学習時間120分)【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
10回	【予習】プリントの指導案の様式,社会と情報の指導案例,年間指導計画を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い,どのように進めていけばよいか,どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて,模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと(標準学習時間60分)【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
12回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
13回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの章末問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
15回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること(標準学習時間120分)【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。(標準学習時間320分)。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ,指導技術の習得を図って,情報科教員免許を取得できるようにする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 情報教育と普通教科「情報」の目標,及び「情報」の各科目の特徴を理解することができる(A)。 2) 実践的な文書処理,表計算処理,Webページ作成等コンピュータを活用した学習を指導することができる(A)。 3) 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を理解し説明することができる(A)。 4) 各内容について,その指導法と指導上の留意点を理解し説明することができる(A)。 5) 学習指導案を作成し,それに基づいて学習指導をすることができる(A)。 6) 校内における情報科教員の役割を知り,コンピュータ教室を運営するための知識を習得することができる(A)。
キーワード	高等学校,情報,学習指導,学習指導案,コンピュータ,インターネット,マルチメディア,ネットワーク,セキュリティ,情報モラル
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	レポート・発表（50%；達成目標2），5）を評価）と最終評価試験（50%；達成目標1），3），4），6）を評価）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837：高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655「現行」
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Pageホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト（Word），表計算ソフト（Excel），プレゼンテーションソフト（Power Point），インターネット閲覧ソフト（Internet Explorer）については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	<p>第1回に実施した小テストについては，第2回の授業で正答例などとともに解説する。</p> <p>第7回の課題プリント（進数計算演習問題）は，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。</p> <p>第8回でのプリント演習問題については，第9回の授業で正答例を解説する。</p> <p>第11～14回の授業で提示する演習問題等については，それぞれ次時の授業で正答例を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	情報科教育法 【火3金3】 (FC005910)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録，課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要，学習指導要領について説明する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし，高等学校学習指導要領情報編を解説し，情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標と内容について解説する。
4回	「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。 「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6回	個人情報流出する事例と対策について，学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し，具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換について解説する。
8回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について，具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式，年間指導計画，観点別評価について解説する。
11回	作成した学習指導案に基づいて，代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について，学生に良い点，改善点について意見を言ってもらい。その後，その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章，第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用の例題等について解説する。
15回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し，難易度が高いプログラムを解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し，配付する。

回数	準備学習
1回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】パソコン（Windows）の基本操作ができるとともに，パソコンで文書作成や表計算，ホームページの閲覧ができるなど，パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み，整理しておくこと。また，「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

	【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」「情報の科学」,「情報A」の目標を理解し,暗唱しておくこと。また,改定後の「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」を読み,整理しておくこと。また,「情報科の影」についての事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また,個人情報が流出する事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して,岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え,CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また,作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し,岡山理科大学のCMを完成させておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節,第2節を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換を理解し,表計算の演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで,理解しておくこと。また,プリントの演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して,岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え,写真を準備しておくこと(標準学習時間120分)【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
10回	【予習】プリントの指導案の様式,社会と情報の指導案例,年間指導計画を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い,どのように進めていけばよいか,どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて,模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと(標準学習時間60分)【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
12回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
13回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの章末問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
15回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えておくこと(標準学習時間120分)【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。(標準学習時間320分)。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ,指導技術の習得を図って,情報科教員免許を取得できるようにする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 情報教育と普通教科「情報」の目標,及び「情報」の各科目の特徴を理解することができる(A)。 2) 実践的な文書処理,表計算処理,Webページ作成等コンピュータを活用した学習を指導することができる(A)。 3) 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を理解し説明することができる(A)。 4) 各内容について,その指導法と指導上の留意点を理解し説明することができる(A)。 5) 学習指導案を作成し,それに基づいて学習指導をすることができる(A)。 6) 校内における情報科教員の役割を知り,コンピュータ教室を運営するための知識を習得することができる(A)。
キーワード	高等学校,情報,学習指導,学習指導案,コンピュータ,インターネット,マルチメディア,ネットワーク,セキュリティ,情報モラル
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	レポート・発表（50%；達成目標2），5）を評価）と最終評価試験（50%；達成目標1），3），4），6）を評価）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837：高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655「現行」
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Pageホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト（Word），表計算ソフト（Excel），プレゼンテーションソフト（Power Point），インターネット閲覧ソフト（Internet Explorer）については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	<p>第1回に実施した小テストについては，第2回の授業で正答例などとともに解説する。</p> <p>第7回の課題プリント（進数計算演習問題）は，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。</p> <p>第8回でのプリント演習問題については，第9回の授業で正答例を解説する。</p> <p>第11～14回の授業で提示する演習問題等については，それぞれ次時の授業で正答例を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	情報科教育法 【火2金2】 (FC005920)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録，課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要，学習指導要領について説明する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし，高等学校学習指導要領情報編を解説し，情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標と内容について解説する。
4回	「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。 「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6回	個人情報流出する事例と対策について，学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し，具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換について解説する。
8回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について，具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式，年間指導計画，観点別評価について解説する。
11回	作成した学習指導案に基づいて，代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について，学生に良い点，改善点について意見を言ってもらい。その後，その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章，第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用の例題等について解説する。
15回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し，難易度が高いプログラムを解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し，配付する。

回数	準備学習
1回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】パソコン（Windows）の基本操作ができるとともに，パソコンで文書作成や表計算，ホームページの閲覧ができるなど，パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み，整理しておくこと。また，「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

	【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」「情報の科学」,「情報A」の目標を理解し,暗唱しておくこと。また,改定後の「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」を読み,整理しておくこと。また,「情報科の影」についての事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また,個人情報が流出する事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して,岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え,CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また,作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し,岡山理科大学のCMを完成させておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節,第2節を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換を理解し,表計算の演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで,理解しておくこと。また,プリントの演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して,岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え,写真を準備しておくこと(標準学習時間120分)【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
10回	【予習】プリントの指導案の様式,社会と情報の指導案例,年間指導計画を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い,どのように進めていけばよいか,どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて,模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと(標準学習時間60分)【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
12回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
13回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの章末問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
15回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること(標準学習時間120分)【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。(標準学習時間320分)。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ,指導技術の習得を図って,情報科教員免許を取得できるようにする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 情報教育と普通教科「情報」の目標,及び「情報」の各科目の特徴を理解することができる(A)。 2) 実践的な文書処理,表計算処理,Webページ作成等コンピュータを活用した学習を指導することができる(A)。 3) 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を理解し説明することができる(A)。 4) 各内容について,その指導法と指導上の留意点を理解し説明することができる(A)。 5) 学習指導案を作成し,それに基づいて学習指導をすることができる(A)。 6) 校内における情報科教員の役割を知り,コンピュータ教室を運営するための知識を習得することができる(A)。
キーワード	高等学校,情報,学習指導,学習指導案,コンピュータ,インターネット,マルチメディア,ネットワーク,セキュリティ,情報モラル
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	レポート・発表（50%；達成目標2），5）を評価）と最終評価試験（50%；達成目標1），3），4），6）を評価）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837：高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655「現行」
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Pageホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト（Word），表計算ソフト（Excel），プレゼンテーションソフト（Power Point），インターネット閲覧ソフト（Internet Explorer）については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	<p>第1回に実施した小テストについては，第2回の授業で正答例などとともに解説する。</p> <p>第7回の課題プリント（進数計算演習問題）は，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。</p> <p>第8回でのプリント演習問題については，第9回の授業で正答例を解説する。</p> <p>第11～14回の授業で提示する演習問題等については，それぞれ次時の授業で正答例を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	情報科教育法 【火3金3】 (FC005930)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録，課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要，学習指導要領について説明する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし，高等学校学習指導要領情報編を解説し，情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標と内容について解説する。
4回	「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。 「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6回	個人情報流出する事例と対策について，学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し，具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換について解説する。
8回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について，具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい，学生に良い点や改善点について討論し，よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式，年間指導計画，観点別評価について解説する。
11回	作成した学習指導案に基づいて，代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について，学生に良い点，改善点について意見を言ってもらい。その後，その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章，第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用の例題等について解説する。
15回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し，難易度が高いプログラムを解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し，配付する。

回数	準備学習
1回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】パソコン（Windows）の基本操作ができるとともに，パソコンで文書作成や表計算，ホームページの閲覧ができるなど，パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み，整理しておくこと。また，「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

	【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」「情報の科学」,「情報A」の目標を理解し,暗唱しておくこと。また,改定後の「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」を読み,整理しておくこと。また,「情報科の影」についての事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また,個人情報が流出する事例と対策が,次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して,岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え,CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また,作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し,岡山理科大学のCMを完成させておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節,第2節を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換を理解し,表計算の演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで,理解しておくこと。また,プリントの演習問題もしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して,岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え,写真を準備しておくこと(標準学習時間120分)【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
10回	【予習】プリントの指導案の様式,社会と情報の指導案例,年間指導計画を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い,どのように進めていけばよいか,どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて,模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで,内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと(標準学習時間60分)【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
12回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
13回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの章末問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用を読み,整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
15回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること(標準学習時間120分)【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。(標準学習時間320分)。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ,指導技術の習得を図って,情報科教員免許を取得できるようにする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 情報教育と普通教科「情報」の目標,及び「情報」の各科目の特徴を理解することができる(A)。 2) 実践的な文書処理,表計算処理,Webページ作成等コンピュータを活用した学習を指導することができる(A)。 3) 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を理解し説明することができる(A)。 4) 各内容について,その指導法と指導上の留意点を理解し説明することができる(A)。 5) 学習指導案を作成し,それに基づいて学習指導をすることができる(A)。 6) 校内における情報科教員の役割を知り,コンピュータ教室を運営するための知識を習得することができる(A)。
キーワード	高等学校,情報,学習指導,学習指導案,コンピュータ,インターネット,マルチメディア,ネットワーク,セキュリティ,情報モラル
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	レポート・発表（50%；達成目標2），5）を評価）と最終評価試験（50%；達成目標1），3），4），6）を評価）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837：高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655「現行」
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Pageホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト（Word），表計算ソフト（Excel），プレゼンテーションソフト（Power Point），インターネット閲覧ソフト（Internet Explorer）については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	<p>第1回に実施した小テストについては，第2回の授業で正答例などとともに解説する。</p> <p>第7回の課題プリント（進数計算演習問題）は，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。</p> <p>第8回でのプリント演習問題については，第9回の授業で正答例を解説する。</p> <p>第11～14回の授業で提示する演習問題等については，それぞれ次時の授業で正答例を解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	情報科教育法 【火4金4】 (FC006000)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy II
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義の目的と教科の目標授業実施方法について解説する。パソコンの基本操作ができることを小テストで確認する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし、高等学校学習指導要領総説を解説する。教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標について解説する。
3回	新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申では情報科についてどのようなところが改訂されたかを学生に発表してもらおう。体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたについて解説する。
4回	新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか学生に発表してもらい討論する。共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標について解説する。
5回	共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標について学生に発表してもらおう。学習指導案の詳細化と教材作成と教材の構造化(実習を含む)について解説する。
6回	作成した学習指導案と授業に必要な補助プリントを用いて、代表学生が模擬授業を行い、全員の学生に模擬授業の良い点や改善点等を言ってもらい、その後指導講評する。情報科教育実習についての指導方法、指導反省レポートについて解説する。
7回	各自で作成した指導案の改善したところを学生に発表してもらい、討論等をして、よりよい内容にしていく。プレゼンテーションの制作の流れ、スライドの作成方法等を実例を示し解説する。
8回	前回で作成したプレゼンテーションを学生全員が発表する。そのプレゼンテーションについて学生に良い点、改善点を言ってもらおう。その後指導講評する。
9回	第8回の課題について、正答例などとともに解説する。ネットワークのコミュニケーションについて解説する。
10回	第9回の課題について、正答例を解説する。インターネットのしくみ、IPアドレス、ネットワークアドレスの計算について解説する。
11回	第10回の課題について、正答例を解説する。知的財産権、産業財産権について解説する。
12回	第11回の課題について、学生に解き方を発表してもらおう。この発表に対して、より簡単にできる別解はないか討論し、その後簡単な正答例を解説する。情報セキュリティ(コンピュータウイルス対策、情報の暗号化等)について解説する。
13回	第12回の課題について正答例を解説する。表計算ソフトEXCELの実践的な活用法について解説する。
14回	第13回の問題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラム作成ができることの必要性を解説し、具体的な言語Scratchプログラムの作成方法について解説する。
15回	第14回の演習問題の正答例を解説する。VBAプログラムの作成方法について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し、配付する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領総説、教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標を読み、整理しておくこと。
2回	【復習】、小テスト問題を再度行い違ったところを訂正し、情報科教育法 で学習した関数を理解し、整理しておくこと(標準学習時間60分)【復習】高等学校学習指導要領総説、教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標を理解し、暗唱しておくこと。新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申を読み、情報科についてどのようなところが改訂されたかまとめて発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の「体系的な情報教育と共通教科情報科」(p.8~13)を読み、整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたを理解しておくこと。新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標を読み、整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標を理解し、暗唱しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】プリントの指導案の様式、社会と情報の指導案例、年間指導計画を読み、整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い、授業をどのように進めていけばよいか、どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案と授業に必要な補助プリント等を作成しておくこと。次時の授業で模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。

6回	【予習】情報科教育実習についてどのように指導するべきか考えておくこと。(標準学習時間120分)【復習】模擬授業の良い点,改善点,指導方法,指導反省レポートを整理しておくこと。模擬授業を聞いて,各自で作成した指導案を訂正し,改善したところが発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
7回	【予習】プレゼンテーション作成で必要な写真を事前に撮影してUSBメモリに入れて持参すること。また,作成するプレゼンテーションの内容を考えておくこと(標準学習時間120分)【復習】プレゼンテーションのスライド作成を完成させておくこと。プレゼンテーションのリハーサルをして,発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
8回	【予習】ネットワークの特性,プリントの演習問題をする。(標準学習時間120分)【復習】発表されたプレゼンテーションの話し方,スライドの内容,スライドの設計等の評価を整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】情報セキュリティ,情報セキュリティポリシーをよんで章末問題をする。(標準学習時間120分)【復習】ネットワークのコミュニケーションの重要語句等を理解し,プリントやノートに書いて整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】教科書4章コミュニケーションとネットワーク,第2節ネットワーク(p.100~109)を読み,ネットワークアドレスの計算方法を調べておくこと(標準学習時間120分)【復習】IPアドレス,ネットワークアドレスの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】2進数と情報量,数値・文字の表現を読み,プリントの進数計算の課題をする。この課題は次時の授業で発表できるようにすること。(標準学習時間120分)【復習】教科書5章の章末問題をして,他の具体的な権利侵害の例を調べて整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】プリントの情報処理検定2級実技問題を解答するために使用する関数の条件付合計(SUMIF),条件付きカウント関数(COUNTIF)等を調べておくこと。表計算ソフトEXCELの実践的な課題プリントをする。(標準学習時間120分)【復習】情報セキュリティ(コンピュータウィルス対策,情報の暗号化等)について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】2020年度の新学習指導要領から,すべての生徒にたいしてプログラミングが必修になることとScratch言語を調べておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの情報処理検定2級実技問題の条件付合計(SUMIF),条件付きカウント関数(COUNTIF)等について理解しておくこと。この課題をする。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントのVBAプログラミングを読み,演習問題をする。(標準学習時間120分)。 【復習】Scratchプログラムを理解し,演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】VBAプログラムを理解し,発展問題の別解を考えておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)。

講義目的	この講義(実習を含む)では,情報科教育法 とともに高等学校教科「情報」の教員免許を取得させるために必要な教師としての基礎的な知識,教養,指導力,実務能力を涵養する。情報科教育法で学んだ教科の設立目的,教科の構造,指導目的,指導方法,教育の構成,教師としての知識,教育に関する教養的知識,学校教育における常識と教師の役割,教育の社会的目的と構造など情報科教師としてわきまえるべき基本的な学習事項について再度確認し復習することから始め,教育の実践方法について深く考えるとともに教材作成や模擬授業の実施を通じて学生自身に積極的な授業への参加を求め,教育や教師としての技量の向上を目指して行動することを求める。単に情報に関する専門的技術の養成ではなく,高度な知的行動力としての情報教養を身につけ,将来の行動規範として情報を高度に利用する教養的情報資質を向上させよう高等学校教師を養成することを目指し,教育者として教育実習等で指導する際にも役立つよう実務面でも教養も身につけるよう実践的な指導を行う。また,教養を身につけ教科情報の教員免許取得者にふさわしい知識と実践力をもちうるように指導する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) プレゼンテーションソフトで教材を作成できる(A)。 2) 文字と画像をうまく組み合わせた教材を作成できる(A)。 3) パワーポイント教材に自分の目標とする指導内容をバランスよく組み込むことができる(A)。 4) 情報倫理について正しく指導できる(A)。 5) 教材と口述をバランスよく配合した指導ができる(A)。 6) クラスにあう生徒の知的水準を活かした授業を達成するための教育構成ができる(A)。 7) 情報科の評価を教材の中に埋め込んで合理的に指導できる教材を作成できる(A)。 8) 教育実習で指導教員に高い到達度を持つ実習生であると評価してもらえるよう努力できる(A)。 9) オブジェクト指向型プログラム(VBAプログラム)が理解し作成できる(A)。 10) 情報処理検定2級レベルの内容を理解し学習指導ができる(A)。
キーワード	社会と情報,プレゼンテーション,高等学校学習指導要領情報編
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題レポート・発表(50%:到達目標1),2),3),5),8),9)を評価)と最終評価試験(50%:到達目標4),6),7),10)を評価)により成績を評価し,総計で60%以上を合格とする。

教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837 : 高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655 「現行」
関連科目	情報科教育法 も併せて履修することが望ましい。
参考書	授業中に配付するプリント , Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にEXCELでできるVBAプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	ホームページKusano's pageの「問合せフォーム」から連絡可能 URL : http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト (Word) , 表計算ソフト (Excel) , プレゼンテーションソフト (Power Point) , インターネット閲覧ソフト (Internet Explorer) については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	第8回課題プリント (ネットワークの特性等) は、第9回の授業で正答例などとともに解説する。第9回の課題 (情報セキュリティ等の章末問題) は、第10回の授業で正答例などとともに解説する。第10回 ~ 第14回の授業で提示する演習問題については、それぞれ次時の授業で正答例を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	情報科教育法 【火4金4】 (FC006010)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy II
担当教員名	草野泰秀* (くさのやすひで*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義の目的と教科の目標授業実施方法について解説する。パソコンの基本操作ができることを小テストで確認する。
2回	表計算の小テストの正答例の解説をし、高等学校学習指導要領総説を解説する。教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標について解説する。
3回	新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申では情報科についてどのようなところが改訂されたかを学生に発表してもらおう。体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたについて解説する。
4回	新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか学生に発表してもらい討論する。共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標について解説する。
5回	共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標について学生に発表してもらおう。学習指導案の詳細化と教材作成と教材の構造化(実習を含む)について解説する。
6回	作成した学習指導案と授業に必要な補助プリントを用いて、代表学生が模擬授業を行い、全員の学生に模擬授業の良い点や改善点等を言ってもらい、その後指導講評する。情報科教育実習についての指導方法、指導反省レポートについて解説する。
7回	各自で作成した指導案の改善したところを学生に発表してもらい、討論等をして、よりよい内容にしていく。プレゼンテーションの制作の流れ、スライドの作成方法等を実例を示し解説する。
8回	前回で作成したプレゼンテーションを学生全員が発表する。そのプレゼンテーションについて学生に良い点、改善点を言ってもらおう。その後指導講評する。
9回	第8回の課題について、正答例などとともに解説する。ネットワークのコミュニケーションについて解説する。
10回	第9回の課題について、正答例を解説する。インターネットのしくみ、IPアドレス、ネットワークアドレスの計算について解説する。
11回	第10回の課題について、正答例を解説する。知的財産権、産業財産権について解説する。
12回	第11回の課題について、学生に解き方を発表してもらおう。この発表に対して、より簡単にできる別解はないか討論し、その後簡単な正答例を解説する。情報セキュリティ(コンピュータウイルス対策、情報の暗号化等)について解説する。
13回	第12回の課題について正答例を解説する。表計算ソフトEXCELの実践的な活用法について解説する。
14回	第13回の問題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラム作成ができることの必要性を解説し、具体的な言語Scratchプログラムの作成方法について解説する。
15回	第14回の演習問題の正答例を解説する。VBAプログラムの作成方法について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。フィードバックとして模範解答を作成し、配付する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領総説、教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標を読み、整理しておくこと。
2回	【復習】、小テスト問題を再度行い違ったところを訂正し、情報科教育法 で学習した関数を理解し、整理しておくこと(標準学習時間60分)【復習】高等学校学習指導要領総説、教科「情報」の改善の基本方針、改善の具体的事項、改訂の要点、情報教育の目標を理解し、暗唱しておくこと。新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申を読み、情報科についてどのようなところが改訂されたかまとめて発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
3回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の「体系的な情報教育と共通教科情報科」(p.8~13)を読み、整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたを理解しておくこと。新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
4回	【予習】共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標を読み、整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】共通教科情報の科目編成、「社会と情報」「情報の科学」の目標を理解し、暗唱しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】プリントの指導案の様式、社会と情報の指導案例、年間指導計画を読み、整理しておくこと(標準学習時間120分)【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い、授業をどのように進めていけばよいか、どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案と授業に必要な補助プリント等を作成しておくこと。次時の授業で模擬授業ができるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。

6回	【予習】情報科教育実習についてどのように指導するべきか考えておくこと。(標準学習時間120分)【復習】模擬授業の良い点,改善点,指導方法,指導反省レポートを整理しておくこと。模擬授業を聞いて,各自で作成した指導案を訂正し,改善したところが発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
7回	【予習】プレゼンテーション作成で必要な写真を事前に撮影してUSBメモリに入れて持参すること。また,作成するプレゼンテーションの内容を考えておくこと(標準学習時間120分)【復習】プレゼンテーションのスライド作成を完成させておくこと。プレゼンテーションのリハーサルをして,発表できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)。
8回	【予習】ネットワークの特性,プリントの演習問題をする。(標準学習時間120分)【復習】発表されたプレゼンテーションの話し方,スライドの内容,スライドの設計等の評価を整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】情報セキュリティ,情報セキュリティポリシーをよんで章末問題をする。(標準学習時間120分)【復習】ネットワークのコミュニケーションの重要語句等を理解し,プリントやノートに書いて整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】教科書4章コミュニケーションとネットワーク,第2節ネットワーク(p.100~109)を読み,ネットワークアドレスの計算方法を調べておくこと(標準学習時間120分)【復習】IPアドレス,ネットワークアドレスの演習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)。
11回	【予習】2進数と情報量,数値・文字の表現を読み,プリントの進数計算の課題をする。この課題は次時の授業で発表できるようにすること。(標準学習時間120分)【復習】教科書5章の章末問題をして,他の具体的な権利侵害の例を調べて整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】プリントの情報処理検定2級実技問題を解答するために使用する関数の条件付合計(SUMIF),条件付きカウント関数(COUNTIF)等を調べておくこと。表計算ソフトEXCELの実践的な課題プリントをする。(標準学習時間120分)【復習】情報セキュリティ(コンピュータウィルス対策,情報の暗号化等)について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】2020年度の新学習指導要領から,すべての生徒にたいしてプログラミングが必修になることとScratch言語を調べておくこと(標準学習時間120分)【復習】プリントの情報処理検定2級実技問題の条件付合計(SUMIF),条件付きカウント関数(COUNTIF)等について理解しておくこと。この課題をする。(標準学習時間60分)。
14回	【予習】プリントのVBAプログラミングを読み,演習問題をする。(標準学習時間120分)。 【復習】Scratchプログラムを理解し,演習問題をしておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】VBAプログラムを理解し,発展問題の別解を考えておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)。

講義目的	この講義(実習を含む)では,情報科教育法 とともに高等学校教科「情報」の教員免許を取得させるために必要な教師としての基礎的な知識,教養,指導力,実務能力を涵養する。情報科教育法で学んだ教科の設立目的,教科の構造,指導目的,指導方法,教育の構成,教師としての知識,教育に関する教養的知識,学校教育における常識と教師の役割,教育の社会的目的と構造など情報科教師としてわきまえるべき基本的な学習事項について再度確認し復習することから始め,教育の実践方法について深く考えるとともに教材作成や模擬授業の実施を通じて学生自身に積極的な授業への参加を求め,教育や教師としての技量の向上を目指して行動することを求める。単に情報に関する専門的技術の養成ではなく,高度な知的行動力としての情報教養を身につけ,将来の行動規範として情報を高度に利用する教養的情報資質を向上させる高等学校教師を養成することを目指し,教育者として教育実習等で指導する際にも役立つよう実務面でも教養も身につけるよう実践的な指導を行う。また,教養を身につけ教科情報の教員免許取得者にふさわしい知識と実践力をもちうるように指導する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) プレゼンテーションソフトで教材を作成できる(A)。 2) 文字と画像をうまく組み合わせた教材を作成できる(A)。 3) パワーポイント教材に自分の目標とする指導内容をバランスよく組み込むことができる(A)。 4) 情報倫理について正しく指導できる(A)。 5) 教材と口述をバランスよく配合した指導ができる(A)。 6) クラスにあう生徒の知的水準を活かした授業を達成するための教育構成ができる(A)。 7) 情報科の評価を教材の中に埋め込んで合理的に指導できる教材を作成できる(A)。 8) 教育実習で指導教員に高い到達度を持つ実習生であると評価してもらえるよう努力できる(A)。 9) オブジェクト指向型プログラム(VBAプログラム)が理解し作成できる(A)。 10) 情報処理検定2級レベルの内容を理解し学習指導ができる(A)。
キーワード	社会と情報,プレゼンテーション,高等学校学習指導要領情報編
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題レポート・発表(50%:到達目標1),2),3),5),8),9)を評価)と最終評価試験(50%:到達目標4),6),7),10)を評価)により成績を評価し,総計で60%以上を合格とする。

教科書	最新社会と情報新訂版 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407203837 : 高等学校学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655 「現行」
関連科目	情報科教育法 も併せて履修することが望ましい。
参考書	授業中に配付するプリント , Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽にEXCELでできるVBAプログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	ホームページKusano's pageの「問合せフォーム」から連絡可能 URL : http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも文書作成ソフト (Word) , 表計算ソフト (Excel) , プレゼンテーションソフト (Power Point) , インターネット閲覧ソフト (Internet Explorer) については基本的な操作ができること。 これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 ・演習課題は期限内に提出すること。 ・配布テキストプリントおよび教科書に従い授業を進行していくので、履修者は必ず配布テキストプリントおよび教科書を用意すること。 ・準備学習をしっかりと、該当内容をよく読んで理解しておくこと。 ・教室において積極的に授業の参加する態度が求められる。 ・授業時間内の各演習課題に関する完成度合について、授業の終了前に各履修者に確認することがある。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。 ・特別な事情がない限り欠席について対応しない。
アクティブ・ラーニング	全体発表
課題に対するフィードバック	第8回課題プリント (ネットワークの特性等) は、第9回の授業で正答例などとともに解説する。第9回の課題 (情報セキュリティ等の章末問題) は、第10回の授業で正答例などとともに解説する。第10回～第14回の授業で提示する演習問題については、それぞれ次時の授業で正答例を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	数学教育法 【月3木3】 (FC006100)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics III
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における目標・内容を確認し、教授単元に関する教材研究について整理する。
3回	「数と式」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
4回	「図形」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
5回	「関数」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
6回	「データの活用」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
7回	「数と式」に関わる領域の学習指導案作成を通して、教材の活用等を考察する。
8回	「数と式」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
9回	「図形」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
10回	「図形」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
11回	「関数」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
12回	「関数」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
13回	「データの活用」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
14回	「データの活用」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
15回	教授単元を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】小学校から高等学校までの系統性に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「数と式」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「図形」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「関数」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「データの活用」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】教授単元について復習してくること（標準学習時間90分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	教授単元を観点にしながら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 教授単元を観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) 教授単元を観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 教授単元, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), コメントシートの記述(30%)(達成目標2)と4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法II, 数学教育法IV
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・コメントシートの記述については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月4木4】 (FC006110)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics III
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における目標・内容を確認し、教授単元に関する教材研究について整理する。
3回	「数と式」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
4回	「図形」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
5回	「関数」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
6回	「データの活用」に関わる領域について、教授単元の観点から教材研究を行う。
7回	「数と式」に関わる領域の学習指導案作成を通して、教材の活用等を考察する。
8回	「数と式」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
9回	「図形」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
10回	「図形」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
11回	「関数」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
12回	「関数」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
13回	「データの活用」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
14回	「データの活用」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
15回	教授単元を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】小学校から高等学校までの系統性に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「数と式」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「図形」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「関数」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「データの活用」に関わる領域の特徴を、教授単元の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】教授単元を観点として、「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】教授単元を観点として、「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】教授単元を観点として、「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】教授単元を観点として、「データの活用」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題を教授単元の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】教授単元について復習してくること（標準学習時間90分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	教授単元を観点にしながら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 教授単元を観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) 教授単元を観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 教授単元, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), コメントシートの記述(30%)(達成目標2)と4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法II, 数学教育法IV
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・コメントシートの記述については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月3木3】 (FC006200)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics IV
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における目標・内容を確認し、ESD・文脈に関する教材研究について整理する。
3回	「数と式」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
4回	「図形」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
5回	「関数」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
6回	「データの活用」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
7回	「数と式」に関わる領域の学習指導案作成を通して、教材の活用等を考察する。
8回	「数と式」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
9回	「図形」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
10回	「図形」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
11回	「関数」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
12回	「関数」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
13回	「データの活用」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
14回	「データの活用」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
15回	ESD・文脈を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、授業で扱うべき主題について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】授業で扱うべき文脈に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「数と式」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「図形」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「関数」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「データの活用」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】ESDや文脈について復習してくること（標準学習時間90分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	ESDならびに文脈を観点にしながら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) ESDならびに文脈を観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) ESDならびに文脈を観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, ESD, 文脈, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), 授業中の課題(30%)(達成目標2)と4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法II, 数学教育法III
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・授業中の課題については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	数学教育法 【月4木4】 (FC006210)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics IV
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、数学教育の意義を理解する。
2回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における目標・内容を確認し、ESD・文脈に関する教材研究について整理する。
3回	「数と式」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
4回	「図形」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
5回	「関数」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
6回	「データの活用」に関わる領域について、ESD・文脈の観点から教材研究を行う。
7回	「数と式」に関わる領域の学習指導案作成を通して、教材の活用等を考察する。
8回	「数と式」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
9回	「図形」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
10回	「図形」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
11回	「関数」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
12回	「関数」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
13回	「データの活用」に関わる領域の学習指導案作成を通して、情報機器及び教材の活用等を考察する。
14回	「データの活用」に関わる領域の模擬授業を通して、その授業の課題等を考察する。
15回	ESD・文脈を観点として、授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】数学を教育する意味について纏めておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、授業で扱うべき主題について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】授業で扱うべき文脈に関する特徴を纏めておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「数と式」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「図形」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「関数」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域における小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「データの活用」に関わる領域の特徴を、ESD・文脈の観点で纏めておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】ESD・文脈を観点として、「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域の教材を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】ESD・文脈を観点として、「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること(標準学習時間90分)。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域の教材を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】学習指導案を修正し、模擬授業の練習をしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】ESD・文脈を観点として、「データの活用」に関わる領域の指導法を考えてくること（標準学習時間90分）。 【復習】模擬授業の課題をESD・文脈の観点から纏めておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】ESDや文脈について復習してくること（標準学習時間90分）。 【復習】授業全体での学習内容を振り返っておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	ESDならびに文脈を観点にしながら「数学教育法I」で学んだ理論を活用し、実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) ESDならびに文脈を観点にして数学科授業を構成することができる(A)。 2) ESDならびに文脈を観点にして数学科授業を分析することができる(A)。 3) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を構成することができる(A)。 4) 数学教育法Iで学んだ理論を活用した数学科授業を分析することができる(A)。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, ESD, 文脈, 模擬授業
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(70%)(達成目標1)と3)を確認), 授業中の課題(30%)(達成目標2)と4)を確認)により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	数学教育法I, 数学教育法II, 数学教育法III
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編(現行カリキュラム)/文部科学省/教育出版: 中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/日本文教出版: 高等学校学習指導要領 数学編/文部科学省/実教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編(新カリキュラム)/文部科学省/学校図書: 新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編/ミネルヴァ書房: 数学科授業の理論と実践/ミネルヴァ書房: 高等学校 数学教育の展開/聖文新社: これだけは知っておきたい 小学校教師のための算数と数学15講/ミネルヴァ書房
連絡先	研究室 A2号館8階 E-mail: hfukuda@xmath.ous.ac.jp 直通電話: 086-256-9818 オフィスアワー: オフィスアワーは, mylogで確認すること。
授業の運営方針	・準備学習については講義計画に示しているが, 詳細については講義内にて指示する。 ・必要に応じてプリントを配付する。 ・遅刻が重なると欠席扱いとすることがある。 ・授業で重視するのは覚えることより考えることである。 ・授業へは積極的に参加することが求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション ・授業中にグループディスカッションを実施し, グループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては, 講義中に模範レポートを配付する。 ・授業中の課題については, 講義中に論評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー, タブレット型端末の撮影, 録画機能)の使用を認めるので, 事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・配付資料や録画データなどは他者への再配付(ネットやSNSなどへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・基本的には撮影・録音は禁止するが, やむを得ない理由がある場合は事前を申し出ること。

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC006300)
英文科目名	Teaching Method of Science III
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法などについて解説する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	授業の導入部における工夫のポイントなどについて解説する。 (全教員)
7回	「エネルギー」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「粒子」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「生命」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「地球」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	各自が作成した本時案(エネルギー)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
12回	各自が作成した本時案(粒子)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
13回	各自が作成した本時案(生命)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
14回	各自が作成した本時案(地球)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
15回	模擬授業全体を振り返り、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法を確認しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】提示された「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】提示された「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】提示された「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】提示された「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を再確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入部における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】提示された「エネルギー」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】提示された「粒子」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】提示された「生命」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】提示された「地球」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】各自で選択した単元（エネルギー）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】各自で選択した単元（粒子）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】各自で選択した単元（生命）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】各自で選択した単元（地球）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを再度整理しておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を授
------	--

	業づくりに活用することを通して、実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。(A) 教材研究や授業づくりのポイントなどについての考えを深める。(A) 本時案や板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力の基礎を身に付ける。(A)
キーワード	理科教育、教材研究、指導方法、授業実践、実践的指導力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題70%(達成目標)、模擬授業30%(達成目標)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月/文部科学省/実教出版/9784407319262:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 平成29年7月/文部科学省/学校図書/9784762506130:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編/文部科学省(平成31年3月発刊予定)
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	理科教育法・理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び(いわゆる、アクティブ・ラーニング)を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、教師役と生徒役で模擬授業を毎時間実施し、相互評価して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 模擬授業については、授業において発表や討論等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。

科目名	理科教育法 【月2木2】 (FC006310)
英文科目名	Teaching Method of Science III
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法などについて解説する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	授業の導入部における工夫のポイントなどについて解説する。 (全教員)
7回	「エネルギー」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「粒子」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「生命」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「地球」に関する単元の第1時の模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	各自が作成した本時案(エネルギー)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
12回	各自が作成した本時案(粒子)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
13回	各自が作成した本時案(生命)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
14回	各自が作成した本時案(地球)に基づいた模擬授業について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
15回	模擬授業全体を振り返り、授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法を確認しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】提示された「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】提示された「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】提示された「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】提示された「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を再確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入部における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】提示された「エネルギー」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】提示された「粒子」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】提示された「生命」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】提示された「地球」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】各自で選択した単元（エネルギー）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】各自で選択した単元（粒子）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】各自で選択した単元（生命）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】各自で選択した単元（地球）の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを再度整理しておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を授
------	--

	業づくりに活用することを通して、実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。(A) 教材研究や授業づくりのポイントなどについての考えを深める。(A) 本時案や板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力の基礎を身に付ける。(A)
キーワード	理科教育、教材研究、指導方法、授業実践、実践的指導力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題70%(達成目標)、模擬授業30%(達成目標)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月/文部科学省/実教出版/9784407319262:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 平成29年7月/文部科学省/学校図書/9784762506130:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説理科編/文部科学省(平成31年3月発刊予定)
関連科目	理科教育法、理科教育法、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp C 3号館 2F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	理科教育法・理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び(いわゆる、アクティブ・ラーニング)を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、教師役と生徒役で模擬授業を毎時間実施し、相互評価して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 模擬授業については、授業において発表や討論等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。

科目名	理科教育法 【月2木2】 (FC006400)
英文科目名	Teaching Method of Science IV
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概要を理解するとともに、2回以降に実施する模擬授業の準備や方法等を整理する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	「エネルギー」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
7回	「粒子」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「生命」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「地球」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「エネルギー」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	「粒子」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
12回	「生命」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
13回	「地球」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
14回	「エネルギー」「粒子」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。

	(全教員)
15回	「生命」「地球」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】模擬授業の全般的なポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能の習得を高めるとともに、その知識や技能を授業づくりや授業改善に活用することを通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。(A) 授業実践や授業の工夫・改善のポイントなどについての考えを深める。(A) 板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力を身に付ける。(A)
キーワード	理科教育、教材研究、指導方法、授業実践、実践的指導力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題70%(達成目標)、模擬授業30%(達成目標)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月 / 文部科学省 / 大日本図書 / 9784477019796 : 高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407319262 : 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 理科編 平成29年7月 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130 : 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説理科編 / 文部科学省 (平成31年3月発刊予定)
関連科目	理科教育法 、理科教育法 、理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) の調査結果」 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 オープンセサミシリーズ教員採用試験ステップアップ問題集 中学理科 / 東京アカデミー / 七賢出版 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4 F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamoto@zool.ous.ac.jp C 3号館 2 F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	理科教育法 ・理科教育法 ・理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び (いわゆる、アクティブ・ラーニング) を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、教師役と生徒役で模擬授業を毎時間実施し、相互評価して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 模擬授業については、授業において発表や討論等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC006410)
英文科目名	Teaching Method of Science IV
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概要を理解するとともに、2回以降に実施する模擬授業の準備や方法等を整理する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する学習内容(基礎)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	「エネルギー」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
7回	「粒子」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「生命」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「地球」に関する学習内容(標準)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「エネルギー」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	「粒子」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
12回	「生命」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
13回	「地球」に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
14回	「エネルギー」「粒子」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。

	(全教員)
15回	「生命」「地球」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】模擬授業の全般的なポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能の習得を高めるとともに、その知識や技能を授業づくりや授業改善に活用することを通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する。)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。(A) 授業実践や授業の工夫・改善のポイントなどについての考えを深める。(A) 板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力を身に付ける。(A)
キーワード	理科教育、教材研究、指導方法、授業実践、実践的指導力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題70%(達成目標)、模擬授業30%(達成目標)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月 / 文部科学省 / 大日本図書 / 9784477019796 : 高等学校学習指導要領解説 理科編理数編 平成21年12月 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407319262 : 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 理科編 平成29年7月 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130 : 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説理科編 / 文部科学省 (平成31年3月発刊予定)
関連科目	理科教育法 、 理科教育法 、 理科教育法
参考書	「国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) の調査結果」 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 オープンセサミシリーズ教員採用試験ステップアップ問題集 中学理科 / 東京アカデミー / 七賢出版 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4 F 岡本弥彦研究室 086-256-9717 okamoto@zool.ous.ac.jp C 3号館 2 F 藤本義博研究室 086-256-9650 fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	理科教育法 ・ 理科教育法 ・ 理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び (いわゆる、アクティブ・ラーニング) を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、教師役と生徒役で模擬授業を毎時間実施し、相互評価して指導のポイントを指摘し合い、理科の授業の理論と実践を関連付けて理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。 模擬授業については、授業において発表や討論等を通して深化させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	授業の内容は、中学校や高等学校の教壇にたつて教える立場を想定して理解すること。 また、教職を志すことからして、相応の授業姿勢を求める。

科目名	技術科教育法 【月2木2】 (FC006500)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts III
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校学習指導要領と技術科教育法について解説する。
2回	技術科の授業について指導法と指導形態を解説する。
3回	技術科教育と職業観・勤労観の育成とキャリア教育について検討する。
4回	技術科教育と安全教育について検討する。
5回	技術科教育と環境教育について検討する。
6回	技術科教育と地域との連携について検討する。
7回	技術科教育と感性の育成について検討する。
8回	技術科教育と創造性の育成について検討する。
9回	技術科教育と倫理観の育成について検討する。
10回	技術科教育と情報モラルの育成について検討する。
11回	技術科教育と特別活動との関連について検討する。
12回	技術科教育と道徳の指導との関連について検討する。
13回	技術科教育と総合的な学習の時間との関連について検討する。
14回	技術科教育における言語活動の推進と読解力の育成について検討する。
15回	講義の成果と課題をまとめレポートを作成する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	中学校学習指導要領第1章総則と第2章第8節を読んで、中学校教育の目的、技術・家庭の意義を確認して授業に臨むこと(標準学習時間180分)。
2回	第1回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。技術科教育法の学習内容を振り返り、技術科教育の意義や効果的な指導法について考えてくること(標準学習時間120分)。
3回	第2回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
6回	第5回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

7回	第6回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
8回	第7回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
9回	第8回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
10回	第9回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
11回	第10回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
12回	11回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
13回	第12回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
14回	第13回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
15回	第14回の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。授業を振り返り、成果と課題をまとめてレポート作成の準備をすること(標準学習時間120分)。
16回	第1回～第15回までの内容を整理し、よく理解しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	中学校の技術科教師になることを強く希望する者のための選択科目である。教材開発に焦点を当てて技術科の各分野における具体的な課題に取り組みながら、技術科教師としての力量を高めるための研究・実践を行う。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 技術分野の内容を理解しやすく指導するための学習教材・教具の調査並びに検討ができる。(A) 2. 技術分野の内容を理解しやすく指導するための学習教材・教具の開発ができる。(A)
キーワード	技術科、技術科教育法
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出物の内容40%(達成目標1.2.を評価)、最終評価試験60%(達成目標1.2.を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法
参考書	1. 文部科学省検定済教科書「新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2. 文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 開隆堂 3. 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省・教育図書 4. 他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail: nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	・技術科教員を目指した授業への積極的な参加が求められる。 ・準備学習の詳細については授業中に指示する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことにより理解を深める。
課題に対するフィード	・提出されたレポートについては、授業において発表や討論を通して深化させる。

バック	・最終評価試験については、実施後模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	技術科教育法 ・技術科教育法 を修得していることが望ましい。

科目名	技術科教育法 【月2木2】 (FC006600)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts IV
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	技術科における実習教材と教材開発について解説する。
2回	教科書の材料と加工の実習教材を調査する。
3回	材料と加工の教材開発に向けて検討する。
4回	材料と加工の教材の設計・製作をする。
5回	教科書のエネルギー変換実習教材を調査する。
6回	エネルギー変換の教材開発に向けて検討する。
7回	エネルギー変換の教材の設計・製作をする。
8回	教科書の生物育成の実習教材を調査する。
9回	生物育成の教材開発に向けて検討する。
10回	生物育成教材の育成計画・栽培または飼育をする。
11回	教科書の情報実習教材を調査する。
12回	情報の教材開発に向けて検討する。
13回	情報の教材の設計・製作をする。
14回	レポートを作成する。
15回	レポートの発表・検討会をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校学習指導要領第1章総則と第2章第8節技術・家庭を読んで、中学校教育の目的、技術・家庭の意義を確認して授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】【復習】本時の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準額数時間60分)。教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材をまとめて把握しておくこと(標準学習時間180分)。
3回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
4回	設計・製作に必要な材料・工具・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
5回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材をまとめて把握しておくこと(標準学習時間180分)。
6回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
7回	設計・製作に必要な材料・工具・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
8回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材を整理し把握しておくこと(標準学習時間180分)。

9回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
10回	計画・栽培または飼育に必要な材料・用具・段取り等を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
11回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材を整理し把握しておくこと（標準学習時間180分）。
12回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	設計・製作に必要な資料・段取り等を検討しておくこと（標準学習時間180分）。
14回	今までの授業を振り返り、自分の考えをまとめておくこと（標準学習時間180分）。
15回	各自発表の準備をしてくること（標準学習時間120分）。【予習】本時の学習内容を振り返り、内容を整理しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	第1回から第15回までの内容を整理し、よく理解しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校の技術科教師になることを強く希望する者のための選択科目である。本講義では技術の内容ごとに実習教材の研究を行い、生徒が興味を持って取り組める実習教材を開発し、技術科教師としての実習教材作りの実践力を養うことを目的とする。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与する）
達成目標	1．生徒が学習内容に興味を持って取り組める実習教材の研究ができる。（A） 2．生徒が学習内容に興味を持って取り組める実習教材の開発ができる。（A）
キーワード	技術科、技術科教育法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出物の内容40%（達成目標の1.2.を評価）、最終評価試験60%（達成目標の1.2.を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304021541
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法
参考書	1．文部科学省検定済教科書「新編 新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2．文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野 / 」開隆堂 3．中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省・教育図書 4．他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	・工学実習棟2階 塗木研究室 ・直通電話 086-256-9598 ・E-mail : nuruki@are.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	・技術科教師を目指した授業への積極的な参加が求められる・ ・準備学習の詳細は授業中に指示する。
アクティブ・ラーニング	個々の受講者に質問を投げかけ問答を繰り返すことで理解を深める。
課題に対するフィードバック	・提出されたレポートについては、添削した後に解説し返却する。 ・最終試験については、実施後模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	技術科教育法、技術科教育法を修得していることが望ましい。

--	--

科目名	社会科教育法 (FC006700)
英文科目名	Teaching Method of Social Studies I
担当教員名	山田秀和* (やまだひでかず*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、中学校社会科の目的や課題について考察する。
2回	中学校社会科の歴史について考察する。
3回	中学校社会科の目標について考察する。
4回	中学校社会科の内容と全体構造について考察する。
5回	地理的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
6回	歴史的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
7回	公民的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
8回	事実を教える社会科授業について考察する。
9回	解釈を教える社会科授業について考察する。
10回	理論を教える社会科授業について考察する。
11回	価値を教える社会科授業について考察する。
12回	四つの授業について比較考察する。
13回	中学校社会科の評価論について事例を分析し、考察する。
14回	中学校社会科の評価事例を開発する。
15回	中学校社会科の発展的な学習内容とその指導について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】なぜ中学校社会科が存在するのか、その目的は何か、課題は何かについて考え、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】現在までの中学校社会科の学習指導要領における目標部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における目標部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における各分野の目標及び内容部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における地理的分野の目標及び内容部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における歴史的分野の目標及び内容部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における公民的分野の目標及び内容部分に目を通し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】事実を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】解釈を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】理論を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】価値を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】これまでに学習した四つの授業についてあらかじめ比較考察し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

	習時間90分)。
1 3 回	【予習】中学校社会科の評価に関する課題を考え、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 4 回	【予習】中学校社会科の評価事例をあらかじめ考え、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
1 5 回	【予習】今後の社会科のあり方について考え、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	本授業は、学習指導要領に示された中学校社会科の理解を促すとともに、授業を開発し、実践するための力を養うものである。そのために、社会科授業構成の理論と方法を提示し、社会科授業の分析及び指導案作成の基礎的技能を育成する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	1) 中学校社会科の目標、内容、方法について理解し説明することができる(A)。 2) 社会科授業を構成するための理論と方法を習得することができる(A)。
キーワード	中学校、社会科、授業
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験80%(達成目標1,2を評価)、授業中の課題(グループワーク等)20%(達成目標1,2を評価)で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)/文部科学省/東山書房【新】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編/文部科学省/東洋館出版社【新】
関連科目	社会科・公民科教育法, 社会科・公民科教育法, 社会科教育法
参考書	全国社会科教育学会編/『社会科教育実践ハンドブック』/明治図書出版/2011年 社会認識教育学会編/『新社会科教育学ハンドブック』/明治図書出版/2012年
連絡先	山田秀和(岡山大学大学院教育学研究科) hiyamada@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	グループやペアでの活動を行うことがあるので、毎回出席して真摯に授業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	授業の進行に応じて、グループワーク(ペアワーク)等を行う。
課題に対するフィードバック	授業中に行う課題に対するフィードバックとして、講評と解説を行う。最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料を提供することがある。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	なし
その他(注意・備考)	特になし

科目名	社会科教育法 (FC006800)
英文科目名	Teaching Method of Social Studies II
担当教員名	山田秀和* (やまだひでかず*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、中学校社会科の目的や課題について考察する。
2回	中学校社会科における問題解決型の授業について考察する。
3回	中学校社会科における理解型の授業について考察する。
4回	中学校社会科における説明型の授業について考察する。
5回	中学校社会科における意思決定型の授業について考察する。
6回	中学校社会科における議論型の授業について考察する。
7回	5つの授業論を比較考察する。
8回	子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計について考察する。
9回	中学校社会科の背景となる学問領域との関係について考察する。
10回	中学校社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法について考察する。
11回	授業を開発するために、テーマの設定と教材研究を行う。
12回	授業を開発するために、学習指導案を作成する。
13回	模擬授業を行い、授業を分析する。(第1グループ)
14回	模擬授業を行い、授業を分析する。(第2グループ)
15回	模擬授業の振り返りと授業設計の改善について考察する。

回数	準備学習
2回	【予習】問題解決型の社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】理解型の社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】説明型の社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】意思決定型の社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】議論型の社会科授業に相当する授業事例に目を通し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】これまでに学習した5つの授業についてあらかじめ比較考察し、まとめておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】中学生の子供の実態についてあらかじめ考察し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】社会科と社会科学・人文科学の関係についてあらかじめ考察し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】情報機器及び教材の効果的な活用法についてあらかじめ考察し、まとめておくこと(前回の授業にて指示する)(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理し、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】自分が開発する授業について教科書等に目を通し，構想をまとめておくこと（前回の授業にて指示する）（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理し，説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】自分が開発する授業について教科書等に目を通し，構想をまとめておくこと（前回の授業にて指示する）（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理し，説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】学習指導案を完成させておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理し，説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】学習指導案を完成させておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理し，説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】各自が開発した授業の改善案を考え，まとめておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理し，説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	社会科教育学の成果として分類された，問題解決型，理解型，説明型，意思決定型，議論型のそれぞれの授業の在り方を吟味・検討する。また，子供，学問，教材についての理解を深めた後，グループで授業を開発し，模擬的に実践する。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与）
達成目標	1) 問題解決型，理解型，説明型，意思決定型，議論型のそれぞれの授業の在り方を吟味・検討することができる（A）。 2) 子供，学問，教材についての理解を深めるとともに，グループで授業を開発し，模擬的に実践することができる（A）。
キーワード	中学校，社会科，授業
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート70%（達成目標1，2を評価），授業中の課題（グループワーク等）30%（達成目標1，2を評価）で評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領（平成29年告示）/文部科学省/東山書房【新】 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編/文部科学省/東洋館出版社【新】
関連科目	社会科・公民科教育法，社会科・公民科教育法，社会科教育法
参考書	全国社会科教育学会編/『社会科教育実践ハンドブック』/明治図書出版/2011年 社会認識教育学会編/『新社会科教育学ハンドブック』/明治図書出版/2012年
連絡先	山田秀和（岡山大学大学院教育学研究科） hiyamada@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	グループやペアでの活動を行うことがあるので，毎回出席して真摯に授業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	授業の進行に応じて，グループワーク（ペアワーク）等を行う。
課題に対するフィードバック	授業中に行う課題に対するフィードバックとして，講評と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。 事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り，事前に参考資料を提供することがある。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	なし
その他（注意・備考）	特になし

科目名	教職論【月2木2】(FC007200)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することに関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月3木3】(FC007210)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することに関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月5木5】(FC007220)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思* (おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することで関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月2木2】(FC007230)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することに関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月3木3】(FC007240)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主體的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的な教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することに関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月5木5】(FC007250)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することに関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月4木4】(FC007260)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することで関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教職論【月4木4】(FC007270)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思*(おだみつし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「イントロダクション・教職への適正」：自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えがもてるようにする。 教職に就く者の1日の生活を思い，他職種に就く者との違いを明らかにする。
2回	「学校の種類とその目的」：学校教育の変遷と教育に関わる各法律から「学校教育の意義」について考え理解する。 また，教員の職種や役割についても知る。
3回	「教職の意義」：教職の意義や教員の使命と役割について考え理解する。
4回	「教員の身分と服務」：教員の身分を知り服務義務について理解する。
5回	「教員の身分保障」：教員の身分保障と服務違反についての処分について知り，教職員の不祥事防止について理解する。
6回	「教員の研修」：教員の身分は尊重され待遇が適正化されていることを知り，研修の種類・内容について理解する。
7回	「教員の職務と学校組織」：職務と学校組織について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを理解する。 専門性のある教職員の配置や学校・教職員のマネジメント、組織の在り方など「チームとしての学校」についてについて考える。
8回	「教員に必要な資質と能力」：理想の教師像を求め，教員に必要な資質や能力について考え理解する。
9回	「教員と家庭，地域との関係」：地域における学校の存在意義について考え，学校と家庭，学校と地域との連携について理解する。
10回	「変わりゆく社会の中での学校教育」：変わりゆく社会の中で求められる教育について知り，学校における教育計画について理解する。
11回	「教師とは」：学級担任の1日を知り，学級担任として必要な能力や感性について考える。
12回	「生徒指導」：生徒指導のねらいと問題行動への対応の基本について理解する。 「進路指導」：進路指導の背景や目的，内容を理解し，進路指導の推進について考える。
13回	「いじめ問題の理解と対応」：いじめ問題の理解と対応について考え理解する。 「不登校」：不登校の要因や実態を理解し，不登校に対する取り組み，不登校生徒への対応について考える。
14回	「学力問題」：子ども達の学力の現状について知る。これからの時代に求められる学力とは何かを考える。生徒の主体的な活動を生かす授業展開について考える。
15回	「教員を目指す」：教員になるための学びや免許制度，教員採用試験について理解する。「自己の考察と自分の目指す教師像」：教員として必要な基本的な資質能力について改めて考えをまとめ，自身の教員としての適性について考える。どのような教師になりたいかをワークシートにまとめる。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，教職履修の動機についても考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること。また，現在の学校教育の課題や問題点についてもワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
2回	【予習】ワークシートに示された項目別に小学校と中学校のちがいについてまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】ワークシートに示された学校教育と家庭教育のちがいについてまとめること。また，校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
3回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「教職とはどのような職業か」「教職の魅力とは」についてワークシートにまとめ発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】「教師の生きがいとは」「教職に対するあなたの使命は」「使命達成のために取り組むべきことは」何かをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
4回	【予習】日本国憲法第15条，教育基本法9条，地方公務員法30条～38条服務規程について調べ発表できること。(標準学習時間120分)

	【復習】学習した教員の服務義務について暗記すること。(学習時間60分)
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項, 29条第1項を読み, 内容を発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の服務義務や身分保障, 処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。また, 不祥事防止のために留意すべきことについてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
6回	【予習】教職員にとって待遇が図られているものは何かをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】研修を行うにあたり, 教員としての心得をワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
7回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
8回	【予習】働く社会人として心掛けること, 教員として心掛けることについて考えをまとめ, 発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】新しい時代の義務教育を創造する(H17答申)の中で優れた教師の条件として3つの要素を挙げている。3点についての考えをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
9回	【予習】ワークシートの事例「新しい中学校建設について」を読み, ワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間60分) 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	【予習】中学校学習指導要領(平成29年3月)の前文をワークシートに写しておくこと。出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたかをワークシートにまとめること。(標準学習時間120分) 【復習】出身中学校の学校教育目標や校訓, 平成31年度学校重点目標を調べ, 出身中学校の教育方針についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)。
11回	【予習】小・中学校, 高等学校の教員との関わりの中で印象に残っているものについて発表できること。(標準学習時間60分) 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
12回	【予習】児童生徒に身に付けさせたい生活習慣や問題行動名を具体的にワークシートにまとめ, 発表できること。(標準学習時間120分) 【復習】事例「問題行動の対応」について, 担任の立場で考えワークシートにまとめること。(標準学習時間60分)
13回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また, いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し, 講義に持参すること。(標準学習時間60分) 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え, ワークシートにまとめること。(標準学習時間120分)
14回	【予習】新指導要領のねらいとポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】わかる授業を実現するために, 指導者として必要な基本的技術についてワークシートに考えをまとめること。(標準学習時間120分)
15回	【予習】出身都道府県の教員採用試験について調べワークシートにまとめること。教員としての適性についてのプリントに回答すること。(標準学習時間60分) 【復習】最終評価試験を前に, 15回の講義内容を振り返りよく整理すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため, 本講義の目的は, 教師になろうとする意欲を高めること, 教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教員に課せられた使命・役割について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員に求められる資質や素養について理解し自身の考えをワークシートに記述することができる(C)。 教員の職務内容や今日的な教育課題を理解し, 課題解決についてグループ発表やワークシートに記述することができる(C)。 自身の教師像を明確にし, ワークシートへの記述やグループ討議で発表することができる(C)。
キーワード	「やる気のある教師」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	○提出課題(40%; 達成目標 ~ の評価) ○最終評価試験(60%; 達成目標 ~ の評価)
教科書	使用しない。
関連科目	教育課程論, 生徒・進路指導論

参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<p>○教職履修する学生は教員志望と考え、児童生徒の手本となるように、教員として社会人として必要な資質、生活態度、受講態度を厳しく指導する。例えば、示された授業規律の厳守、遅刻厳禁、全授業出席、教員志望の学生としての受講意識を求める。</p> <p>○必要な資料は講義ごとに配付する。</p> <p>○宿題レポートは期限内に提出すること。内容、記載のよくないものは再提出を求める。</p> <p>○授業内で小テストを行う。</p> <p>○授業の座席は指定する。</p>
アクティブ・ラーニング	○小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。
課題に対するフィードバック	<p>○課題については，次時の授業で発表することや質問，討議することで関心を深め深化させる。また，提出された課題については評価し返却する。</p> <p>授業内で行う小テストについては，その授業で正答例を提示する。</p> <p>最終評価試験については，終了後に正答例やポイントを提示する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	○岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市内中学校校長：学校現場での経験を活かし，教育現場における指導法や教育課題の解決法について講義します。また学校・教員がもつ文化や現場からの新人教員への期待の声についても伝えていきます。
その他（注意・備考）	

科目名	教育の方法と技術【月3木3】(FC007300)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲*(つだひでのり*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育の方法と技術について(講義ガイダンスを含む)解説する。
2回	教育方法及び学力観の変遷(第1回資料をもとに、新学習指導要領における学力観)について解説する。
3回	学校教育の目的、学校教育の課題、新しい学力観及び教育の情報化と授業形態の変化について解説する。
4回	「教育の情報化に関する手引き」(第2章 学習指導要領における教育の情報化、第3章 教科指導におけるICT活用)について解説する。
5回	「教育の情報化に関する手引き」(第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域の連携、第7章 教員のICT活用指導力の向上)について解説する。
6回	発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の障害特性の理解とICTの有効性について解説する。
7回	視覚障害をはじめとする、各種障害による学習の困難さを軽減するデジタル教科書等やICT機器の活用について解説する。
8回	平成11年から始まった教育の情報化が教員に受け入れられなかった理由について解説を聞く。また、現在導入が急速に始まっているICTを活用した教材提示方法による良い授業と悪い授業の実際について解説を聞いた後、効果的な教材の提示方法について話し合い学習をさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
9回	授業へのICT機器の活用 教材提示装置の活用体験と授業に使えるプレゼンテーションを班毎でさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
10回	授業へのICT機器の活用 プレゼンテーションの発表と相互評価を行い、効果的なプレゼンテーションについて解説する。(アクティブ・ラーニング(プレゼンテーション))
11回	教材作成と授業設計 第9回、第10回の経験を踏まえ、取得免許教科の学習指導案を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
12回	教材作成と授業設計 第12回の授業で扱う教材を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
13回	模擬授業を行い相互評価を行う。その後、授業者より効果的なICT活用について解説する。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
14回	著作権法第35条について解説する。
15回	遠隔授業をはじめとしたテレビ会議の活用と未来型教室の在り方について解説する

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】新学習指導要領総則第3章を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領が目指す新しい学力観についてまとめること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」の第2章と第3章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教科指導におけるICT活用のメリット、デメリットをまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」第5章と第7章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教員のICT活用チェックリストを行い、教員になるために身に付けるべきスキルについてまとめること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】インターネットや図書館を活用し、発達障害の種類について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障害の種類とその障害特性、ICT活用の有効性についてまとめること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】インターネットを活用し、デジタル教科書について調べること。(標準学習時間60分)。 【復習】班毎に貸し出されたデジタル教科書を体験し、その特性を体験すること(標準学習時間120分)。

	分)。
8回	【予習】自分自身が小中高等学校でICTを活用した授業体験についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業における効果的なICT教材の提示方法についてまとめ、乱用、誤用、悪用にならないための留意点をまとめること(標準学習時間120分)
9回	【予習】授業で活用できるICT機器にはどのようなものがあるか調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で、プレゼンテーションを完成させること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】班毎で、完成したプレゼンテーションの発表練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】相互評価をもとに、プレゼンテーションを完成し、提出できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】班毎で教材作成をする場面を決定しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】班毎で扱う学習指導案で扱うページのデジタル教科書にあるコンテンツを体験しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】作成した学習指導案で扱う教材を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】模擬授業ができるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相互評価をもとに、自分たちが実施した授業の反省と改善についてまとめること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】インターネットや図書館で著作権法第35条について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業の解説をもとに、与えられた課題(具体例)について自分の考えをまとめ、配布された解説と比較し、教育における著作権について理解を深めること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】インターネットなどを活用し新学習指導要領が想定する教室のイメージをつかんでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自治体における整備格差とその問題点についてまとめること(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成表・実施の方針Hにもっとも強く関与)
達成目標	1) 教育の方法論(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 教育方法の基礎的理論を理解するとともに、授業の実践例と関連付けて説明できる。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。 2) 教育の技術(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 3) 情報機器及び教材の活用(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりにするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業後レポート(60%) (達成目標 ~)、課題(学習指導案(教材作成を含む)、プレゼンテーション)(40%) (達成目標 ~) 総計が60%以上を合格とする
教科書	教職必修 教育の方法と技術改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407347760
関連科目	教職実践演習(中・高)、各教科指導法
参考書	・文部科学省「中学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領(最新版)」 ・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」(平成22年) ・赤堀侃司「タブレットは紙に勝てるのか タブレット時代の教育」
連絡先	A2号館8階 津田、オフィスアワーはmylogで確認すること。
授業の運営方針	遅刻、早退、途中退室をしないようにすること。授業では、レジュメ、資料を配付するので復習で活用し保存しておくこと。

アクティブ・ラーニング	第8回～第13回の授業でグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションさくせい・発表及び相互評価を行う。
課題に対するフィードバック	毎回授業で学習内容の確認のための振り返りを行い、コメントを書き返却をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。
その他（注意・備考）	

科目名	教育の方法と技術【火3金3】(FC007310)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>授業ガイダンス(教育の方法と技術の目標)。 主体的・対話的で深い学びを実現して生徒の資質・能力を育成する優れた授業実践を視聴して、目指す授業を理解する。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
2回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
3回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
4回	<p>○ 教科書 第1編第1章「教育方法」、第2章「学校の教育計画」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1章「教育方法」 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観 第2章「学校の教育計画」 第1節 教育方法のあゆみ 第2節 教育課程 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
5回	<p>○ 教科書 第1編第3章「学習理論」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学習の原理 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
6回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第1節、第2節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
7回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
8回	<p>○ 教科書 第1編第5章「生徒指導と総合的な学習の時間」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 生徒指導 第2節 総合的な学習の時間 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
9回	<p>○ 教科書 第2編第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料「教育の情報化に関する手引き」と関係付けながら読み解く。 第1節 情報通信社会と学校教育 第2節 各種教育メディアの活用事例 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
10回	<p>○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第1節、第2節、第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン活用 第3節 最新教育情報の収集と発信への活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>

1 1 回	○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第4節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第4節 パソコン活用のモラルと著作権 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 2 回	○ 教科書 第2編第3章「パソコン活用と教材開発」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 公文書の作成 第2節 成績一覧の作成とデータのグラフ化 第3節 プレゼンテーションの手法 第4節 ホームページ作成とその注意点 第5節 発展的なソフトの活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 3 回	○ 模擬授業演習 その1 教科書をもとに班毎に題材(教材)を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定した10分間の導入場面の模擬授業の教材研究と学習指導案の作成を行い、授業研究を体験する。
1 4 回	○ 模擬授業演習 その2 1単位時間の授業の導入部分を想定して作成した模擬授業を班毎に行い、自己評価と相互評価を行う。
1 5 回	○ 模擬授業演習 その3 1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討して完成させる。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業で配付した(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】文部科学省のホームページより、平成29年改定の学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4 回	【予習】テキスト第1編第1章・第2章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第1章・第2章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5 回	【予習】第1編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第3章の理論と模擬授業演習 の実践との関係についてレポートを作成すること。(標準学習時間60分)。
6 回	【予習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
7 回	【予習】教科書第1編第4章(第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8 回	【予習】教科書第1編第5章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第5章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】教科書第2編第1章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間60分)。 【復習】教科書第2編第1章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 0 回	【予習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 1 回	【予習】教科書第2編第2章(第4節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。

	【復習】教科書第2編第2章(第4節)の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】教科書第2編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第3章の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教材研究の進め方と学習指導案の基本的な構成について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】模擬授業の学習指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能と実践的な指導力を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Hにもっとも強く関与する。)
達成目標	(1) 教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。(H) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。(H) 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。(H) (2) 教育の技術 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を説明できるとともに模擬授業で実践できる。(H) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。(H) (3) 情報機器及び教材の活用 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(H) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。(H)
キーワード	教育の方法、教育の技術、実践的指導力、資質・能力の育成、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、情報機器及び教材の活用、教育評価、教育の情報化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業のワークシート・授業後の振り返りレポート45%(達成目標 ~、~、~ の評価)、予習レポート25%(達成目標 ~、~、~ の評価)、学習指導案・教材づくり20%(達成目標 ~ の評価)、教材と発表10%(達成目標 ~ の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 978-4-407-34776-0
関連科目	教員としての資質・能力として、「教職論」、「教育課程論」を根拠とした教育の方法と技術の理解と実践的な指導力を身に付ける。また、本授業で学んだ教育の方法と技術を、各教科の教育法に関連付けて転用することを期待する。
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号) ○「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」(共立出版)
連絡先	C3号館2階 藤本義博研究室 TEL:086-256-9650 Email:fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授

	業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で授業を進めることで、数学や理科の授業を想定した模擬授業演習を行い、教育の方法の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業前に回収し、評価した後次時に返却する。授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。教材と発表は、「本授業で学んだ教育の方法と技術を活用しているか」、「課題を踏まえた発表内容であったか」という視点で授業内に相対評価をしてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本授業では、教科書と配付資料をもとに反転学習を行った上で授業に臨み、基礎的な教育の方法と技術の理解を深化させるとともに、実践的な指導力を身に付けることで、教職を目指す自分自身の成長を実感できるように努力することを期待する。 教職を志すことから、相応の授業姿勢を求める。

科目名	教育の方法と技術【月3木3】(FC007320)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲*(つだひでのり*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育の方法と技術について(講義ガイダンスを含む)解説する。
2回	教育方法及び学力観の変遷(第1回資料をもとに、新学習指導要領における学力観)について解説する。
3回	学校教育の目的、学校教育の課題、新しい学力観及び教育の情報化と授業形態の変化について解説する。
4回	「教育の情報化に関する手引き」(第2章 学習指導要領における教育の情報化、第3章 教科指導におけるICT活用)について解説する。
5回	「教育の情報化に関する手引き」(第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域の連携、第7章 教員のICT活用指導力の向上)について解説する。
6回	発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の障害特性の理解とICTの有効性について解説する。
7回	視覚障害をはじめとする、各種障害による学習の困難さを軽減するデジタル教科書等やICT機器の活用について解説する。
8回	平成11年から始まった教育の情報化が教員に受け入れられなかった理由について解説を聞く。また、現在導入が急速に始まっているICTを活用した教材提示方法による良い授業と悪い授業の実際について解説を聞いた後、効果的な教材の提示方法について話し合い学習をさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
9回	授業へのICT機器の活用 教材提示装置の活用体験と授業に使えるプレゼンテーションを班毎でさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
10回	授業へのICT機器の活用 プレゼンテーションの発表と相互評価を行い、効果的なプレゼンテーションについて解説する。(アクティブ・ラーニング(プレゼンテーション))
11回	教材作成と授業設計 第9回、第10回の経験を踏まえ、取得免許教科の学習指導案を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
12回	教材作成と授業設計 第12回の授業で扱う教材を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
13回	模擬授業を行い相互評価を行う。その後、授業者より効果的なICT活用について解説する。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
14回	著作権法第35条について解説する。
15回	遠隔授業をはじめとしたテレビ会議の活用と未来型教室の在り方について解説する

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】新学習指導要領総則第3章を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領が目指す新しい学力観についてまとめること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」の第2章と第3章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教科指導におけるICT活用のメリット、デメリットをまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」第5章と第7章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教員のICT活用チェックリストを行い、教員になるために身に付けるべきスキルについてまとめること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】インターネットや図書館を活用し、発達障害の種類について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障害の種類とその障害特性、ICT活用の有効性についてまとめること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】インターネットを活用し、デジタル教科書について調べる。(標準学習時間60分)。 【復習】班毎に貸し出されたデジタル教科書を体験し、その特性を体験すること(標準学習時間120分)。

	分)。
8回	【予習】自分自身が小中高等学校でICTを活用した授業体験についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業における効果的なICT教材の提示方法についてまとめ、乱用、誤用、悪用にならないための留意点をまとめること(標準学習時間120分)
9回	【予習】授業で活用できるICT機器にはどのようなものがあるか調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で、プレゼンテーションを完成させること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】班毎で、完成したプレゼンテーションの発表練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】相互評価をもとに、プレゼンテーションを完成し、提出できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】班毎で教材作成をする場面を決定しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】班毎で扱う学習指導案で扱うページのデジタル教科書にあるコンテンツを体験しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】作成した学習指導案で扱う教材を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】模擬授業ができるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相互評価をもとに、自分たちが実施した授業の反省と改善についてまとめること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】インターネットや図書館で著作権法第35条について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業の解説をもとに、与えられた課題(具体例)について自分の考えをまとめ、配布された解説と比較し、教育における著作権について理解を深めること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】インターネットなどを活用し新学習指導要領が想定する教室のイメージをつかんでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自治体における整備格差とその問題点についてまとめること(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成表・実施の方針Hにもっとも強く関与)
達成目標	1) 教育の方法論(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 教育方法の基礎的理論を理解するとともに、授業の実践例と関連付けて説明できる。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。 2) 教育の技術(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 3) 情報機器及び教材の活用(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりにするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業後レポート(60%) (達成目標 ~)、課題(学習指導案(教材作成を含む)、プレゼンテーション)(40%) (達成目標 ~) 総計が60%以上を合格とする
教科書	教職必修 教育の方法と技術改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407347760
関連科目	教職実践演習(中・高)、各教科指導法
参考書	・文部科学省「中学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領(最新版)」 ・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」(平成22年) ・赤堀侃司「タブレットは紙に勝てるのか タブレット時代の教育」
連絡先	A2号館8階 津田、オフィスアワーはmylogで確認すること。
授業の運営方針	遅刻、早退、途中退室をしないようにすること。授業では、レジュメ、資料を配付するので復習で活用し保存しておくこと。

アクティブ・ラーニング	第8回～第13回の授業でグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションさくせい・発表及び相互評価を行う。
課題に対するフィードバック	毎回授業で学習内容の確認のための振り返りを行い、コメントを書き返却をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。
その他（注意・備考）	

科目名	教育の方法と技術【火3金3】(FC007330)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>授業ガイダンス(教育の方法と技術の目標)。 主体的・対話的で深い学びを実現して生徒の資質・能力を育成する優れた授業実践を視聴して、目指す授業を理解する。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
2回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
3回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
4回	<p>○ 教科書 第1編第1章「教育方法」、第2章「学校の教育計画」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1章「教育方法」 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観 第2章「学校の教育計画」 第1節 教育方法のあゆみ 第2節 教育課程 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
5回	<p>○ 教科書 第1編第3章「学習理論」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学習の原理 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
6回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第1節、第2節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
7回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
8回	<p>○ 教科書 第1編第5章「生徒指導と総合的な学習の時間」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 生徒指導 第2節 総合的な学習の時間 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
9回	<p>○ 教科書 第2編第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料「教育の情報化に関する手引き」と関係付けながら読み解く。 第1節 情報通信社会と学校教育 第2節 各種教育メディアの活用事例 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
10回	<p>○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第1節、第2節、第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン活用 第3節 最新教育情報の収集と発信への活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>

1 1 回	○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第4節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第4節 パソコン活用のモラルと著作権 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 2 回	○ 教科書 第2編第3章「パソコン活用と教材開発」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 公文書の作成 第2節 成績一覧の作成とデータのグラフ化 第3節 プレゼンテーションの手法 第4節 ホームページ作成とその注意点 第5節 発展的なソフトの活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 3 回	○ 模擬授業演習 その1 教科書をもとに班毎に題材(教材)を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定した10分間の導入場面の模擬授業の教材研究と学習指導案の作成を行い、授業研究を体験する。
1 4 回	○ 模擬授業演習 その2 1単位時間の授業の導入部分を想定して作成した模擬授業を班毎に行い、自己評価と相互評価を行う。
1 5 回	○ 模擬授業演習 その3 1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討して完成させる。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業で配付した(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】文部科学省のホームページより、平成29年改定の学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4 回	【予習】テキスト第1編第1章・第2章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第1章・第2章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5 回	【予習】第1編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第3章の理論と模擬授業演習 の実践との関係についてレポートを作成すること。(標準学習時間60分)。
6 回	【予習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
7 回	【予習】教科書第1編第4章(第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8 回	【予習】教科書第1編第5章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第5章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】教科書第2編第1章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間60分)。 【復習】教科書第2編第1章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 0 回	【予習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 1 回	【予習】教科書第2編第2章(第4節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。

	【復習】教科書第2編第2章(第4節)の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】教科書第2編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第3章の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教材研究の進め方と学習指導案の基本的な構成について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】模擬授業の学習指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能と実践的な指導力を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Hにもっとも強く関与する。)
達成目標	(1) 教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。(H) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。(H) 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。(H) (2) 教育の技術 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を説明できるとともに模擬授業で実践できる。(H) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。(H) (3) 情報機器及び教材の活用 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(H) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。(H)
キーワード	教育の方法、教育の技術、実践的指導力、資質・能力の育成、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、情報機器及び教材の活用、教育評価、教育の情報化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業のワークシート・授業後の振り返りレポート45%(達成目標 ~、~、~ の評価)、予習レポート25%(達成目標 ~、~、~ の評価)、学習指導案・教材づくり20%(達成目標 ~ の評価)、教材と発表10%(達成目標 ~ の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 978-4-407-34776-0
関連科目	教員としての資質・能力として、「教職論」、「教育課程論」を根拠とした教育の方法と技術の理解と実践的な指導力を身に付ける。また、本授業で学んだ教育の方法と技術を、各教科の教育法に関連付けて転用することを期待する。
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号) ○「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」(共立出版)
連絡先	C3号館2階 藤本義博研究室 TEL:086-256-9650 Email:fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授

	業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で授業を進めることで、数学や理科の授業を想定した模擬授業演習を行い、教育の方法の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業前に回収し、評価した後次時に返却する。授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。教材と発表は、「本授業で学んだ教育の方法と技術を活用しているか」、「課題を踏まえた発表内容であったか」という視点で授業内に相対評価をしてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本授業では、教科書と配付資料をもとに反転学習を行った上で授業に臨み、基礎的な教育の方法と技術の理解を深化させるとともに、実践的な指導力を身に付けることで、教職を目指す自分自身の成長を実感できるように努力することを期待する。 教職を志すことから、相応の授業姿勢を求める。

科目名	教育の方法と技術【月3木3】(FC007340)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲*(つだひでのり*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育の方法と技術について(講義ガイダンスを含む)解説する。
2回	教育方法及び学力観の変遷(第1回資料をもとに、新学習指導要領における学力観)について解説する。
3回	学校教育の目的、学校教育の課題、新しい学力観及び教育の情報化と授業形態の変化について解説する。
4回	「教育の情報化に関する手引き」(第2章 学習指導要領における教育の情報化、第3章 教科指導におけるICT活用)について解説する。
5回	「教育の情報化に関する手引き」(第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域の連携、第7章 教員のICT活用指導力の向上)について解説する。
6回	発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の障害特性の理解とICTの有効性について解説する。
7回	視覚障害をはじめとする、各種障害による学習の困難さを軽減するデジタル教科書等やICT機器の活用について解説する。
8回	平成11年から始まった教育の情報化が教員に受け入れられなかった理由について解説を聞く。また、現在導入が急速に始まっているICTを活用した教材提示方法による良い授業と悪い授業の実際について解説を聞いた後、効果的な教材の提示方法について話し合い学習をさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
9回	授業へのICT機器の活用 教材提示装置の活用体験と授業に使えるプレゼンテーションを班毎でさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
10回	授業へのICT機器の活用 プレゼンテーションの発表と相互評価を行い、効果的なプレゼンテーションについて解説する。(アクティブ・ラーニング(プレゼンテーション))
11回	教材作成と授業設計 第9回、第10回の経験を踏まえ、取得免許教科の学習指導案を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
12回	教材作成と授業設計 第12回の授業で扱う教材を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
13回	模擬授業を行い相互評価を行う。その後、授業者より効果的なICT活用について解説する。(アクティブ・ラーニング(グループワーク))
14回	著作権法第35条について解説する。
15回	遠隔授業をはじめとしたテレビ会議の活用と未来型教室の在り方について解説する

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】新学習指導要領総則第3章を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領が目指す新しい学力観についてまとめること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」の第2章と第3章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教科指導におけるICT活用のメリット、デメリットをまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」第5章と第7章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教員のICT活用チェックリストを行い、教員になるために身に付けるべきスキルについてまとめること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】インターネットや図書館を活用し、発達障害の種類について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障害の種類とその障害特性、ICT活用の有効性についてまとめること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】インターネットを活用し、デジタル教科書について調べる。(標準学習時間60分)。 【復習】班毎に貸し出されたデジタル教科書を体験し、その特性を体験すること(標準学習時間120分)。

	分)。
8回	【予習】自分自身が小中高等学校でICTを活用した授業体験についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業における効果的なICT教材の提示方法についてまとめ、乱用、誤用、悪用にならないための留意点をまとめること(標準学習時間120分)
9回	【予習】授業で活用できるICT機器にはどのようなものがあるか調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で、プレゼンテーションを完成させること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】班毎で、完成したプレゼンテーションの発表練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】相互評価をもとに、プレゼンテーションを完成し、提出できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】班毎で教材作成をする場面を決定しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】班毎で扱う学習指導案で扱うページのデジタル教科書にあるコンテンツを体験しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】作成した学習指導案で扱う教材を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】模擬授業ができるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相互評価をもとに、自分たちが実施した授業の反省と改善についてまとめること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】インターネットや図書館で著作権法第35条について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業の解説をもとに、与えられた課題(具体例)について自分の考えをまとめ、配布された解説と比較し、教育における著作権について理解を深めること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】インターネットなどを活用し新学習指導要領が想定する教室のイメージをつかんでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自治体における整備格差とその問題点についてまとめること(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成表・実施の方針Hにもっとも強く関与)
達成目標	1) 教育の方法論(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 教育方法の基礎的理論を理解するとともに、授業の実践例と関連付けて説明できる。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。 2) 教育の技術(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 3) 情報機器及び教材の活用(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりにするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業後レポート(60%) (達成目標 ~)、課題(学習指導案(教材作成を含む)、プレゼンテーション)(40%) (達成目標 ~) 総計が60%以上を合格とする
教科書	教職必修 教育の方法と技術改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407347760
関連科目	教職実践演習(中・高)、各教科指導法
参考書	・文部科学省「中学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領(最新版)」 ・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」(平成22年) ・赤堀侃司「タブレットは紙に勝てるのか タブレット時代の教育」
連絡先	A2号館8階 津田、オフィスアワーはmylogで確認すること。
授業の運営方針	遅刻、早退、途中退室をしないようにすること。授業では、レジュメ、資料を配付するので復習で活用し保存しておくこと。

アクティブ・ラーニング	第8回～第13回の授業でグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションさくせい・発表及び相互評価を行う。
課題に対するフィードバック	毎回授業で学習内容の確認のための振り返りを行い、コメントを書き返却をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。
その他（注意・備考）	

科目名	教育の方法と技術【火3金3】(FC007350)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>授業ガイダンス(教育の方法と技術の目標)。 主体的・対話的で深い学びを実現して生徒の資質・能力を育成する優れた授業実践を視聴して、目指す授業を理解する。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
2回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
3回	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。</p>
4回	<p>○ 教科書 第1編第1章「教育方法」、第2章「学校の教育計画」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1章「教育方法」 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観 第2章「学校の教育計画」 第1節 教育方法のあゆみ 第2節 教育課程 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
5回	<p>○ 教科書 第1編第3章「学習理論」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学習の原理 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
6回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第1節、第2節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
7回	<p>○ 教科書 第1編第4章「学習指導の実態」(第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
8回	<p>○ 教科書 第1編第5章「生徒指導と総合的な学習の時間」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 生徒指導 第2節 総合的な学習の時間 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
9回	<p>○ 教科書 第2編第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料「教育の情報化に関する手引き」と関係付けながら読み解く。 第1節 情報通信社会と学校教育 第2節 各種教育メディアの活用事例 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>
10回	<p>○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第1節、第2節、第3節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン活用 第3節 最新教育情報の収集と発信への活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。</p>

1 1 回	○ 教科書 第2編第2章「情報機器の活用による学校教育の改善」(第4節)について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第4節 パソコン活用のモラルと著作権 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 2 回	○ 教科書 第2編第3章「パソコン活用と教材開発」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 公文書の作成 第2節 成績一覧の作成とデータのグラフ化 第3節 プレゼンテーションの手法 第4節 ホームページ作成とその注意点 第5節 発展的なソフトの活用 ○ 模擬授業演習 を生徒役で体験し、理論と実践を関係付けて理解する。
1 3 回	○ 模擬授業演習 その1 教科書をもとに班毎に題材(教材)を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定した10分間の導入場面の模擬授業の教材研究と学習指導案の作成を行い、授業研究を体験する。
1 4 回	○ 模擬授業演習 その2 1単位時間の授業の導入部分を想定して作成した模擬授業を班毎に行い、自己評価と相互評価を行う。
1 5 回	○ 模擬授業演習 その3 1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討して完成させる。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業で配付した(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3 回	【予習】授業で配付した(中教審第197号)の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】文部科学省のホームページより、平成29年改定の学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4 回	【予習】テキスト第1編第1章・第2章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第1章・第2章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5 回	【予習】第1編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第3章の理論と模擬授業演習 の実践との関係についてレポートを作成すること。(標準学習時間60分)。
6 回	【予習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第1節、第2節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
7 回	【予習】教科書第1編第4章(第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第4章(第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8 回	【予習】教科書第1編第5章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第1編第5章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】教科書第2編第1章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間60分)。 【復習】教科書第2編第1章の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 0 回	【予習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第2章(第1節、第2節、第3節)の理論と模擬授業演習 の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
1 1 回	【予習】教科書第2編第2章(第4節)を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。

	【復習】教科書第2編第2章(第4節)の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】教科書第2編第3章を熟読して予習問題を回答すること(標準学習時間120分)。 【復習】教科書第2編第3章の理論と模擬授業演習の実践との関係について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教材研究の進め方と学習指導案の基本的な構成について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】模擬授業の学習指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】1単位時間の授業の導入部分を想定して行った模擬授業の自己評価と相互評価を元に、改善・検討案をレポートしておくこと(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能と実践的な指導力を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Hにもっとも強く関与する。)
達成目標	(1) 教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。(H) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。(H) 学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。(H) (2) 教育の技術 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を説明できるとともに模擬授業で実践できる。(H) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。(H) (3) 情報機器及び教材の活用 生徒が興味・関心を高めて問題を見だし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(H) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。(H)
キーワード	教育の方法、教育の技術、実践的指導力、資質・能力の育成、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、情報機器及び教材の活用、教育評価、教育の情報化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業のワークシート・授業後の振り返りレポート45%(達成目標～、～、～の評価)、予習レポート25%(達成目標～、～、～の評価)、学習指導案・教材づくり20%(達成目標～の評価)、教材と発表10%(達成目標～の評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 978-4-407-34776-0
関連科目	教員としての資質・能力として、「教職論」、「教育課程論」を根拠とした教育の方法と技術の理解と実践的な指導力を身に付ける。また、本授業で学んだ教育の方法と技術を、各教科の教育法に関連付けて転用することを期待する。
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中教審第197号) ○「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」(共立出版)
連絡先	C3号館2階 藤本義博研究室 TEL:086-256-9650 Email:fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授

	業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で授業を進めることで、数学や理科の授業を想定した模擬授業演習を行い、教育の方法の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業前に回収し、評価した後次時に返却する。授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する。教材と発表は、「本授業で学んだ教育の方法と技術を活用しているか」、「課題を踏まえた発表内容であったか」という視点で授業内に相対評価をしてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本授業では、教科書と配付資料をもとに反転学習を行った上で授業に臨み、基礎的な教育の方法と技術の理解を深化させるとともに、実践的な指導力を身に付けることで、教職を目指す自分自身の成長を実感できるように努力することを期待する。 教職を志すことから、相応の授業姿勢を求める。

科目名	教育の方法と技術【月3木3】(FC007360)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲*(つだひでのり*), 森敏昭(もりとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育の方法と技術について(講義ガイダンスを含む)解説する。 (全教員)
2回	教育方法及び学力観の変遷(第1回資料をもとに、新学習指導要領における学力観)について解説する。 (全教員)
3回	学校教育の目的、学校教育の課題、新しい学力観及び教育の情報化と授業形態の変化について解説する。 (全教員)
4回	「教育の情報化に関する手引き」(第2章 学習指導要領における教育の情報化、第3章 教科指導におけるICT活用)について解説する。 (全教員)
5回	「教育の情報化に関する手引き」(第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域の連携、第7章 教員のICT活用指導力の向上)について解説する。 (全教員)
6回	発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の障害特性の理解とICTの有効性について解説する。 (全教員)
7回	視覚障害をはじめとする、各種障害による学習の困難さを軽減するデジタル教科書等やICT機器の活用について解説する。 (全教員)
8回	平成11年から始まった教育の情報化が教員に受け入れられなかった理由について解説を聞く。また、現在導入が急速に始まっているICTを活用した教材提示方法による良い授業と悪い授業の実際について解説を聞いた後、効果的な教材の提示方法について話し合い学習をさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク)) (全教員)
9回	授業へのICT機器の活用 教材提示装置の活用体験と授業に使えるプレゼンテーションを班毎でさせる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク)) (全教員)
10回	授業へのICT機器の活用 プレゼンテーションの発表と相互評価を行い、効果的なプレゼンテーションについて解説する。(アクティブ・ラーニング(プレゼンテーション)) (全教員)
11回	教材作成と授業設計 第9回、第10回の経験を踏まえ、取得免許教科の学習指導案を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク)) (全教員)
12回	教材作成と授業設計 第12回の授業で扱う教材を班毎で作成させる。(アクティブ・ラーニング(グループワーク)) (全教員)
13回	模擬授業を行い相互評価を行う。その後、授業者より効果的なICT活用について解説する。(アクティブ・ラーニング(グループワーク)) (全教員)
14回	著作権法第35条について解説する。

	(全教員)
15回	遠隔授業をはじめとしたテレビ会議の活用と未来型教室の在り方について解説する
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】新学習指導要領総則第3章を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新学習指導要領が目指す新しい学力観についてまとめること(標準学習時間60分)。
4回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」の第2章と第3章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教科指導におけるICT活用のメリット、デメリットをまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】文科省のHPの「教育の情報化に関する手引き」第5章と第7章を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】教員のICT活用チェックリストを行い、教員になるために身に付けるべきスキルについてまとめること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】インターネットや図書館を活用し、発達障害の種類について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障害の種類とその障害特性、ICT活用の有効性についてまとめること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】インターネットを活用し、デジタル教科書について調べる。(標準学習時間60分)。 【復習】班毎に貸し出されたデジタル教科書を体験し、その特性を体験すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】自分自身が小中高等学校でICTを活用した授業体験についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業における効果的なICT教材の提示方法についてまとめ、乱用、誤用、悪用にならないための留意点をまとめること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】授業で活用できるICT機器にはどのようなものがあるか調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で、プレゼンテーションを完成させること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】班毎で、完成したプレゼンテーションの発表練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】相互評価をもとに、プレゼンテーションを完成し、提出できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】班毎で教材作成をする場面を決定しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】班毎で学習指導案を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】班毎で扱う学習指導案で扱うページのデジタル教科書にあるコンテンツを体験しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】作成した学習指導案で扱う教材を完成させておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】模擬授業ができるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相互評価をもとに、自分たちが実施した授業の反省と改善についてまとめること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】インターネットや図書館で著作権法第35条について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業の解説をもとに、与えられた課題(具体例)について自分の考えをまとめ、配布された解説と比較し、教育における著作権について理解を深めること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】インターネットなどを活用し新学習指導要領が想定する教室のイメージをつかんでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自治体における整備格差とその問題点についてまとめること(標準学習時間120分)。

講義目的	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成表・実施の方針Hにもっとも強く関与)
達成目標	1)教育の方法論(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H) 教育方法の基礎的理論を理解するとともに、授業の実践例と関連付けて説明できる。

	<p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方を理解するとともに、優れた授業実践について例をあげて説明できる。</p> <p>学級・児童及び生徒・教員・教室・教材・学習指導案など授業を構成する基礎的な要件を例をあげて説明できる。</p> <p>学習評価の基礎的な考え方を理解するとともに具体的な評価の例を説明できる。</p> <p>2) 教育の技術(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H)</p> <p>話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>3) 情報機器及び教材の活用(教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針H)</p> <p>生徒が興味・関心を高めて問題を見いだし課題を明確に把握したり学習内容を的確にまとめたりにするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。</p> <p>子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法と授業事例を説明できる。</p>
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業後レポート(60%) (達成目標 ~)、課題(学習指導案(教材作成を含む)、プレゼンテーション)(40%) (達成目標 ~) 総計が60%以上を合格とする
教科書	教職必修 教育の方法と技術改訂版 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407347760
関連科目	教職実践演習(中・高)、各教科指導法
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「中学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領(最新版)」 ・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」(平成22年) ・赤堀侃司「タブレットは紙に勝てるのか タブレット時代の教育」
連絡先	A2号館8階 津田、オフィスアワーはmylogで確認すること。
授業の運営方針	遅刻、早退、途中退室をしないようにすること。授業では、レジュメ、資料を配付するので復習で活用し保存しておくこと。
アクティブ・ラーニング	第8回～第13回の授業でグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションさくせい・発表及び相互評価を行う。
課題に対するフィードバック	毎回授業で学習内容の確認のための振り返りを行い、コメントを書き返却をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。
その他(注意・備考)	

科目名	生徒・進路指導論 (FC007400)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治* (かとうけんじ*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。学校教育における生徒指導の位置づけについて概説する。
2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5回	生徒理解の方法について説明する。
6回	生徒指導と進路指導について説明する。
7回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10回	事例研究 いじめ等について説明する。
11回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12回	生徒指導と法律について説明する。
13回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。全体の授業のまとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。

	と(標準学習時間120分)。
1 1 回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
1 2 回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 3 回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 4 回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 5 回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導體制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 6 回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識の違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M, Nにもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解し説明することができる。(M) 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につけることができる。(M) 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について説明することができる。(M) キャリアガイダンスについて理解し説明することができる。(N) これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につけ、それらを表現することができる。(M, N)
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(レポート等)提出とその内容(50%:達成目標 ~ を評価)、最終評価試験(50%:達成目標 ~ を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・毎回の授業が試験だという心構えで出席してください。本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。 ・居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。 ・出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 ・視聴覚教材を利用して授業展開をします。欠席をされると、配付資料等だけの補習では不十分となります。やむを得ない場合を除いて、必ず出席するように心がけてください。
アクティブ・ラーニング	・小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れます。 ・基本的に、視聴覚教材の視聴後、SGE(構成的グループエンカウンター)やグループワーク等を実施する予定です。積極的な授業参加を期待します。また、グループごとに意見発表をしてもらいます。
課題に対するフィードバック	・課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させます。 ・視聴覚教材やSGEの後、報告書を提出してもらい、特徴的な意見や感想について、次回にプリントし全員に配付し、それをもとにグループワーク等でフィードバックし、深化をはかります。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示します。
合理的配慮が必要な学	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供してい

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元県立高等学校勤務：担任，学年主任，生徒指導主任の現場経験を活かして，机上の空論ではなく現実的な生徒指導の在り方（いじめ，不登校，暴力行為，体罰等）について講義する。
その他（注意・備考）	<p>本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義である。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。</p> <p>課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。なお、授業の進捗状況に応じて内容や進度等について変更することもある。</p>

科目名	生徒・進路指導論 (FC007410)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治* (かとうけんじ*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。学校教育における生徒指導の位置づけについて概説する。
2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5回	生徒理解の方法について説明する。
6回	生徒指導と進路指導について説明する。
7回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10回	事例研究 いじめ等について説明する。
11回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12回	生徒指導と法律について説明する。
13回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。全体の授業のまとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。

	と(標準学習時間120分)。
1 1 回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
1 2 回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 3 回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 4 回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 5 回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導體制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 6 回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識の違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M, Nにもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解し説明することができる。(M) 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につけることができる。(M) 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について説明することができる。(M) キャリアガイダンスについて理解し説明することができる。(N) これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につけ、それらを表現することができる。(M, N)
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(レポート等)提出とその内容(50%:達成目標 ~ を評価)、最終評価試験(50%:達成目標 ~ を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・毎回の授業が試験だという心構えで出席してください。本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。 ・居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。 ・出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 ・視聴覚教材を利用して授業展開をします。欠席をされると、配付資料等だけの補習では不十分となります。やむを得ない場合を除いて、必ず出席するように心がけてください。
アクティブ・ラーニング	・小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れます。 ・基本的に、視聴覚教材の視聴後、SGE(構成的グループエンカウンター)やグループワーク等を実施する予定です。積極的な授業参加を期待します。また、グループごとに意見発表をしてもらいます。
課題に対するフィードバック	・課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させます。 ・視聴覚教材やSGEの後、報告書を提出してもらい、特徴的な意見や感想について、次回にプリントし全員に配付し、それをもとにグループワーク等でフィードバックし、深化をはかります。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示します。
合理的配慮が必要な学	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供してい

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元県立高等学校勤務：担任，学年主任，生徒指導主任の現場経験を活かして，机上の空論ではなく現実的な生徒指導の在り方（いじめ，不登校，暴力行為，体罰等）について講義する。
その他（注意・備考）	<p>本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義である。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。</p> <p>課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。なお、授業の進捗状況に応じて内容や進度等について変更することもある。</p>

科目名	生徒・進路指導論 (FC007420)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治* (かとうけんじ*), 松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。学校教育における生徒指導の位置づけについて概説する。 (全教員)
2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。 (全教員)
3回	生徒指導の意義と課題について説明する。 (全教員)
4回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。 (全教員)
5回	生徒理解の方法について説明する。 (全教員)
6回	生徒指導と進路指導について説明する。 (全教員)
7回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。 (全教員)
8回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。 (全教員)
9回	事例研究 暴力行為等について説明する。 (全教員)
10回	事例研究 いじめ等について説明する。 (全教員)
11回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。 (全教員)
12回	生徒指導と法律について説明する。 (全教員)
13回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。 (全教員)
14回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。 (全教員)
15回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。全体の授業のまとめをする。 (全教員)
16回	最終評価試験を実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。

2回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対応(教師、学校等)について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
11回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導体制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
16回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識の違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M、Nにもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解し説明することができる。(M) 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につけることができる。(M)

	<p>実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について説明することができる。(M)</p> <p>キャリアガイダンスについて理解し説明することができる。(N)</p> <p>これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につけ、それらを表現することができる。(M, N)</p>
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題(レポート等)提出とその内容(50%:達成目標 ~ を評価)、最終評価試験(50%:達成目標 ~ を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が試験だという心構えで出席してください。本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。 ・居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。 ・出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 ・視聴覚教材を利用して授業展開をします。欠席をされると、配付資料等だけの補習では不十分となります。やむを得ない場合を除いて、必ず出席するように心がけてください。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れます。 ・基本的に、視聴覚教材の視聴後、SGE(構成的グループエンカウンター)やグループワーク等を実施する予定です。積極的な授業参加を期待します。また、グループごとに意見発表をしてもらいます。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させます。 ・視聴覚教材やSGEの後、報告書を提出してもらい、特徴的な意見や感想について、次回にプリントし全員に配付し、それをもとにグループワーク等でフィードバックし、深化をはかります。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示します。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元県立高等学校勤務：担任、学年主任、生徒指導主任の現場経験を活かして、机上の空論ではなく現実的な生徒指導の在り方(いじめ、不登校、暴力行為、体罰等)について講義する。
その他(注意・備考)	<p>本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義である。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。</p> <p>課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。なお、授業の進捗状況に応じて内容や進度等について変更することもある。</p>

科目名	生徒・進路指導論 (FC007430)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治* (かとうけんじ*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。学校教育における生徒指導の位置づけについて概説する。
2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5回	生徒理解の方法について説明する。
6回	生徒指導と進路指導について説明する。
7回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10回	事例研究 いじめ等について説明する。
11回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12回	生徒指導と法律について説明する。
13回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。全体の授業のまとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。

	と(標準学習時間120分)。
1 1 回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
1 2 回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 3 回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 4 回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 5 回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導體制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
1 6 回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識の違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M, Nにもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解し説明することができる。(M) 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につけることができる。(M) 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について説明することができる。(M) キャリアガイダンスについて理解し説明することができる。(N) これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につけ、それらを表現することができる。(M, N)
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題(レポート等)提出とその内容(50%:達成目標 ~ を評価)、最終評価試験(50%:達成目標 ~ を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
授業の運営方針	・毎回の授業が試験だという心構えで出席してください。本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。 ・居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。 ・出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 ・視聴覚教材を利用して授業展開をします。欠席をされると、配付資料等だけの補習では不十分となります。やむを得ない場合を除いて、必ず出席するように心がけてください。
アクティブ・ラーニング	・小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れます。 ・基本的に、視聴覚教材の視聴後、SGE(構成的グループエンカウンター)やグループワーク等を実施する予定です。積極的な授業参加を期待します。また、グループごとに意見発表をしてもらいます。
課題に対するフィードバック	・課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させます。 ・視聴覚教材やSGEの後、報告書を提出してもらい、特徴的な意見や感想について、次回にプリントし全員に配付し、それをもとにグループワーク等でフィードバックし、深化をはかります。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示します。
合理的配慮が必要な学	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供してい

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元県立高等学校勤務：担任，学年主任，生徒指導主任の現場経験を活かして，机上の空論ではなく現実的な生徒指導の在り方（いじめ，不登校，暴力行為，体罰等）について講義する。
その他（注意・備考）	<p>本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義である。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。</p> <p>課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。</p> <p>小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。なお、授業の進捗状況に応じて内容や進度等について変更することもある。</p>

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】(FC007440)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人* (いしだまさと*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導(主として就職指導)との関連について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例(主として進学指導)を挙げながら解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
13回	KJ法を用いて進路指導のために有効と思われるポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考え(職業に対する興味や関心)を整理し、ペア・グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察し、各自が今後自己実現をどのように図っていくか各々の未来を視覚的に展望する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題(生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど)を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決方を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】集団での活動（グループ実習、サークル活動、学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために、各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】図書館やインターネットにより、学校教育法（第11条）、学校教育法施行規則（第26条）を検索し、読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を、できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】前時の内容に基づいて、中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し、より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について、各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき、進路を選択・決定する上で大切にしたこと、進路選択・決定の上での課題や反省点、大学（岡山理科大学）を志望した理由、その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを、より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを、より具体化して整理し、その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて、各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により、「キャリア教育」について調べ、その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して、各自の指導観を論じることができるようしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展、家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって、子どもたちの実態については、豊かな人間性や社会性の不足、自立の遅れ、自己肯定観の不足、進路についての自覚の不足など、多くの課題が指摘されている。そのため、生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は、こうした現状を踏まえながら、中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し、その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M、Nにもっとも強く関与)
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解し説明することができる(M)。 生徒指導上の課題について理解を深め、「いじめ」「不登校」の対応のポイントを説明することができる(M)。 生徒理解、人間関係づくり、集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付け、説明することができる(M)。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解し説明することができる(N)。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付け、それら表現することができる(M、N)。
キーワード	生徒指導、進路指導、生徒理解、人間関係づくり、自己実現、キャリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題40%（達成目標～を評価）、最終評価試験60%（達成目標～を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 最終評価試験の形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
教科書	使用しない。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	適宜、資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室 石田正人;電子メールアドレス;(sp6m5ba9@cyber.ocn.jp)
授業の運営方針	本授業を通して、“生徒と共に学ぶことは楽しい”という気持ちを実感できるように、また“将来

	、教職に就きたい”という気持ちが一層高まるような授業を展開したい。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク又はグループワークを取り入れる。そこでは、一つの課題に対して、ペア又はグループでディスカッションしたり、それらを全体で発表する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に取り組んだ課題は、毎授業後に提出する。次時の授業で返却する際、特長なこと、留意することなどを全体に解説して、理解を深めるとともに、発表や討論等を通して深化させる。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	公立高校・県教委等で38年間、教員・指導主事・管理職として生徒指導・進路指導に携わった。特に、高校での経験をもとに、本授業の中で講義する理論的な内容を、実践的な事例を挙げながら説明する。
その他（注意・備考）	

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】(FC007450)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人* (いしだまさと*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導(主として就職指導)との関連について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例(主として進学指導)を挙げながら解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
13回	KJ法を用いて進路指導のために有効と思われるポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考え(職業に対する興味や関心)を整理し、ペア・グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察し、各自が今後自己実現をどのように図っていくか各々の未来を視覚的に展望する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題(生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど)を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決方を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】集団での活動（グループ実習、サークル活動、学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために、各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】図書館やインターネットにより、学校教育法（第11条）、学校教育法施行規則（第26条）を検索し、読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を、できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】前時の内容に基づいて、中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し、より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について、各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき、進路を選択・決定する上で大切にしたこと、進路選択・決定の上での課題や反省点、大学（岡山理科大学）を志望した理由、その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを、より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを、より具体化して整理し、その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて、各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により、「キャリア教育」について調べ、その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して、各自の指導観を論じることができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展、家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって、子どもたちの実態については、豊かな人間性や社会性の不足、自立の遅れ、自己肯定観の不足、進路についての自覚の不足など、多くの課題が指摘されている。そのため、生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は、こうした現状を踏まえながら、中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し、その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M、Nにもっとも強く関与)
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解し説明することができる(M)。 生徒指導上の課題について理解を深め、「いじめ」「不登校」の対応のポイントを説明することができる(M)。 生徒理解、人間関係づくり、集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付け、説明することができる(M)。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解し説明することができる(N)。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付け、それら表現することができる(M、N)。
キーワード	生徒指導、進路指導、生徒理解、人間関係づくり、自己実現、キャリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題40%（達成目標～を評価）、最終評価試験60%（達成目標～を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 最終評価試験の形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
教科書	使用しない。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	適宜、資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室 石田正人;電子メールアドレス;(sp6m5ba9@cyber.ocn.jp)
授業の運営方針	本授業を通して、“生徒と共に学ぶことは楽しい”という気持ちを実感できるように、また“将来

	、教職に就きたい”という気持ちが一層高まるような授業を展開したい。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク又はグループワークを取り入れる。そこでは、一つの課題に対して、ペア又はグループでディスカッションしたり、それらを全体で発表する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間内に取り組んだ課題は、毎授業後に提出する。次時の授業で返却する際、特長的なこと、留意することなどを全体に解説して、理解を深めるとともに、発表や討論等を通して深化させる。 ・ 最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	公立高校・県教委等で38年間、教員・指導主事・管理職として生徒指導・進路指導に携わった。特に、高校での経験をもとに、本授業の中で講義する理論的な内容を、実践的な事例を挙げながら説明する。
その他（注意・備考）	

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】(FC007460)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人* (いしだまさと*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導(主として就職指導)との関連について考察するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例(主として進学指導)を挙げながら解説するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
13回	KJ法を用いて進路指導のために有効と思われるポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成するとともに、ペア又はグループ討論を通して、各自の考えを深める。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考え(職業に対する興味や関心)を整理し、ペア・グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察し、各自が今後自己実現をどのように図っていくか各々の未来を視覚的に展望する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題(生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど)を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決方を考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。

6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】集団での活動（グループ実習、サークル活動、学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために、各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】図書館やインターネットにより、学校教育法（第11条）、学校教育法施行規則（第26条）を検索し、読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を、できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】前時の内容に基づいて、中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し、より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について、各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき、進路を選択・決定する上で大切にしたこと、進路選択・決定の上での課題や反省点、大学（岡山理科大学）を志望した理由、その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを、より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを、より具体化して整理し、その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて、各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により、「キャリア教育」について調べ、その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して、各自の指導観を論じることができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展、家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって、子どもたちの実態については、豊かな人間性や社会性の不足、自立の遅れ、自己肯定観の不足、進路についての自覚の不足など、多くの課題が指摘されている。そのため、生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は、こうした現状を踏まえながら、中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し、その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針M、Nにもっとも強く関与)
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解し説明することができる(M)。 生徒指導上の課題について理解を深め、「いじめ」「不登校」の対応のポイントを説明することができる(M)。 生徒理解、人間関係づくり、集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付け、説明することができる(M)。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解し説明することができる(N)。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付け、それら表現することができる(M、N)。
キーワード	生徒指導、進路指導、生徒理解、人間関係づくり、自己実現、キャリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題40%（達成目標～を評価）、最終評価試験60%（達成目標～を評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 最終評価試験の形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
教科書	使用しない。
関連科目	特別活動の理論と方法
参考書	適宜、資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室 石田正人;電子メールアドレス;(sp6m5ba9@cyber.ocn.jp)
授業の運営方針	本授業を通して、“生徒と共に学ぶことは楽しい”という気持ちを実感できるように、また“将来

	、教職に就きたい”という気持ちが一層高まるような授業を展開したい。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク又はグループワークを取り入れる。ここでは、一つの課題に対して、ペア又はグループでディスカッションしたり、それらを全体で発表する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に取り組んだ課題は、毎授業後に提出する。次時の授業で返却する際、特長なこと、留意することなどを全体に解説して、理解を深めるとともに、発表や討論等を通して深化させる。 ・最終評価試験については、終了後に正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	公立高校・県教委等で38年間、教員・指導主事・管理職として生徒指導・進路指導に携わった。特に、高校での経験をもとに、本授業の中で講義する理論的な内容を、実践的な事例を挙げながら説明する。
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007500）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*）
2回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
3回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
4回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
5回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
6回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
7回	教師としての1日の動きを通して，「やる気のある教師」について考え，教職に就く決意を明確にする。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （小田 満思*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
10回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
11回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
12回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
13回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
14回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に）

	(津田 秀哲*)
15回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(津田 秀哲*, 中島 弘徳)

回数	準備学習
1回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・ A 2号館 8階（津田）または D 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・ オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・ 教育実習を修得していることが履修要件である。 ・ 秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・ 教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・ 学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・ 演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・ 模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・ 課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・ 提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007510）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、小田満思*（おだみつし*）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
2回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
3回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
4回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
5回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
6回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*）
7回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い，相互評価を行う。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （津田 秀哲*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*，中島 弘徳）
10回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
11回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
12回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
13回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
14回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。

	(小田 満思*)
15回	教師としての1日の動きを通して、「やる気のある教師」について考え、教職に就く決意を明確にする。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(小田 満思*)

回数	準備学習
1回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営，教科指導，生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・A 2号館 8階（津田）またはD 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・教育実習を修得していることが履修要件である。 ・秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・模擬授業，ロールプレイング，事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007520）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*）
2回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
3回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
4回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
5回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
6回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
7回	教師としての1日の動きを通して，「やる気のある教師」について考え，教職に就く決意を明確にする。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （小田 満思*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
10回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
11回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
12回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
13回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
14回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に）

	(津田 秀哲*)
15回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(津田 秀哲*, 皿田 琢司)

回数	準備学習
1回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・A2号館8階（津田）またはD2号館4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・教育実習を修得していることが履修要件である。 ・秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007530）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*）
2回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
3回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
4回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
5回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
6回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
7回	教師としての1日の動きを通して，「やる気のある教師」について考え，教職に就く決意を明確にする。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （小田 満思*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
10回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
11回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
12回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
13回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
14回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に）

	(津田 秀哲*)
15回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 (津田 秀哲*, 藤本 義博)

回数	準備学習
1回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・ A 2号館 8階（津田）または D 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・ オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・ 教育実習を修得していることが履修要件である。 ・ 秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・ 教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・ 学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・ 演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・ 模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・ 課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・ 提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007540）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、小田満思*（おだみつし*）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
2回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
3回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
4回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
5回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
6回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*）
7回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い，相互評価を行う。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （津田 秀哲*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*，岡本 弥彦）
10回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
11回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
12回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
13回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
14回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。

	(小田 満思*)
15回	教師としての1日の動きを通して、「やる気のある教師」について考え、教職に就く決意を明確にする。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(小田 満思*)

回数	準備学習
1回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・ A 2号館 8階（津田）または D 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・ オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・ 教育実習を修得していることが履修要件である。 ・ 秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・ 教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・ 学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・ 演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・ 模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・ 課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・ 提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007550）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、小田満思*（おだみつし*）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
2回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
3回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
4回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
5回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
6回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*）
7回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い，相互評価を行う。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （津田 秀哲*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*，皿田 琢司）
10回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
11回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
12回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
13回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
14回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。

	(小田 満思*)
15回	教師としての1日の動きを通して、「やる気のある教師」について考え、教職に就く決意を明確にする。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(小田 満思*)

回数	準備学習
1回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・A2号館8階（津田）またはD2号館4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・教育実習を修得していることが履修要件である。 ・秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007560）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*）
2回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
3回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
4回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
5回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
6回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
7回	教師としての1日の動きを通して，「やる気のある教師」について考え，教職に就く決意を明確にする。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （小田 満思*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
10回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
11回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
12回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
13回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
14回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に）

	(津田 秀哲*)
15回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(津田 秀哲*, 曾我 雅比兒)

回数	準備学習
1回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・ A 2号館 8階（津田）または D 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・ オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・ 教育実習を修得していることが履修要件である。 ・ 秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・ 教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・ 学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・ 演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・ 模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・ 課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・ 提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007570）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、小田満思*（おだみつし*）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
2回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
3回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
4回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
5回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
6回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*）
7回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い，相互評価を行う。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （津田 秀哲*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*，曾我 雅比兒）
10回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
11回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
12回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
13回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
14回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。

	(小田 満思*)
15回	教師としての1日の動きを通して、「やる気のある教師」について考え、教職に就く決意を明確にする。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(小田 満思*)

回数	準備学習
1回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・A2号館8階（津田）またはD2号館4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・教育実習を修得していることが履修要件である。 ・秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007580）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*）
2回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
3回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
4回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
5回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
6回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
7回	教師としての1日の動きを通して，「やる気のある教師」について考え，教職に就く決意を明確にする。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （小田 満思*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
10回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
11回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
12回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
13回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
14回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に）

	(津田 秀哲*)
15回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(津田 秀哲*, 福田 博人)

回数	準備学習
1回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
6回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもとに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営，教科指導，生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・ A 2号館 8階（津田）または D 2号館 4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・ オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・ 教育実習を修得していることが履修要件である。 ・ 秋学期の教職オリエンテーションにおいて，各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・ 教職履修カルテを毎回持参し，授業内容に応じて活用すること。 ・ 学校ボランティア（5時間以上）は，3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち，第8回を全員一斉の休講として，残りの2回については，担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・ 演習を中心とした授業であり，必要に応じて小集団で活動する。 ・ 模擬授業，ロールプレイング，事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・ 課題については，次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・ 提出されたレポートや自己評価票については，添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職実践演習（中・高）（FC007590）
英文科目名	Practical Seminar for Teacher Education
担当教員名	津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、小田満思*（おだみつし*）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	学校にある個人情報の種類や取扱い，著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*）
2回	無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え，班毎でロールプレイングをする。 （津田 秀哲*）
3回	学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し，特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*）
4回	教員の不祥事の事例をもとに，コンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*）
5回	次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。また，実践事例を見ながらICTの効果的な活用について解説する。 （津田 秀哲*）
6回	デジタル教科書，電子黒板，書画カメラ等を操作し，その特性を知る。また，班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*）
7回	全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い，相互評価を行う。また，授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。 （津田 秀哲*）
8回	（学校ボランティアにより振り替える。） （全教員）
9回	教員の身分を知り，服務義務について理解する。 （小田 満思*，塗木 利明）
10回	準備した学級開きの指導案を確認し，グループ討議やロールプレイングを行うとともに，学年経営を通して「育てる」意味について考える。 （小田 満思*）
11回	学年経営案の作成1：学年経営の方針，めざす生徒像，学年指導目標，学年の組織について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
12回	学年経営案の作成2：学年経営の具体的方策について，講義やグループ討議を通して考え，学年経営案を作成する。 （小田 満思*）
13回	生徒指導のねらいを確認し，問題行動への対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。 （小田 満思*）
14回	いじめ問題の理解とその対応について，演習問題をもとにロールプレイングやグループ討議を通して考える。

	(小田 満思*)
15回	教師としての1日の動きを通して、「やる気のある教師」について考え、教職に就く決意を明確にする。また、授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。
	(小田 満思*)

回数	準備学習
1回	【予習】学校にある個人情報の種類や著作権について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応についてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	【予習】発達障害の児童生徒の障害特性について、図書やインターネットで調べてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	【予習】教員が不祥事を起こした際の影響について、多面的にまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えてまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	【予習】学習指導案をもとに、模擬授業の練習を行っておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	【予習】公務員の服務義務について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】公務員の服務義務を参考に、学校に勤務する上で留意することを具体的にワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	【予習】年度初めの学級開きを想定し、学級開きの指導案を作成しておくとともに、「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習を振り返り、学級開きの指導案を確認・修正し、次時に提出できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	【予習】出身中学校の校訓、学校教育目標、平成31年度重点目標を調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】授業で提案された学年指導目標と学年経営の方針に基づいて、教員の具体的な姿をワークシートにまとめておくとともに、授業で具体的な姿として考えためざす生徒像を「学習」「生活」「生徒活動」の3分野に分け、それぞれ短い文章でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】前時に学習した具体的方策の例をもとに、具体的目標や実践事項を具体的な言葉でワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間60分) 【復習】グループで決定した具体的方策を学級経営案に記入しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	【予習】生徒指導のねらいをワークシートにまとめておくとともに、問題行動への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。
14回	【予習】いじめの定義やいじめ防止対策推進法について調べ、ワークシートにまとめておくとともに、いじめ問題への対応の例題を参考にして演習問題をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分) 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【予習】教師の1日をワークシートにまとめておくこと。また、これまでの授業で得たものや今後の課題についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

	【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	教職課程の総仕上げの科目であり、その成績評価は、教員としての資質・能力を証明するものとなる。そこで、教育実践につながる演習や集団活動を通して、教員として不足している知識・技能や能力・態度を補うとともに、優れた能力をより伸ばしていく。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与）
達成目標	自己診断や指導教員のアドバイスをもちに、各自の教職履修カルテを作成・修正することができる。（F） 模擬授業やロールプレイングを適確に行うことができる。（F） 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付け、それらを自分の言葉で表現することができる。（F） 学級経営、教科指導、生徒指導等を模擬的に実践することができる。（F）
キーワード	教職実践，教職履修カルテ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎時間の課題での発表や記述（70%；達成目標～の評価），教職履修カルテの記入内容（30%；達成目標～の評価）により評価し，総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教育実習，教育実習
参考書	必要に応じて資料を配付する。
連絡先	・A2号館8階（津田）またはD2号館4階（岡本；086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp） ・オフィスアワーは，mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・教育実習を修得していることが履修要件である。 ・秋学期の教職オリエンテーションにおいて、各クラスの履修者数を30名以下になるよう人数調整する。 ・教職履修カルテを毎回持参し、授業内容に応じて活用すること。 ・学校ボランティア（5時間以上）は、3回分の授業（学校現場の調査）に相当する。15回の授業のうち、第8回を全員一斉の休講として、残りの2回については、担当教員が指示する。
アクティブ・ラーニング	・演習を中心とした授業であり、必要に応じて小集団で活動する。 ・模擬授業、ロールプレイング、事例研究等を適宜取り入れる。
課題に対するフィードバック	・課題については、次時の授業での発表や討議を通して深化させる。 ・提出されたレポートや自己評価票については、添削した後に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	道徳教育の理論と方法【火1金1】(FC007600)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子*(いちばよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の教材について>
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科のねらいについて>
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導過程について>
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導方法について>
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科のねらいについてまとめ

	ておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。【復習】最終評価試験に備えて、再確認等をしていくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Jにもっとも強く関与)
達成目標	【道徳の理論】1) 道徳とは何かを説明できる(J)。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における課題(いじめ、情報モラル等)を理解し説明できる(J)。 3) 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解し説明できる(J)。 4) 学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解し説明できる(J)。 【道徳の指導法】5) 授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる(J)。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、授業を設計することができる(J)。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート、学習指導案等の課題提出40%(達成目標1~6を評価)、グループ学習での発表、意欲、態度10%(達成目標1~6を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~4を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編/文部科学省/教育出版/9784316300849:新しい道徳3/渡邊満・押谷由夫/東京書籍/978-4-487-12303-2
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・「心のノート」/文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」/文部科学省
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、人としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業である。真摯に学ぶこと。中学校では2019(平成31)年度から道徳が教科となり、考え、議論する授業が求められている。グループ学習により授業を行うので、毎回必ず出席し、誠実に学ぶこと。 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施など、4人程度によるグループワークを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題・演習課題については、次時の授業で返却し、発表や討論を通してフィードバックを行う。第8回に実施する中間試験については、第9回の授業で正答例を示し、解説する。最終評価試験については、終了後に正答例と要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市立中学校勤務:中学校における教員・校長経験者が、その経験を活かして、道徳教育の本質や実際について講義する。また、今日的な教育課題(いじめ問題、不登校等)への対応についても講義する。
その他(注意・備考)	特になし。

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC007610)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子*(いちばよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の教材について>
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科のねらいについて>
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導過程について>
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導方法について>
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科のねらいについてまとめ

	ておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。【復習】最終評価試験に備えて、再確認等をしていくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Jにもっとも強く関与)
達成目標	【道徳の理論】1) 道徳とは何かを説明できる(J)。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における課題(いじめ、情報モラル等)を理解し説明できる(J)。 3) 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解し説明できる(J)。 4) 学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解し説明できる(J)。 【道徳の指導法】5) 授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる(J)。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、授業を設計することができる(J)。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート、学習指導案等の課題提出40%(達成目標1~6を評価)、グループ学習での発表、意欲、態度10%(達成目標1~6を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~4を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編/文部科学省/教育出版/9784316300849:新しい道徳3/渡邊満・押谷由夫/東京書籍/978-4-487-12303-2
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・「心のノート」/文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」/文部科学省
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、人としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業である。真摯に学ぶこと。中学校では2019(平成31)年度から道徳が教科となり、考え、議論する授業が求められている。グループ学習により授業を行うので、毎回必ず出席し、誠実に学ぶこと。 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施など、4人程度によるグループワークを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題・演習課題については、次時の授業で返却し、発表や討論を通してフィードバックを行う。第8回に実施する中間試験については、第9回の授業で正答例を示し、解説する。最終評価試験については、終了後に正答例と要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市立中学校勤務:中学校における教員・校長経験者が、その経験を活かして、道徳教育の本質や実際について講義する。また、今日的な教育課題(いじめ問題、不登校等)への対応についても講義する。
その他(注意・備考)	特になし。

科目名	道徳教育の理論と方法【火1金1】(FC007620)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子*(いちばよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の教材について>
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科のねらいについて>
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導過程について>
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導方法について>
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科のねらいについてまとめ

	ておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。【復習】最終評価試験に備えて、再確認等をしていくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Jにもっとも強く関与)
達成目標	【道徳の理論】1) 道徳とは何かを説明できる(J)。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における課題(いじめ、情報モラル等)を理解し説明できる(J)。 3) 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解し説明できる(J)。 4) 学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解し説明できる(J)。 【道徳の指導法】5) 授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる(J)。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、授業を設計することができる(J)。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート、学習指導案等の課題提出40%(達成目標1~6を評価)、グループ学習での発表、意欲、態度10%(達成目標1~6を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~4を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編/文部科学省/教育出版/9784316300849:新しい道徳3/渡邊満・押谷由夫/東京書籍/978-4-487-12303-2
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・「心のノート」/文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」/文部科学省
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、人としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業である。真摯に学ぶこと。中学校では2019(平成31)年度から道徳が教科となり、考え、議論する授業が求められている。グループ学習により授業を行うので、毎回必ず出席し、誠実に学ぶこと。 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施など、4人程度によるグループワークを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題・演習課題については、次時の授業で返却し、発表や討論を通してフィードバックを行う。第8回に実施する中間試験については、第9回の授業で正答例を示し、解説する。最終評価試験については、終了後に正答例と要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市立中学校勤務:中学校における教員・校長経験者が、その経験を活かして、道徳教育の本質や実際について講義する。また、今日的な教育課題(いじめ問題、不登校等)への対応についても講義する。
その他(注意・備考)	特になし。

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC007630)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子*(いちばよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の教材について>
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科のねらいについて>
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導過程について>
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導方法について>
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科のねらいについてまとめ

	ておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。【復習】最終評価試験に備えて、再確認等をしていくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Jにもっとも強く関与)
達成目標	【道徳の理論】1) 道徳とは何かを説明できる(J)。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における課題(いじめ、情報モラル等)を理解し説明できる(J)。 3) 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解し説明できる(J)。 4) 学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解し説明できる(J)。 【道徳の指導法】5) 授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる(J)。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、授業を設計することができる(J)。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート、学習指導案等の課題提出40%(達成目標1~6を評価)、グループ学習での発表、意欲、態度10%(達成目標1~6を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~4を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編/文部科学省/教育出版/9784316300849:新しい道徳3/渡邊満・押谷由夫/東京書籍/978-4-487-12303-2
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・「心のノート」/文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」/文部科学省
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、人としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業である。真摯に学ぶこと。中学校では2019(平成31)年度から道徳が教科となり、考え、議論する授業が求められている。グループ学習により授業を行うので、毎回必ず出席し、誠実に学ぶこと。 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施など、4人程度によるグループワークを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題・演習課題については、次時の授業で返却し、発表や討論を通してフィードバックを行う。第8回に実施する中間試験については、第9回の授業で正答例を示し、解説する。最終評価試験については、終了後に正答例と要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市立中学校勤務:中学校における教員・校長経験者が、その経験を活かして、道徳教育の本質や実際について講義する。また、今日的な教育課題(いじめ問題、不登校等)への対応についても講義する。
その他(注意・備考)	特になし。

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC007640)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子*(いちばよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の教材について>
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科のねらいについて>
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導過程について>
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行う。<教材の内容項目と道徳科の指導方法について>
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科のねらいについてまとめ

	ておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から14回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。【復習】最終評価試験に備えて、再確認等をしていくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Jにもっとも強く関与)
達成目標	【道徳の理論】1) 道徳とは何かを説明できる(J)。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における課題(いじめ、情報モラル等)を理解し説明できる(J)。 3) 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解し説明できる(J)。 4) 学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解し説明できる(J)。 【道徳の指導法】5) 授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる(J)。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、授業を設計することができる(J)。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート、学習指導案等の課題提出40%(達成目標1~6を評価)、グループ学習での発表、意欲、態度10%(達成目標1~6を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~4を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編/文部科学省/教育出版/9784316300849:新しい道徳3/渡邊満・押谷由夫/東京書籍/978-4-487-12303-2
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	・「心のノート」/文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」/文部科学省
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、人としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業である。真摯に学ぶこと。中学校では2019(平成31)年度から道徳が教科となり、考え、議論する授業が求められている。グループ学習により授業を行うので、毎回必ず出席し、誠実に学ぶこと。 履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施など、4人程度によるグループワークを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題・演習課題については、次時の授業で返却し、発表や討論を通してフィードバックを行う。第8回に実施する中間試験については、第9回の授業で正答例を示し、解説する。最終評価試験については、終了後に正答例と要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元倉敷市立中学校勤務:中学校における教員・校長経験者が、その経験を活かして、道徳教育の本質や実際について講義する。また、今日的な教育課題(いじめ問題、不登校等)への対応についても講義する。
その他(注意・備考)	特になし。

科目名	道徳教育の理論と方法【月3木3】(FC007650)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	野島淑子*(のじまよしこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、学校における道徳教育、「道徳の時間」の意義について確認し、31年度からの「道徳の時間」の教科化についての経緯にも触れたい。そして、学校教育活動における道徳教育実践の紹介、教員としての心構えや願い、講義内容の紹介を行う。また、今まで体得している自身の道徳性について再考する機会とする。講義における約束事や認定評価について説明する。
2回	人間の道徳性の発達を調査実証して理論的に確立したコールバーグの「道徳性認知発達理論」について学習する。コールバーグのジレンマ資料で実践を試み、自らの道徳性に向き合う。さらにグループセッションを通して他者の思考判断に触れることで、自らの価値体系を鑑みる機会とする。一般に他律から自律へと発達する人間の道徳性発達過程における環境(学校及び家庭や地域等)による影響力の大きさ、自らの体験に照らした価値把握について考え、学校における道徳教育の意義を理解する。
3回	現在、日本の文化や日本人の思考に共通する源を理解するためには、日本古来の人々の精神的拠り所は何であったかを知り、学問的思考を確立した近代の教育体系や社会状況と道徳教育の歴史を紐解くことによって理解することができる。近代道徳の歴史と課題「近代から太平洋戦争まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
4回	挙国一致の戦時体制の中で、多くの若者を死に追いやった反省を踏まえて戦後、基本的人権の尊重を柱に社会情勢はめまぐるしい変化をとげ、人々の生活や価値観は大きく代わり、今や世界の先進国日本として大きく飛躍発展した。戦後70年、学校教育、特に道徳教育がいかになされてきたか、そして「修身科」のトラウマを越えて設定された「道徳の時間」が「道徳科」として教科化されるに至った経緯を知ることによって、道徳教育について理解を深める。道徳教育の歴史と課題「戦後から現在まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
5回	学校における道徳教育の要となる「道徳の時間」が設置されてから約60年、紆余曲折を経てこの度、領域から教科として「道徳科」が新設された。現在の学校現場における道徳教育及び「道徳の時間」の現状と課題について理解し、道徳教育の歴史を振り返りながら、教師として子どもたちになすべきことは何か、自分はどうかありたいか、どうあるべきか考える。「中学校学習指導要領解説道徳編」を基に、改訂版も踏まえて、学校における道徳教育と「道徳の時間」の目標について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化できるようにする。
6回	日々の人間の行動の判断基準となる道徳的価値は何か、生育歴の中で培った価値観は人それぞれである。人間が社会集団の中で生きて行かなければならない存在であるならば、それらの価値は何らかの形で社会規律に影響を受ける。よりよく生きるための基盤となる道徳性の窓口となる「内容項目」について理解を深め、自己の構築してきた道徳的価値を再確認する。「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Aの視点、Bの視点」について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ担当の価値項目について自分の体験を踏まえ、自主作成した掲示を下に考えを発表する。
7回	「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Cの視点、Dの視点」について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ担当の価値項目について自分の体験を踏まえ、自主作成した掲示を下に考えを発表する。
8回	学校における道徳教育の組織体制や道徳学習計画等についてその実際を学ぶ。道徳教育は、学校教育活動全体を通して行われ、「道徳の時間」はその要となる。そのため「道徳の時間」との関連を表した「全体指導計画」及び「道徳の時間」の「道徳年間指導計画」は実践の基になる。そして、「道徳の時間」を運営指導するための拠り所となる「道徳学習指導案」について解説する。他教科とは異なる指導形態となる道徳の時間は、毎時間の学習指導案は不可欠であり、指導者の価値観や生徒理解、また指導工夫や準備が大切になってくる。毎日の多忙な業務の中で、道徳の時間のための準備時間は負担になる現状もある。道徳教育の課題について知り、「道徳の時間」の教科化に向けていかにあるべきか主体的に考える。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
9回	学校におけるすべての教育活動との関連において、道徳教育の目標、「道徳の時間」の目標及び授業の観点について解説する。道徳の時間は、「ねらい」とする道徳的価値を如何に自覚させるかにある。そのため資料の選択の工夫、さらに授業を展開するための「道徳学習指導案」作成の仕方を解説する。指導者の発問と生徒の反応が主体となる授業展開は他教科の形式とはやや異なる。価値について生徒にしっかり考えさせなければならない。資料の具体例を基にして、「学習指導案の作

	り方とその工夫（「ねらい」を達成するための工夫と観点）について学習する。
10回	「道徳学習指導案の作り方の工夫（資料分析と学習指導案）」について学習する。道徳的価値の把握には心に響く資料が不可欠であるが、資料はあくまで手段であり、資料の解釈に終わってはならない。資料の最も適したねらいとする価値を定め、どのような構成で展開していくか事前に考えておかなければならない。そのためにまず資料分析を行う必要がある。題材資料でグループ討議をしながら資料分析を行い、資料中の登場人物の心情や行動について理解を深め学習指導案作成の演習をする。ねらいとする価値、展開における発問構成をグループワークにより意見を出し合いまとめる。授業展開を想定して発問構成についての意図をグループ毎に発表する。互いに道徳学習指導案の作成技能を高める。
11回	前時の添削した「資料分析」及び「学習指導案」を基に自身で検討する。学習指導案は指導者の価値観や願いが表れたものでないと「ねらい」に迫ることは出来ない。実際に授業が出来る学習指導案を作成するには、主人公が価値を把握した過程を生徒に自分と重ねて追体験させることが望ましい。次の提示資料でグループワークによる演習を行い道徳学習指導案作成のノウハウを習得する。どのような発問が生徒の反応を引き出せるか、グループワークにより意見交換を図りながら、生徒に取って考えやすい発問を自問自答しながら深めていく。作成した学習指導案は提出する。
12回	それぞれが選択した資料を持ち寄りグループ内で検討する。他者が心を動かされた資料を知ることにも参考になる。グループ内で協議して選択した一つの資料を基に、資料分析及び学習指導案を作成する。展開における発問構成、発問の内容など基本的な部分をグループワークで意見交換をしながら集約していく。その過程で自己の考えや展開方法を深めていく。予想される生徒の反応や指導上の留意点等は、各自の考えや価値感を鑑みながらそれぞれ独自の学習指導案を完成させる。
13回	道徳学習指導案があれば「ねらい」を達成する授業展開が出来るわけではない。自分で作成することに意義があり、その上で「道徳授業の工夫と観点」を学習する。道徳の授業は、生徒が教師の構成した発問に感じたり考えたりしたことを発表することで成り立つ。資料中の人物が価値を把握する過程、行動、心情を自分と重ねて考えられるように、補助発問や切り返しの発問など臨機応変の対応が求められる。教師の願いと共に生徒受容の姿勢も大切なことである。また、資料内容の理解を深めるための「ねらい」を考えやすくする視覚的な場面絵や板書の工夫、さらに授業体型は大切な要素となる。グループで討議し考える。
14回	グループ代表1名をによる模擬授業を行う。代表者自身の作成した道徳学習指導案をもとに模擬授業を体験する。授業者にとっては頭で考えた授業展開と実際の授業との違いや気づきを体験することの意義は大きい。一方仲間による模擬授業を通して、生徒の立場と教師の視点で授業に参加することは大変有意義なことである。授業後授、授業者の感想や互いの授業評価を発表し合い、それぞれ参考にしたいことや課題を共有することで道徳授業への理解と意欲を高めることができる。
15回	まとめをする。道徳の時間は、学校の道徳教育の要としての位置づけがある。よって道徳の時間だけでなく事前・事後の指導、他の教育活動との関連も図る必要がある。また、よりよい人間関係を構築する学級経営を軸に家庭・地域との連携協力の工夫や手段も大きな要素である。次年度から「道徳科」として検定教科書を用いての授業が実施されることになり、新たに評価が必要になってくる。生徒に取って励みになる評価が問われている。道徳の時間は、生徒と教師が互いによりよい生き方を求めて同じ土俵で学び合う時間であることを再確認する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	{予習}「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」p1～P7までを読んでおくこと。そして、改訂の基本方針や要点を理解し、自身の感想や、考えをまとめておくこと。自身が学んできた「道徳の時間」を思い出し、学校における道徳教育とは何か、また、子どもの発達段階において、自分は何時どのようにして社会性（道徳性）を体得してきたのか振り返ってみること。そして、学齢期の子どもたちの道徳性育成と将来の社会的自立に向けて、教師としてどのような支援が必要であるか考えておくこと（標準学習時間180分）。
2回	{復習}コールバーグの提唱した「道徳性認知発達理論」の学びと理解を通して、人の成長段階における道徳性の発達・取得は年齢より環境によって大きく影響されることから、日々自らが行動の判断としている道徳的価値基準はどうか、現在自分がどのような価値体系（自分が大切にしている価値観：アンケートの結果を見て）を持っているかについて自己と対話しておくこと。（標準学習時間90分） {予習}日本の綿々と受け継がれてきた文化習慣や精神構造に目を向けておくこと。明治以後の歴史については浅い知識に留まっている傾向がある。さらに教育の観点から歴史を紐解くことも少ない。明治から世界大戦前の人々の生活や考え方について資料があれば触れておくこと（標準学習時間90分）。
3回	{復習}急速な富国強兵の国家建設のために、国民としての自覚と使命感の育成に道徳「修身科」が大きく関わり、子ども達を戦争へと駆り立て、多くの若者の命が失われた敗戦は今なお道徳教育に影を落としている。今後の道徳教育について、どうあればよいか自分なりの考えを構築すること。（標準学習時間120分） {予習}過酷な敗戦を乗り越え、戦後日本の高度成長期における社会情勢や人々の価値観の変異を国際的な視点から理解しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	{復習}子ども達を戦争に向かわせた戦前の「修身科」は、戦後も長く学校現場に影を落とし、道

	徳教育が定着しなかった状況について考え、自分が記憶にある教えやしつけ、または自分が受けてきた学校における道德教育、「道德の時間」を振り返り、教科化となる「道德の時間」について自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分) {予習}「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」P8～P17までを読み、道德科の目標についてまとめておくこと。(標準学習時間90分)
5回	{復習}教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」p.1～17を再度読み、生徒を指導する教師の視点で、道德教育、及び「道德の時間」についての理解を深め、課題についてさらに自分の見解をまとめておくこと。(標準学習時間30分) {予習}教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」P19～P43を読み内容項目についてまとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を基に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと(標準学習時間150分)。
7回	【復習】他者の考えや感想等の発表を聞くことを通して、自身の価値観について再確認すること。Cの視点からDの視点までの13項目の内容項目について、自身の中にある道德的価値を見つめ、「道德の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し指定された期限までに提出すること。(標準学習時間120分) {予習}教科書「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」p.70～82を読み、学校における指導計画についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)。
9回	{復習}一つの資料には、通常いくつかの価値が含まれている。その資料で最も有効に考えさせることができる価値は何かを見極めることも指導者にとっては授業の善し悪しを決めることにつながる。提示された資料を自身の判断で考えてみること。(標準学習時間60分) {予習}道德の時間の目的は、生徒が大切だと思う価値を自身の中に如何に取り込むことができるかにある。その価値を獲得した人物を通して、その価値の大切さに触れることである。道德学習指導案は、資料中の人物の人間関係、及び環境を十分理解しておく必要がある。資料分析の例を見ながら考えておくこと。(標準学習時間 60分)
10回	{復習}グループ討議によってまとめた発問構成、及び他のグループの発表を参考に、自身で考えた資料分析により、学習指導案を完成させ提出すること。(標準学習時間180分)
11回	{復習}グループで討議により理解は深まるが、発問構成は同じでも全く同じ学習指導案にはならない。自身が授業展開するための留意点を含め独自の学習指導案を完成させ次時に提出すること。(標準学習時間150分) {予習}道德授業は、価値を把握させるための手段となるが、どのような資料が適しているかの選択ができることも大切である。自身が生徒の把握させたい価値、そのための最も適する資料を各自選択してくる。各自が選んだ資料を持ち寄ること。次時にグループでさらに一つの資料に絞り道德学習指導案を作成することとする。見本の学習指導案や添削返却された学習指導案を参考にして、自学しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	{復習}グループで討議検討した指導過程を参考に独自の考えで学習指導案を完成させ次時に提出すること。(標準学習時間 120分) {予習}他者の選択した資料についても展開を考えてみる。様々な資料や学習指導案に触れておくことは大切なことである。完成させた学習指導案が実際に授業展開できるか、シュミレーションする。生徒に取って難しい言葉や反応しにくい発問構成になっていないか、深く考えさせることができる発問かどうか検討しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	{復習}展開過程だけでなく、導入、終末、場面絵や板書計画など実際に授業展開する上で大切なことについて復習しておくこと。場面絵も含めて独自の板書計画を完成させ次時に提出すること。(標準学習時間120分) {予習}道德の授業において大切なことは、資料の読み取りに終わることなく、自己の問題としてとらえ、「ねらい」とした価値を今後どのようにこれからの自分に生かしていけるかである。教師の観点、留意点がしっかりしていないと授業はねらいとする方向には行かないことがある。シュミレーションをしながら模擬授業の細案を考えること。(標準学習時間60分)。
14回	{復習}模擬授業の授業者自身の感想や反省を聞くことは、大変参考になると同時に体験をすることで客観的な見方が出来る。模擬授業から得られた気づきや課題を元に自身の作成した学習指導案でどのような授業展開ができるかシュミレーションをしてみること。(標準学習時間90分) {予習}道德の時間が教科化されることにより、検定教科書や評価の問題が課題となっている。「中学校学習指導要領 特別の教科 道德編」P109～118を読み、評価についての理解をしておくこと。
15回	日本人の学問に対する興味関心についての歴史的背景から日本人の精神活動や思考過程について考え、一般庶民の子ども達の教育が確立した日本の教育制度についても学んできた。教育が、日本の社会的経済的な発展の歴史と大きく関わり、過酷な敗戦は学校における道德教育に現在も影響を与えている。道德の時間の「教科化」を迎えるに当たり、道德の時間の指導や方法のスキルを通して、授業が出来ることが本講義の目標であるが、「温故知新」を胸に、教師として子ども達のよりよい生き方を支援する立場で、信念を持って道德教育に携わってくれることを願います。最終評価試験に向けて、復習しておくこと。

講義目的	学校教育の中で、教師の役割と責任は大きい。学校教育法の改定では、人格の形成の重要性と共に学校教育活動において、「知・徳・体」を備えた生徒の育成が求められている。近年の急激な社会
------	--

	<p>情勢の変化の中で価値の多様化が進み、それは子どもたちにも影響し社会問題化している。深刻ないじめ問題と共に子どもたちの心の教育が問われている。特に、自我に目覚め、自らの生き方を模索している生育期における道德教育の意義は大きい。学校教育の現状と課題を概観し、学校における道德教育の基本的立場とその要となる「道德の時間」との関連について理解を深め、「道德の時間」の充実を図るための方法と工夫を学ぶ。よりよく生きていくために、日々の行動の判断基準となる道德性を育てるためにはどうすればよいか。「道德の時間」を展開するための「道德学習指導案」作り方の演習を通して、「ねらい」とする道德的価値について考え、自覚させる観点と方法を身につける。「道德の時間」の教科化実施に向けて、作成した道德学習指導案による模擬授業などの体験を通して実践への意欲を高める。また、誰しも願うよりよく生きるための道德性は、子どもたちに限らず教師にとっても生涯の課題である。「道德の時間」は、共に学び求めていくという姿勢で、教師を目指す自身の道德性についても問い直す機会とする。</p> <p>(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針)にもっとも強く関与)</p>
達成目標	<p>学校における道德教育の現状と課題、日本が歩んできた道德教育の歴史について理解し説明することができる(J)。</p> <p>全学校教育活動における道德教育の位置づけと目標、その要となる「道德の時間」の目標を達成するための方策を示した「全体計画」を理解した上で、「道德の時間」の指導の方法や工夫を理解し説明することができる(J)。</p> <p>手段として用いる資料は、あくまで価値を自覚させるためのツールであることを理解し、資料を読み取る力や感性を高め、また道德的価値の内容(内容項目)についても自己の道德性を鑑みて理解し、それらを表現することができる(J)。</p> <p>自らが心に響く資料を用いて授業展開するための「道德学習指導案」を作成することができる(J)。</p> <p>作成した学習指導案で実践した模擬授業を通してスキル養い、道德授業の実践意欲を高めることができる(J)。</p> <p>自身が担当した内容項目の価値、作成した学習指導案の構成、及び討議での学びを理解し、工夫して発表することができる(J)</p> <p>「道德の時間」を有効にするためには、学級経営が基本であること、学校組織や家庭・地域の協力が必要であることを踏まえて、人間関係構築の大切さを理解し説明することができる(J)。</p> <p>次代を担う子どもたちを育てる教師としての使命感と責任感をもち、それらを表現することができる(J)。</p>
キーワード	<p>「よりよく生きていくための基盤となる道德性」 ・ 「知・徳・体」を備えた生徒像</p> <p>・道德性 (価値22の内容項目) ・生きる力、子供の社会化</p>
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	<p>・毎時講義内容の感想意見レポート、内容項目まとめレポート、演習により作成した資料分析、道德学習指導案等の評価(40%;達成目標 ~ の評価) ・課題発表、グループ学習での発表及び意欲態度、模擬授業への取り組みの評価(10%;達成目標 ~ の評価) ・最終評価試験(100点)の(50%;達成目標 ~ の評価)により成績を評価し、以上の総計で得点率60%以上を合格とする。</p>
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校道德教育入門」 / 渡邊弘編 / 東洋館出版 ・「道德教育論」 / エミール・デュルケム(麻生誠・山村健訳) / 講談社学術文庫 ・「中学校道德教育の基本的課題」 / 金井 肇 / 明治図書出版 ・「心のノート」を生かす道德授業 / 金井 肇編 / 明治図書出版 ・「私たちの道德 中学生版」 / 文部科学省
連絡先	D 2号館4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・4回欠席までは認定試験の受験資格はあるが、原則公的欠席も含む。但し病気等やむを得ない場合は届け出ること。 ・各講義でのレポート、及び課題レポート、演習による学習指導案等は、提出日を厳守すること。 ・後半グループによる演習を行うが、欠席の場合連絡ができる体勢を保つこと。 ・30分以上の遅刻や早退は理由を届け出ること、無断の場合は欠席扱いとする。 ・講義資料は講義開始時に配付する。欠席者に対しては後日の配布をするので申し出ること。 ・履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。
アクティブ・ラーニング	<p>講義人数にも拠るが、4~5人のグループを編成し、固定席とする。講義終了10分~15分はグループ意見交換と個人レポートを提出する。また、講義内容によってグループ発表を行い全員の共有とする。道德性「内容項目」については、解説を読み、担当の項目について各自黒板提示と口頭発表をする。後半はグループ演習とする。グループワーク、ディスカッションによって、道德学習指導案等が自分で作成出来るようにする。</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題とした内容項目レポート、各講座で演習作成した道德学習指導案、資料分析、板書計画等については、それぞれ次時に添削・点検し各自に返却する。 ・最終評価試験のフィードバックとして、Mono-campusに模擬解答の提示と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	元 中学校教員。 理科担当が主であるが、道徳教育に長期に関わり、自校だけでなく他校の教員の研修や指導を行ってきた。それを元に、道徳教育の理論や「道徳の時間」の重要性だけでなく、実際に道徳授業ができるためのスキルや工夫、及び方法を十分体得できるよう授業を行いたい。学校現場に入ると自身の専門教科や生徒指導、その他の雑務の多さで、道徳の時間の指導が対処的になりやすい。教科化の実施に当たり、自信を持って生徒の育成に臨んで欲しい。
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法 (FC007700)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	松田智子* (まつだともこ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス - 特別活動について概要を説明する
2回	学校教育課程の構造と特別活動の役割について解説する
3回	教育実践の歴史性と特別活動の役割について解説する
4回	特別活動の目標と内容 1:学級活動の教育的意義について解説する
5回	特別活動の目標と内容 2:生徒会活動の教育的意義について解説する
6回	特別活動の目標と内容 3:学校行事の教育的意義について解説する
7回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義 1:人間関係の現状を中心に解説する
8回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義 2: 人間関係の現状を中心に解説する
9回	特別活動の歴史の変遷 1:学習指導要領の変遷について解説する
10回	特別活動の歴史の変遷 2 :H29学習指導要領を中心に解説する
11回	学級活動の理論の具体化について解説する
12回	生徒会活動の理論の具体化について解説する
13回	学校行事の理論と具体化について解説する
14回	学校行事と地域との関連の具体化について解説する
15回	特別活動が学校教育での果たす役割を实践面で まとめる

回数	準備学習
1回	以下の観点から被教育体験を想起しておくこと 中学校・高等学校段階の学校生活のうち最も心に残っている教科学習以外の体験を思い出すこと
2回	教科書の6頁から18頁までを読んでおくこと 学習指導要領特別活動編の総則のところを読んでおくこと
3回	教科書の19頁から22頁までを読んでおくこと 学習指導要領特別活動編の特別活動の教育的意義のところを読んでおくこと
4回	教科書24～28ページを事前に読んでおくこと 学習指導要領特別活動編の学級活動のところを読んでおくこと
5回	教科書29～32ページを事前に読んでおくこと。 学習指導要領特別活動編の生徒会活動のところを読んでおくこと
6回	教科書の32頁から42頁まで読んでくる 学習指導要領特別活動編の学校行事のところを読んでおく
7回	学級活動の話し合い活動の合意形成、意思決定、実践のながれについて、教育現場での実際の場 面を想起し、自分ならどのように指導するか考えること
8回	学校行事及び生徒会活動など異年齢で活動する場合の集団と個人の関係について、自分の意見を持つこと
9回	教育課程の変遷について授業者がまとめた配布資料を読んでおくこと
10回	資質・能力、3つの柱、アクティブラーニングをキーワードにして、現在の中高の特別活動の課題 をインタビュー等を通して調べてくること
11回	教科書の実践編の学級活動の指導案について 目を通し自分が分からないところを考えること
12回	教科書の実践編の生徒会活動の指導案に目を通し自分の考えをもっておくこと
13回	教科書の実践編の学校行事の指導案について 目を通し目標と関連付けて考えをもつこと
14回	地域との学校行事の連携の具体例を、経験の中から探してくること、5つに分類される学校行事そ れぞれについて一つは例を出せるようにすること
15回	教科書の実践編を全部読んでくること

講義目的	本講では、特別活動についての基礎的知識を習得し、学校教育の中でどのように展開するのか、ど のような意義を持ち、どのような課題があるのか、生徒にどのような力を備えさせるべきかを学習 する。特に、特別活動の内容の中で、その中核的な役割を果たしている「学級活動」を具体的に指 導できる学級担任としての実践的力量を習得する。
------	---

	(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	特別活動の意義と役割、目標を理解する。 特別活動の内容と特質を理解する。 学級担任としての学級づくり(学級経営)の視点から生徒の発達特性や社会文化の変化について理解する。 特別活動の具体的な活動を理解する。
キーワード	学級経営、望ましい人間関係、合意形成と意思決定、なすことにより学ぶ、集団と個人、公共性、自己実現
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	配点は、毎回の講義中に課す小レポート50%(達成目標を確認)、授業への準備20%(達成目標を確認)、授業中の発表(達成目標を確認)30%の割合で評価する
教科書	ERP出版/コードISBN978-4-907104-43-6/2018年/ 800円 特別活動の指導法—各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通して— 著者 松田智子、新川靖、林真太郎 学習指導要領、特別活動編 解説書(中学校と高等学校)文部科学省
関連科目	教育課程論、総合的な学習の指導法、道徳教育の理論と方法
参考書	特になし
連絡先	奈良学園大学 tomatsuda@naragakuen-u.jp
授業の運営方針	授業の初めと終わりには起立して、授業中の規律を大切にする。席は指定制とする。 授業運営をサポートするSAを決める。毎回教科書を持参しているかのチェックを行う。
アクティブ・ラーニング	特別活動の3領域および学校行事の5領域において、学校現場で今日課題となっている具体的な事例を毎回指導者側から提示して、グループでディスカッションをして、発表を行う。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対しての、全体的な傾向及び指導者の見解については、毎回の授業の初めにコメントをする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	兵庫県宝塚市立良元小学校・教諭9年、宝塚市立宝塚第一小学校・教諭1年、芦屋市立宮川小学校・教諭6年、芦屋市立三條小学校・教諭4年、芦屋市立潮見中学校・校長2年、学級担任や管理職を経験したので、具体的な学校現場の課題が実感できるので、それをディスカッションのテーマとしてアクティブラーニングを行う。
その他(注意・備考)	

科目名	特別活動の理論と方法【月4木4】(FC007710)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・資料は授業内で配付する。 ・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法【月5木5】(FC007720)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・資料は授業内で配付する。 ・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法【火3金3】(FC007730)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・ 資料は授業内で配付する。 ・ 最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・ 履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・ 第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・ 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・ 学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・ 模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・ 最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法【火4金4】(FC007740)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・ 資料は授業内で配付する。 ・ 最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・ 履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・ 第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・ 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・ 学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・ 模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・ 最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法【火3金3】(FC007750)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一*(しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・資料は授業内で配付する。 ・最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐 高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	特別活動の理論と方法【火4金4】(FC007760)
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標(その1)」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標(その2)」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実際」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の目標の特徴について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」と特別活動との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習し、ガイダンスの機能の意義及び学級・ホームルーム経営の方針

	・目標について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、生徒会活動の課題や解決に向けた具体的な方策について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、学校行事の意義・留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の授業設計について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「文化的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「健康安全・体育的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「旅行・集団宿泊的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「勤労生産・奉仕的行事」に係る授業計画を立案できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」との関連について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習し、特別活動の現状と課題、及び留意事項について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Lにもっとも強く関与)
達成目標	1 「特別活動」の目標を理解し説明することができる(L)。 2 学級・ホームルーム経営やガイダンスの機能の充実について理解し、適切に学級・ホームルーム経営ができる(L)。 3 生徒会活動及び学校行事についてその目標や意義を理解し、説明することができる(L)。 4 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」と「特別活動」との関係について理解し、説明できる(L)。
キーワード	・学級活動・ホームルーム活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・ガイダンス機能の充実 ・家庭・地域との連携の推進 ・総合的な学習の時間 ・キャリア教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、レポート(20%)、発表(模擬授業を含む)や討論の内容(20%)から成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房/9784827815627:高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/海文堂出版/ISBN978-4-303-12630-8
関連科目	生徒・進路指導論

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階 岡本研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校での授業を想定し、授業中の私語、飲食、帽子やマフラーの着用は禁止する。 ・ 資料は授業内で配付する。 ・ 最終評価試験では、終了後に解説を行うため、途中退室は認めない。 ・ 履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・ 第2,3,4回の授業では4~5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 ・ 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2,3,4回の授業で、KJ法を用いたグループ討議を行う。 ・ 学生による模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出されたレポートは添削した後に返却する。 ・ 模擬授業終了後、その場で出席者によるディスカッションを行うとともに、教師によるフィードバックを行う。 ・ 最終評価試験を60分で実施し、30分でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中のプレゼンテーション資料の撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する
実務経験のある教員	<p>元岡山県立工業高等学校教諭・教頭・校長 元岡山県教育庁指導課指導主事・課長補佐</p> <p>高等学校において教諭と管理職を経験し、教育行政分野でも勤務経験を有する者が、その経験を活かして中学・高等学校における特別活動の指導の実際について講義する。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法 (FC007800)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳 (なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を試してみることを(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。

講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の、）と最終評価試験80%（達成目標の、）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておく と便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもら う場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法 (FC007810)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳 (なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を試してみることを(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。

講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の、）と最終評価試験80%（達成目標の、）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておくとう便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもらう場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法【月2木2】(FC007820)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を試してみることを(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の、）と最終評価試験80%（達成目標の、）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておく と便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもら う場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法【月3木3】(FC007830)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。教育相談の歴史、教育相談とは何かについて説明する。
2回	教育相談の学校現場での機能や意義について説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の内容について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の成立条件について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談が学校でどのように機能しているかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について教科書を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について、講義で学んだことを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について教科書で予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションとなどのようなコミュニケーションかを調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションが具体的にどのようなコミュニケーションかを復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法とは何かを調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法をどのように使うかについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を試してみることを(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】面接を組み立てられるようにしておくこと(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】高機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について調べておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】機能自閉性障がい、アスペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて特徴について

	て復習しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	【予習】1回から15回で学んだことについて、教科書、ノート、資料を元に復習しておくこと（標準学習時間160分）。 【復習】評価試験について教科書、ノート、資料を元に振り返っておくこと（標準学習時間20分）。

講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学び、カウンセリングマインドを持った生徒との関わりとはどのようなものが理解できるようになることを目指す（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）。
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 適切な相談・助言について理解でき、簡単な技法が使える（Ⅰ）。 カウンセリングマインドについて理解でき、具体的に説明できる（Ⅰ）。
キーワード	教育、相談、発達障がい、カウンセリング、カウンセリングマインド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義内で行う相談の理論を元にした相談の組み立てについての課題40%（達成目標の、）と最終評価試験80%（達成目標の、）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 /
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室 メール：nakajima@das.ous.ac.jp 電話：086-256-9419
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、原則、スクリーンに映した内容を口頭、板書によって解説していく形式で進行します。 ・スクリーンに映す資料は、ポータルサイト内の講義フォルダーにあるのでダウンロードしておくとう便利でしょう。 ・授業は、教職教養として理解しておくべき理論、技法、態度について説明していきます。 ・将来教職を目指す学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。
アクティブ・ラーニング	・教育現場で起こる事象について、学んだ理論を元にグループによるディスカッションで答えてもらう場合がありますので積極的にディスカッションに取り組んでください。
課題に対するフィードバック	講義内に出した課題は、原則次の講義内で解説する。最終評価試験については、採点終了後、正解をポータルサイトにアップする。結果については、希望者に知らせる。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育実習事前・事後指導(理数技社) (FC007900)
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき), 安藤豊*(あんどうゆたか*), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 石井一郎*(いしいいちろう*), 荒尾真一*(あらおしんいち*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 洲脇史朗*(すわきしろう*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明する。 (塗木 利明, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
2回	教育実習にあたって生徒指導に触れながら全体の概要を説明する。 (塗木 利明)
3回	教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 (塗木 利明)
4回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 (安藤 豊*)
5回	学習指導案の作成法を説明する。 (全教員)
6回	学習指導案の事例を解説し検討する。 (全教員)
7回	学習指導案を作成する。 (全教員)
8回	学習指導案の板書計画を作成する。 (全教員)
9回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(1回目) (全教員)
10回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(2回目) (全教員)
11回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(3回目) (全教員)

1 2 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(4 回目) (全教員)
1 3 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(5 回目) (全教員)
1 4 回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
1 5 回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)

回数	準備学習
1 回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて教職・学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「生徒・進路指導論」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。自分の教科の「教科教育法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 0 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 1 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 2 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 3 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 4 回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。
1 5 回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること(標準学習時間180分)。

講義目的	本講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Oにもっとも強く関与している)
達成目標	1. 事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができる。(O)

	2. 事後指導では現場実習の反省を活かすことができる。(0)
キーワード	プレ現場実習、教育実習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	事前指導では課題のレポートや学習指導案80%(達成目標1.を評価), 事後指導では授業観察等のレポート20%(達成目標2.を評価)により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。(各教科担当者の指示に従うこと)
関連科目	教育実習、教育実習
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担当者の運営方針に従うこと。 事前指導の終了時に, R(保留)かE(不認定)のいずれかの評価が付き, E判定は教育実習が認められない。
アクティブ・ラーニング	9~13回の授業では, 模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり, 添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育実習事前・事後指導(理数情) (FC007910)
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき), 安藤豊*(あんどうゆたか*), 草野泰秀*(くさのやすひで*), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 石井一郎*(いしいいちろう*), 荒尾真一*(あらおしんいち*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 洲脇史朗*(すわきしろう*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
2回	教育実習にあたって生徒指導に触れながら全体の概要を説明する。 (塗木 利明)
3回	教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 (塗木 利明)
4回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 (安藤 豊*)
5回	学習指導案の作成法を説明する。 (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
6回	学習指導案の事例を解説し検討する。 (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
7回	学習指導案を作成する。 (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
8回	学習指導案の板書計画を作成する。 (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
9回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(1回目) (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
10回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(2回目) (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
11回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(3回目) (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)

1 2 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(4 回目) (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
1 3 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(5 回目) (福田 博人, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 草野 泰秀*)
1 4 回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
1 5 回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)

回数	準備学習
1 回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて教職・学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「生徒・進路指導論」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。自分の教科の「教科教育法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 0 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 1 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 2 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 3 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 4 回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。
1 5 回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること(標準学習時間180分)。

講義目的	本講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Oにもっとも強く関与している)
達成目標	1. 事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができる。(O)

	2. 事後指導では現場実習の反省を活かすことができる。(0)
キーワード	プレ現場実習、教育実習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	事前指導では課題のレポートや学習指導案80%(達成目標1.を評価), 事後指導では授業観察等のレポート20%(達成目標2.を評価)により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。(各教科担当者の指示に従うこと)
関連科目	教育実習、教育実習
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担当者の運営方針に従うこと。 事前指導の終了時に, R(保留)かE(不認定)のいずれかの評価が付き, E判定は教育実習が認められない。
アクティブ・ラーニング	9~13回の授業では, 模擬授業を実施する。
課題に対するフィードバック	提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり, 添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育実習実践指導 (FC008000)
英文科目名	Empirical Guidance for Teaching Practice
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 石井一郎* (いしいいちろう*), 福田博人 (ふくだひろと), 藤本義博 (ふじもとよしひろ), 皿田琢司 (さらたたくじ), 洲脇史朗* (すわきしろう*), 塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	受講要領と講義概要を説明する。最近の教員採用状況と求められる教員像、教師の専門性について解説する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
2回	学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
3回	教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
4回	学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
5回	生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
6回	教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
7回	生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
8回	家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
9回	現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
10回	家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
11回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員)
12回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員)
13回	学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
14回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (生徒指導を中心に) を行う。 (全教員)
15回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (学習指導を中心に) を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学修を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと (標準学習時間150分)。

2回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
3回	教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
4回	教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。
5回	教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
6回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法 を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
7回	授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
8回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
9回	前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
10回	授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
11回	教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
12回	教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
13回	授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。
14回	前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間100分）。
15回	前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分、なお継続することが望ましい）。

講義目的	教育実習前と実習後の学生を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職関連科目の教育課程・実施の方針Oにもっとも強く関与）
達成目標	<p>不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる（O）。</p> <p>上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる（O）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針
キーワード	教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習における発表や記述の内容60%（達成目標、の評価）、課題の作成・提出の取り組み40%（達成目標、の評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。
関連科目	1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目）のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。

	<p>教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。</p> <p>各教科教育法 ・ 、教職のためのプレゼンテーション、教職のための文章表現法をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。</p> <p>本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p>
参考書	<p>学習指導要領（受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項（各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>その他適宜指示する。</p>
連絡先	<p>曽我研究室：B 8号館（旧14号館）4階（メール：soga@das.ous.ac.jp）</p> <p>中島研究室：B 8号館（旧14号館）3階（メール：nakajima@das.ous.ac.jp）</p> <p>皿田研究室：B 2号館（旧13号館）3階（メール：salad@chem.ous.ac.jp）</p> <p>教職支援センター：C 1号館（旧25号館）6階</p>
授業の運営方針	<p>・ 講義は、原則、提示された課題を個人で取り組み、その後、グループでディスカッションする形式で行います。</p> <p>・ 将来教職を目指し採用試験を受験する学生としての自覚を持って講義に望むことを希望します。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング（グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など）を採り入れる。</p>
課題に対するフィードバック	<p>論作課題は、原則次の講義で返却、解説する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	<p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。</p>

科目名	教育実習実践指導 (FC008010)
英文科目名	Empirical Guidance for Teaching Practice
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 石井一郎* (いしいいちろう*), 福田博人 (ふくだひろと), 藤本義博 (ふじもとよしひろ), 皿田琢司 (さらたたくじ), 洲脇史朗* (すわきしろう*), 塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	受講要領と講義概要を説明する。最近の教員採用状況と求められる教員像、教師の専門性について解説する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
2回	学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
3回	教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
4回	学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
5回	生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
6回	教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
7回	生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
8回	家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
9回	現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
10回	家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
11回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員)
12回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員)
13回	学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
14回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (生徒指導を中心に) を行う。 (全教員)
15回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (学習指導を中心に) を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学修を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと (標準学習時間150分)。

2回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
3回	教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
4回	教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。
5回	教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
6回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法 を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
7回	授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
8回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
9回	前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
10回	授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
11回	教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
12回	教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それら活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。
13回	授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。
14回	前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間100分）。
15回	前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分、なお継続することが望ましい）。

講義目的	教育実習を終えた者を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職関連科目の教育課程・実施の方針Oにもっとも強く関与）
達成目標	<p>不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる（O）。</p> <p>上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる（O）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針
キーワード	教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習における発表や記述の内容（50～60%）、課題の作成・提出の取り組み（40～50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。
関連科目	1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目）のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。

	<p>教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。</p> <p>各教科教育法 ・ 、文章表現法 、プレゼンテーション をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。</p> <p>本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p>
参考書	<p>学習指導要領（受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項（各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>その他適宜指示する。</p>
連絡先	<p>曾我研究室：B 8号館（旧14号館）4階</p> <p>中島研究室：B 8号館（旧14号館）3階</p> <p>皿田研究室：B 2号館（旧13号館）3階</p> <p>資格取得支援課：C 1号館（旧25号館）6階</p>
授業の運営方針	<p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者と想定し、教職に入職後すぐに実践力のある教師として力が発揮できるような実践的・応用的な課題を取り入れた授業にします。すなわち、講義は、原則として、提示された課題を個人で取り組み、その後、グループでディスカッションする形式で行います。したがって、受講生には自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング（グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など）を採り入れる。</p>
課題に対するフィードバック	<p>論作課題は次の講義時に返却し、解説します。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、板書の撮影）の使用を認めるので、事前に相談してください。 ・ 配布資料や撮影データなどはネットへのアップロードは禁止します。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談してください。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	<p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。</p>

科目名	教育実習実践指導 (FC008020)
英文科目名	Empirical Guidance for Teaching Practice
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 石井一郎* (いしいいちろう*), 福田博人 (ふくだひろと), 藤本義博 (ふじもとよしひろ), 皿田琢司 (さらたたくじ), 洲脇史朗* (すわきしろう*), 塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	受講要領と講義概要を説明する。最近の教員採用状況と求められる教員像、教師の専門性について解説する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
2回	学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
3回	教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
4回	学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
5回	生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司, 洲脇 史朗*, 石井 一郎*)
6回	教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
7回	生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
8回	家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
9回	現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司)
10回	家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
11回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員)
12回	学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員)
13回	学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員)
14回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (生徒指導を中心に) を行う。 (全教員)
15回	学習集団の特質を踏まえた場面指導 (学習指導を中心に) を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学修を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと (標準学習時間160分)。

2回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
3回	教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
4回	教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。
5回	教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
6回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法 を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
7回	授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
8回	教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
9回	前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
10回	授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。
11回	教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
12回	教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間180分）。
13回	授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。
14回	前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分）。
15回	前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間200分。なお継続することが望ましい）。

講義目的	教育実習前と実習後の学生を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職関連科目の教育課程・実施の方針Oにもっとも強く関与）
達成目標	不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる（O）。 上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる（O）。 <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針
キーワード	教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習における発表や記述の内容60%（達成目標、の評価）、課題の作成・提出の取り組み40%（達成目標、の評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。
関連科目	1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目）のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。

	<p>教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。</p> <p>各教科教育法 ・ 、教職のための文章表現法、教職のためのプレゼンテーションをすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。</p> <p>本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p>
参考書	<p>学習指導要領（受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項（各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい）。</p> <p>その他適宜指示する。</p>
連絡先	<p>曽我研究室：B 8号館（旧14号館）4階（メール：soga@das.ous.ac.jp）</p> <p>中島研究室：B 8号館（旧14号館）3階（メール：nakajima@das.ous.ac.jp）</p> <p>皿田研究室：B 2号館（旧13号館）3階（メール：salad@chem.ous.ac.jp）</p> <p>教職支援センター：C 1号館（旧25号館）6階</p>
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示された課題に各自で取り組み、その後、討論する形式で行う。 ・ 将来教職を目指し採用試験を受験する学生としての自覚を持って講義に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	<p>15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング（グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など）を採り入れる。</p>
課題に対するフィードバック	<p>論作課題は、原則次の講義で返却、解説します。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。</p> <p>障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。</p>
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	<p>C 1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p> <p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。</p>

科目名	介護等体験の基礎と方法 (FC008100)
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (中島 弘徳)
2回	「介護等体験の意義」について説明する。 (曾我 雅比児)
3回	「児童福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
4回	「障害者福祉施設(知的障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
5回	「障害者福祉施設(身体障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
6回	「障害者福祉施設(精神障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
7回	「高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
8回	「高齢者福祉施設(介護老人保健施設)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
9回	「特別支援学校(盲学校)」の概要と体験について講義する。(外部講師) (皿田 琢司)
10回	「特別支援学校(聾学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
11回	「特別支援学校(支援学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
12回	「介護等体験」の実施について説明する。(1)(外部講師) (皿田 琢司)
13回	「介護等体験」の実施について説明する。(2)(外部講師) (中島 弘徳)
14回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (中島 弘徳, 皿田 琢司)
15回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳)

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】介護等体験の施設について調べておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。

	【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】テキストの第3回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「児童福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】テキストの第4回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（知的障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5回	【予習】テキストの第5回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（身体障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】テキストの第6回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（精神障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
7回	【予習】テキストの第7回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8回	【予習】テキストの第8回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「高齢者福祉施設（介護老人保健施設）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
9回	【予習】テキストの第9回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（盲学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】テキストの第10回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（聾学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
11回	【予習】テキストの第11回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（支援学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
12回	【予習】テキストの第12回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】テキストの第13回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】特別支援学校での体験全般について復習しておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】第3回から第12回までの内容をまとめておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	介護等体験の意義を深く認識し、その内容を幅広く理解し、いかなる教育実践活動においても生徒たちの認識力や心情を慮り、効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Qにもっとも強く関与）
達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する（Q）。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる（Q）。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる（Q）。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義内容についてのレポート(75%、達成目標の と を評価)と15回目の総括レポート(25%、達成目標の と を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、15回目の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
教科書	介護等体験の基礎と方法/岡山理科大学教職課程編集/
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：曾我研究室、電話：086-256-9447、E-mail：soga@das.ous.ac.jp

	<p style="text-align: center;">：中島研究室、電話：086-256-9419、E-mail：nakajima@das.ous.ac.jp (オフィスアワーは、ポータルサイトを参照のこと)</p>
授業の運営方針	<p>学科ごとに履修クラスを指定する。 社会福祉施設と特別支援学校の介護活動の直接担当者を講師に迎え、臨場的かつ実践的な情報を提供していただく。 講師全員から提出していただいた授業構成ノートを編集して授業用テキストを作成し、受講者に配付する。受講者はそれに講師の話のメモをとり、講義終了前の決められた時間内でレポートを作成する。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題（予習内容）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。また毎回の講義について作成されたレポートは次の授業時に返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<p>この授業の単位を修得した者だけが3年生での介護等体験を履修することができる。</p>

科目名	介護等体験の基礎と方法 (FC008110)
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (中島 弘徳)
2回	「介護等体験の意義」について説明する。 (曾我 雅比児)
3回	「児童福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
4回	「障害者福祉施設(知的障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
5回	「障害者福祉施設(身体障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
6回	「障害者福祉施設(精神障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
7回	「高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
8回	「高齢者福祉施設(介護老人保健施設)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
9回	「特別支援学校(盲学校)」の概要と体験について講義する。(外部講師) (皿田 琢司)
10回	「特別支援学校(聾学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
11回	「特別支援学校(支援学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比児)
12回	「介護等体験」の実施について説明する。(1)(外部講師) (皿田 琢司)
13回	「介護等体験」の実施について説明する。(2)(外部講師) (中島 弘徳)
14回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (中島 弘徳, 皿田 琢司)
15回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳)

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】介護等体験の施設について調べておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。

	【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】テキストの第3回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「児童福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】テキストの第4回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（知的障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5回	【予習】テキストの第5回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（身体障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】テキストの第6回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「障害者福祉施設（精神障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
7回	【予習】テキストの第7回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8回	【予習】テキストの第8回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「高齢者福祉施設（介護老人保健施設）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
9回	【予習】テキストの第9回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（盲学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10回	【予習】テキストの第10回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（聾学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
11回	【予習】テキストの第11回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】「特別支援学校（支援学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
12回	【予習】テキストの第12回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】テキストの第13回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。
	【復習】特別支援学校での体験全般について復習しておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】第3回から第12回までの内容をまとめておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	介護等体験の意義を深く認識し、その内容を幅広く理解し、いかなる教育実践活動においても生徒たちの認識力や心情を慮り、効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 （教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Qにもっとも強く関与）
達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する（Q）。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる（Q）。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる（Q）。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義内容についてのレポート(75%、達成目標の と を評価)と15回目の総括レポート(25%、達成目標の と を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、15回目の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
教科書	介護等体験の基礎と方法/岡山理科大学教職課程編集/
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：曾我研究室、電話：086-256-9447、E-mail：soga@das.ous.ac.jp

	<p>: 中島研究室、電話：086-256-9419、E-mail：nakajima@das.ous.ac.jp (オフィスアワーは、ポータルサイトを参照のこと)</p>
授業の運営方針	<p>学科ごとに履修クラスを指定する。 社会福祉施設と特別支援学校の介護活動の直接担当者を講師に迎え、臨場的かつ実践的な情報を提供していただく。 講師全員から提出していただいた授業構成ノートを編集して授業用テキストを作成し、受講者に配付する。受講者はそれに講師の話のメモをとり、講義終了前の決められた時間内でレポートを作成する。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題（予習内容）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。また毎回の講義について作成されたレポートは次の授業時に返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<p>この授業の単位を修得した者だけが3年生での介護等体験を履修することができる。</p>

科目名	特別支援教育の基礎と方法 (FC008200)
英文科目名	Introduction to Special Needs Education
担当教員名	吉利宗久* (よしとしむねひさ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。特別支援教育の歴史と基本的仕組みを解説する。
2回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校の目的等を中心に解説する。
3回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校への就学手続き等を中心に解説する。
4回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を特別支援学級の視点から解説する。
5回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を通級による指導の視点から解説する。
6回	通常の学級における特別支援教育の主たる対象となる発達障害者教育の実態と基礎について解説する。
7回	多様な教育的ニーズ (LGBTや貧困問題など) に関する実態と基礎について解説する。
8回	まとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】本時の授業内容を確認しておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、特別支援教育の制度や目的を調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
2回	【復習】特別支援教育の歴史や新しい動向を簡潔に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、特別支援学校への就学手続きについて調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	【復習】特別支援学校の目的や種別を簡潔に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、特別支援学級の現状について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間180分)
4回	【復習】特別支援学級の概要を簡潔に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、通級による指導の現状について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間180分)
5回	【復習】通級による指導の概要を簡潔に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、視覚障害教育の現状について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
6回	【復習】発達障害教育の内容を簡潔に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分) 【予習】参考書などにより、人間の多様性教育 (LGBTなど) について調べ、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
7回	【復習】特別な教育的ニーズについて説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	【予習】試験に備えて、1回から7回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	特別支援教育に関する歴史的展開，制度的枠組みに関する基礎的な内容を教授するとともに，発達障害を中心に特別支援教育の現状と課題を概説する。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与)
達成目標	インクルーシブ教育システムの構築に向けた動向を理解し，説明することができる (F)。 発達障害をはじめとする特別な支援を要する幼児，児童，生徒の障害特性と実践的課題の基本を理解し，説明することができる (F)。
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	小レポート (50%; 達成目標 の評価)、最終評価試験 (50%; 達成目標 の評価) により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 / 吉利宗久他 / 培風館 2016年11月 ISBN: 9784563052492
関連科目	介護等体験の基礎と方法
参考書	適宜紹介する。
連絡先	yositosi@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	特別支援教育の初歩的な内容を扱う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッションや演習の時間も設定する。

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどを通じて得られた質問には、次回講義においてとりあげる。最終評価試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	教職特別課程の学生を対象にしている科目である。

科目名	総合的な学習の時間の指導法 (FC008300)
英文科目名	Teaching Method of Integrated Studies
担当教員名	藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	小・中・高等学校における総合的な学習の時間の実践事例の特色について読み解く。
2回	総合的な学習の時間の意義と役割、目指す資質・能力について読み解く。
3回	総合的な学習の時間の目標及び各学校で定める目標及び内容について読み解く。
4回	主体的・対話的で深い学びを実現する年間指導計画及び単元計画(探究的な学習)について読み解き、実践事例の単元計画を理解する。
5回	主体的・対話的で深い学びを実現する指導と評価(思考ツールの活用等)について理解する。
6回	主体的・対話的で深い学びを実現する指導と評価(ポートフォリオ等)について理解する。
7回	総合的な学習の時間における探究的な学習の過程の設計(グループ演習)を行う。 また、次回の授業で口頭発表するためのプレゼン資料等の準備を行う。
8回	総合的な学習の時間における探究的な学習の過程の設計をグループごとに口頭発表するとともに、相互評価する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付した小・中・高等学校における総合的な学習の時間の実践事例を振り返り、その特色をA4版1枚のリーフレットにまとめておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】テキストの理論編-「総合的な学習に時間の意義」、理論編-「総合的な学習に時間の趣旨と教育課程上の位置付けの変遷」を読み、意義や趣旨、変遷を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】テキストの理論編-「総合的な学習の時間の目標」、理論編-「総合的な学習の時間の内容と探究課題」、理論編-「総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント」を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】テキストの理論編-「年間指導計画、単元計画の書き方」、理論編-「学習指導案の書き方」を読み、それらの特徴を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】テキストの理論編-「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」、理論編-「考えるための技法(思考スキル)の活用」、理論編-「考えるための技法(思考スキル)を発揮させる思考ツールを活用した授業設計」を読み、それらの特徴を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】テキストの理論編-「学習指導のポイント」、理論編-「総合的な学習の時間におけるICT活用」、理論編-「評価のポイント」を読み、それらの特徴を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】テキストの理論編-「ワークシート等のコメントの書き方」、理論編-「総合的な学習の時間の充実に向けた校内研修」を読み、それらの特徴を整理しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間の関連する箇所をマークして、講義で扱った内容がどのように反映されているかを説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】総合的な学習の時間における探究的な学習の過程の設計と、第テキストの理論編-「ワークシート等のコメントの書き方」、理論編-「総合的な学習の時間の充実に向けた校内研

	修」とを関連付けて口頭発表できるように準備すること（標準学習時間120分）。 【復習】第1回～8回の総合的な学習の時間の授業の内容を指導者の立場で振り返り復習すること。
講義目的	本授業では、総合的な学習の時間の目標に掲げられた探究的な見方・考え方を働かせた横断的・総合的な学習を通して、よりよい課題解決、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成の指導について、学習指導要領解説と実践事例をもとに説明することができるようになることを講義目的とする。 また、総合的な学習の時間における、主体的・対話的で深い学びを実現した探究的な学習の過程をグループで設計・相互評価して、実践的な指導の能力を身に付けることを講義目的とする。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Kにもっとも強く関与する。)
達成目標	(1) 総合的な学習の時間の意義と原理 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から指摘できる。(K) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を指摘できる。(K) (2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を説明できる。(K) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を説明できる。(K) (3) 総合的な学習の時間の指導と評価 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを身に付けている。(K) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を説明できる。(K)
キーワード	総合的な学習の時間、探究の見方・考え方、主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング、実践的指導力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業のワークシート・授業後の振り返りレポート45%（達成目標～、の評価）、予習レポート25%（達成目標～、の評価）、学習指導案・教材づくり20%（達成目標の評価）、教材と発表10%（達成目標の評価）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	総合的な学習の時間の指導法（教育課程コアカリキュラム対応 大学用テキスト 理論と実践の融合）/ 大学テキスト開発プロジェクト/ 日本文教出版 / 978-4536601061：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 平成29年7月 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815610
関連科目	教員としての資質・能力として、「教職論」、「教育課程論」を根拠とした教育の方法と技術の理解と実践的な指導力を身に付ける。また、本授業で学んだ総合的な学習の時間の指導を、各教科の教育法に関連付けて転用することを期待する。
参考書	○高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編 平成30年7月、文部科学省（著） ○今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編） 平成22年11月、文部科学省（著）、文部科学省（著） ○今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編） 平成25年7月、文部科学省（著） ○総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校】 平成23年11月、国立教育政策研究所教育課程研究センター（著） ○総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校】 平成24年8月、国立教育政策研究所教育課程研究センター（著）
連絡先	C 3号館 2階 藤本義博研究室 TEL:086-256-9650 Email:fujimoto@dbc.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認すること。
授業の運営方針	やむを得ず授業を欠席した場合は、差し支えない範囲で欠席理由を届け出るとともに、欠席した授業のワークシートを自学自習して提出すること。
アクティブ・ラーニング	主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求められることから、小集団グループ編成で課題解決の学習を生徒の立場で体験すると共に、教師の立場で模擬授業演習を行い、総合的な学習の時間の理論と実践を関連付けて理解することを目指す。
課題に対するフィードバック	反転学習による予習の課題プリントは、授業前に回収し、評価した後次時に返却する。 授業のワークシート・授業後の振り返りレポートは、授業後に回収し、評価した後次時に返却する

	。教材と発表は、「本授業で学んだ総合的な学習の時間の（１）総合的な学習の時間の意義と原理、を活用しているか」、（２）総合的な学習の時間の指導計画の作成の基礎的な能力、（３）総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点の視点で授業内に相対評価をしてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本授業では、教科書と配付資料をもとに反転学習を行った上で授業に臨み、総合的な学習の時間の理解を深化させるとともに、実践的な指導力を身に付けることで、教職を目指す自分自身の成長を実感できるように努力することを期待する。 教職を志すことから、相応の授業姿勢を求める。

科目名	教育実習事前・事後指導(理数技社) (FC00840K)
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき), 安藤豊*(あんどうゆたか*), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 石井一郎*(いしいいちろう*), 荒尾真一*(あらおしんいち*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 洲脇史朗*(すわきしろう*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明するとともに, 教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
2回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 (安藤 豊*)
3回	学習指導案の作成法を説明する。 (全教員)
4回	学習指導案の事例を解説し検討する。 (全教員)
5回	学習指導案を作成する。 (全教員)
6回	学習指導案の板書計画を作成する。 (全教員)
7回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
8回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)

回数	準備学習
1回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて教職・学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
4回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
5回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。

8回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること（標準学習時間180分）。
講義目的	本講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Oにもっとも強く関与している）
達成目標	1．事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができる。（O） 2．事後指導では現場実習の反省を活かすことができる。（O）
キーワード	プレ現場実習、教育実習
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	事前指導では課題のレポートや学習指導案80%（達成目標1.を評価）、事後指導では授業観察等のレポート20%（達成目標2.を評価）により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。（各教科担当者の指示に従うこと）
関連科目	教育実習、教育実習
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
授業の運営方針	・各教科担当者の運営方針に従うこと。 ・事前指導の終了時に、R（保留）かE（不認定）のいずれかの評価が付き、E判定は教育実習が認められない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり、添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育実習事前・事後指導(理数情) (FC00841K)
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき), 安藤豊*(あんどうゆたか*), 草野泰秀*(くさのやすひで*), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 石井一郎*(いしいいちろう*), 荒尾真一*(あらおしんいち*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 洲脇史朗*(すわきしろう*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明するとともに, 教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
2回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 (安藤 豊*)
3回	学習指導案の作成法を説明する。 (全教員)
4回	学習指導案の事例を解説し検討する。 (全教員)
5回	学習指導案を作成する。 (全教員)
6回	学習指導案の板書計画を作成する。 (全教員)
7回	教員採用試験合格体験を聴講し, 成果と課題をまとめる。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)
8回	教育実習後に体験発表会に参加し, 報告書を作成する。 (塗木 利明, 福田 博人, 岡本 弥彦, 藤本 義博)

回数	準備学習
1回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて教職・学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
4回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
5回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。

8回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること（標準学習時間180分）。
講義目的	本講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。（教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Oにもっとも強く関与している）
達成目標	1．事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができる。（O） 2．事後指導では現場実習の反省を活かすことができる。（O）
キーワード	プレ現場実習、教育実習
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	事前指導では課題のレポートや学習指導案80%（達成目標1.を評価）、事後指導では授業観察等のレポート20%（達成目標2.を評価）により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。（各教科担当者の指示に従うこと）
関連科目	教育実習、教育実習
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
授業の運営方針	・各教科担当者の運営方針に従うこと。 ・事前指導の終了時に、R（保留）かE（不認定）のいずれかの評価が付き、E判定は教育実習が認められない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり、添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	介護等体験の基礎と方法 (FC00850K)
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (全教員)
2回	「介護等体験の意義」について説明する。 (全教員)
3回	「障害者福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (全教員)
4回	「高齢者福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (全教員)
5回	「特別支援学校」の概要と体験について講義する。(外部講師) (全教員)
6回	「介護等体験」の実施について説明する。(外部講師) (全教員)
7回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (全教員)
8回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】介護等体験の施設について調べておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】テキストの第4～6回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「高齢者福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】テキストの第7・8回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「高齢者福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】テキストの第9～11回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「特別支援学校」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】テキストの第12・13回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】第2回から第6回までの内容をまとめておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	介護等体験の意義を深く認識し、その内容を幅広く理解し、いかなる教育実践活動においても生徒たちの認識力や心情を慮り、効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Qにもっとも強く関与)
------	--

達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する(Q)。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる(Q)。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる(Q)。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義内容についてのレポート(75%、達成目標の と を評価)と最終回の総括レポート(25%、達成目標の と を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終回の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
教科書	介護等体験の基礎と方法/岡山理科大学教職課程編集/
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：曾我研究室、電話：086-256-9447、E-mail：soga@das.ous.ac.jp ：中島研究室、電話：086-256-9419、E-mail：nakajima@das.ous.ac.jp (オフィスアワーは、ポータルサイトを参照のこと)
授業の運営方針	社会福祉施設と特別支援学校の介護活動の直接担当者を講師に迎え、臨場的かつ実践的な情報を提供していただく。 講師全員から提出していただいた授業構成ノートを編集して授業用テキストを作成し、受講者に配付する。受講者はそれに講師の話のメモをとり、講義終了前の決められた時間内でレポートを作成する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題(予習内容)については、次時の授業での講義等を通して深化させる。また毎回の講義について作成されたレポートは次の授業時に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	この授業の単位を修得した者だけが介護等体験を履修することができる。

科目名	介護等体験の基礎と方法 (FC00851K)
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比兒 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (全教員)
2回	「介護等体験の意義」について説明する。 (全教員)
3回	「障害者福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (全教員)
4回	「高齢者福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (全教員)
5回	「特別支援学校」の概要と体験について講義する。(外部講師) (全教員)
6回	「介護等体験」の実施について説明する。(外部講師) (全教員)
7回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (全教員)
8回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】介護等体験の施設について調べておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】テキストの第4～6回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「高齢者福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】テキストの第7・8回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「高齢者福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】テキストの第9～11回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「特別支援学校」の概要と体験について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】テキストの第12・13回の領域を予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】第2回から第6回までの内容をまとめておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	介護等体験の意義を深く認識し、その内容を幅広く理解し、いかなる教育実践活動においても生徒たちの認識力や心情を慮り、効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 (教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Qにもっとも強く関与)
------	--

達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する(Q)。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる(Q)。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる(Q)。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義内容についてのレポート(75%、達成目標の と を評価)と最終回の総括レポート(25%、達成目標の と を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終回の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
教科書	介護等体験の基礎と方法/岡山理科大学教職課程編集/
関連科目	すべての教職関連科目
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	研究室：曾我研究室、電話：086-256-9447、E-mail：soga@das.ous.ac.jp ：中島研究室、電話：086-256-9419、E-mail：nakajima@das.ous.ac.jp (オフィスアワーは、ポータルサイトを参照のこと)
授業の運営方針	社会福祉施設と特別支援学校の介護活動の直接担当者を講師に迎え、臨場的かつ実践的な情報を提供していただく。 講師全員から提出していただいた授業構成ノートを編集して授業用テキストを作成し、受講者に配付する。受講者はそれに講師の話のメモをとり、講義終了前の決められた時間内でレポートを作成する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題(予習内容)については、次時の授業での講義等を通して深化させる。また毎回の講義について作成されたレポートは次の授業時に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	この授業の単位を修得した者だけが介護等体験を履修することができる。